

備前市文化財保存活用地域計画

令和 3（2021）年 12 月

目 次

はじめに

序章

1 計画作成の背景と目的	1
2 地域計画の位置付け	2
3 計画期間	4
4 備前市の「文化資源」の定義	5

第1章 備前市の概要

1 自然的・地理的環境	6
2 社会的状況	14
3 備前市内の文化施設	19
4 備前市の歴史	21

第2章 文化資源の把握調査の概要

25

第3章 備前市の文化資源の概要

1 文化財類型に基づく文化資源	32
2 日本遺産	40

第4章 備前市の歴史文化の特徴

43

第5章 関連文化財群の概要

1 関連文化財群設定の目的	47
---------------	----

第6章 文化資源の保存・活用に関する課題と方針

1 文化資源の保存・活用に関する現状と課題	76
2 文化資源の保存・活用に関する方針	80
3 関連文化財群の保存活用に関する課題と方針	83

第7章 文化資源の保存・活用に関する措置

1 措置の考え方と重点的な措置について	86
2 措置の概要について	86
3 関連文化財群の保存活用に関する措置	94

第8章 文化資源の防災・防犯に関する課題・方針・措置

96

第9章 文化資源の保存・活用の推進体制

1 推進体制の構築	102
2 今後の体制整備	105

資料編

106

序章

1 計画作成の背景と目的

備前市には国宝 旧閑谷学校講堂、特別史跡 旧閑谷学校、国指定史跡 備前陶器窯跡、丸山古墳、岡山藩主池田家墓所をはじめ、歴史的に貴重な文化資源が数多く残されています。これらの豊かな文化資源は備前市を形成してきた証しであり、地域の人々の営みと関わりながら、受け継がれてきました。

しかしながら、過疎化や少子高齢化に歯止めがかからない中、文化資源を継承する担い手不足、住民の価値観の多様化などにより、備前市の文化資源をどう維持・継承していくのが課題となっています。特に地域の伝統行事や祭り、それらを取りまく豊かな環境など喪失の危機に瀕しているものも少なくありません。こうした豊かな文化資源は十分に調査・把握がされておらず、保存・活用に関する課題も明確化されていません。また保存や活用のための人材育成、地域の伝統行事や祭り継承の担い手育成などに係る課題も多く残されています。一方でこの課題解決には、豊かな歴史文化、自然を生かした新たな魅力づくりにより、観光資源としての活用や地域への愛着や誇りを感じられるような取り組みも必要となります。

そうした中、備前市では、豊かに恵まれた文化資源を周辺の環境や自然を含めて長期的、計画的に保存・活用するため、平成 26(2014)年 3 月、歴史文化を活かしたまちづくりのマスタープランとなる「備前市歴史文化基本構想」を策定しました。この基本構想に基づいて備前市の文化財行政を進め、平成 30(2018)年 2 月には、「備前陶器窯跡」が国指定史跡に追加指定されました。それにともない「史跡備前陶器窯跡保存活用計画書」を令和 3 年(2021)3 月に策定し、本史跡の適切な保存・活用を進めています。このほか、未調査の仏画、肖像画を対象とした調査・把握の実施、ワークショップなど地域学習ができる場としての文化施設の活用等、様々な取り組みも展開されています。このようにこの基本構想に基づく取り組みは少しずつ歩みを進めています。今後これらをさらに発展させ、地域に誇りと愛着を持った市民による地域振興や歴史文化を活かしたまちづくりにより、魅力を高め、来訪者から何度も訪れたいくなる地域となり、地域に住む人々と来訪者とのつながりが生まれていくことが期待されています。

一方で、守られ引き継がれる文化資源は、未来を担う子供たちのかかわりが大切になります。そのため「備前市教育に関する大綱（平成 30(2018)年 11 月 30 策定）」では、大きなテーマの一つとして「郷土を愛する心」を育むことをあげています。本計画と連携する

ことで、より豊かな文化資源を活かしたまちづくりが、人材育成の面からも進めることができるようになります。

本計画は、市民、民間事業者、行政、専門家など多様な実施主体が、緊密な連携を取りながら、本市の歴史文化を総合的・計画的に保存・活用していくための基本計画および活動（実施）計画として位置づけるもので、文化財保護法第 183 条の 3 に基づき、「備前市文化財保存活用地域計画」（以下「地域計画」という）を作成するものです。

2 地域計画の位置付け

令和 3(2021)年 9 月に策定の「第 3 次備前市総合計画・第 2 期総合戦略」の基本理念に基づき、各担当部局が具体的施策として各種事業を計画実施していきますが、その中で文化財保護行政の担当部局が文化財保護・活用を目的としたマスタープラン・アクションプランとして地域計画を作成するとともに、地域計画は岡山県文化財保存活用大綱に沿うものとします。従って地域計画は備前市教育に関する大綱、都市計画マスタープランなど各種施策と整合性を保ちながら、歴史文化、それを取りまく環境を生かしたまちづくりを進めるための計画となります。

上位計画及び主な関連計画の概要は以下のとおりです。

(1) 第 3 次総合計画・第 2 期総合戦略

＜令和 3(2021)年度作成予定、令和 3(2021)年度～令和 12(2030)年度＞

備前市のまちづくりの指針となる最上位計画です。人口の減少・少子高齢化の進展、それに伴う地域の活力の低下、そして、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症への対応などの社会潮流の変化をとらえ、より社会の実情や市民のニーズに即した計画とすることで、持続可能なまちづくりを推進するものです。

(2) 教育に関する大綱

＜平成 30(2018)年 11 月策定、平成 30(2018)年 11 月～令和 5(2023)年 3 月＞

備前市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策についての方針となる教育大綱では、「すべては子どもたちのために」を基本理念とし、項目ごとに重点取組方針を定めています。

(3) 都市計画マスタープラン

＜平成 22(2010)年 3 月策定、令和元年 9 月一部改訂、計画期間を定めず＞

都市計画法第 18 条の 2 に規定する「市町村の都市計画に関する基本的な方針」とし

て、都市計画の観点から長期的な視点にたつて、地域における動向に対応し、将来の都市計画に関する基本的な方針を定めています。

(4) 地域防災計画

＜平成 31 年(2019)年 3 月改訂、計画期間を定めず＞

災害対策基本法第 42 条の規定に基づき、災害予防、災害応急対策及び災害復旧の円滑な実施を図り、市域の保全と住民の生命、身体及び財産を保護し、被害を最小限に食い止め、社会秩序と公共の福祉の確保を図ることを目的としています。計画は「風水害対策編」と「震災対策編」の構成となっています。

(5) 公共施設個別施設計画

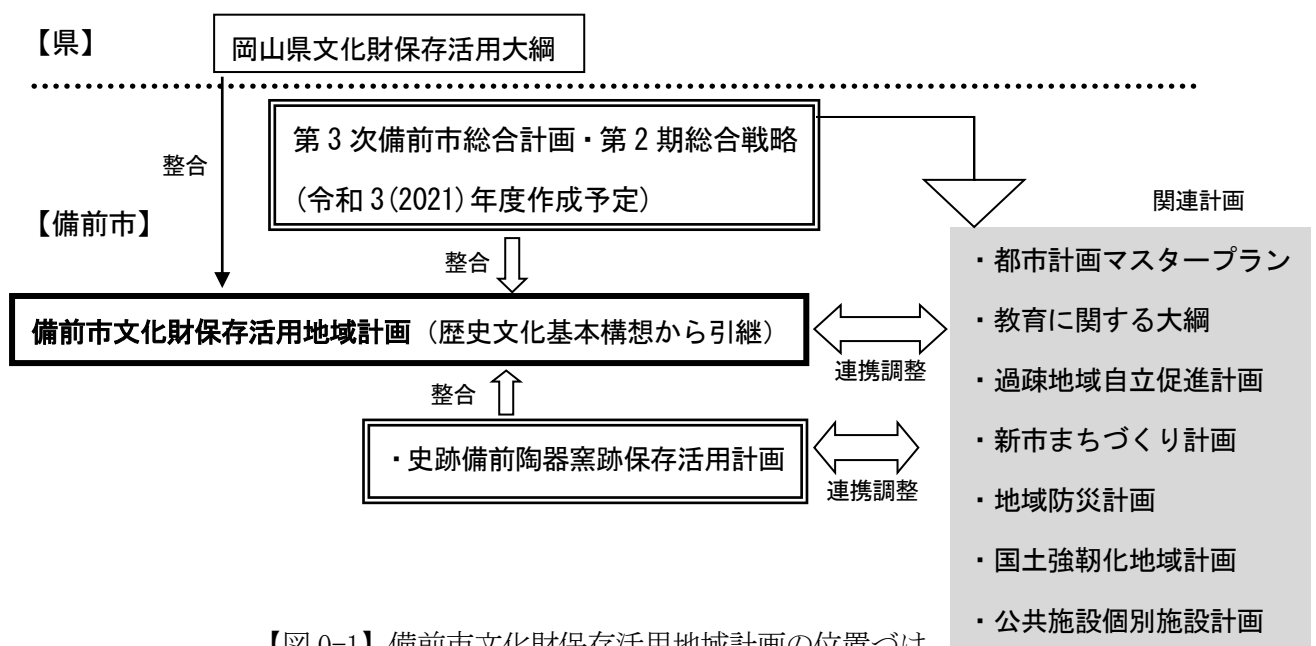
＜令和 3(2021)年 3 月策定、令和 3(2021)年度～令和 12(2030)年度＞

市が保有する公共施設等の総合的かつ計画的に管理するための基本的な方針を示し、劣化度や施設の重要性などに応じて施設ごとの今後の取り組み方針を定め、優先的に対策を行う施設の明確化を行っています。

(6) 史跡備前陶器窯跡保存活用計画

＜令和 2(2020)年 3 月策定、令和 2(2020)年度～令和 11(2029)年度＞

史跡備前陶器窯跡は、昭和 34(1959)年の伊部南大窯跡の史跡指定以来、各種調査成果等から周辺の古窯跡が追加指定を受け、日本遺産の構成要素に位置づけられるなど、備前焼の歴史や価値を示す史跡であることから、本史跡を適切に保存・活用し、史跡の価値を正しく次世代へ継承していくために策定されました。



【図 0-1】 備前市文化財保存活用地域計画の位置づけ

3 計画期間

地域計画の計画期間は、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度の10年間とします。

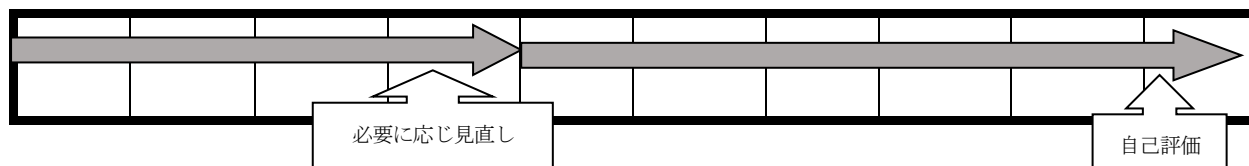
地域計画に示した措置は、PDCA サイクルマネジメント(「Plan (計画)」「Do (実施・実行)」「Check (点検・評価)」「Action (処置・改善)」を通じて継続的に改善する手法)による進捗管理を適切に行うとともに、その状況を備前市歴史文化総合活用推進協議会へ報告します。なお、第3次備前市総合計画・第2期総合戦略の前期計画期間終了後、令和7(2025)年度の次期総合計画改定に伴い地域計画の着実な実施のため、事業成果の検証・点検を行い、必要に応じて見直しを実施するものとします。

見直しの結果、計画期間の変更、市域内に存する文化資源の保存に影響を与える恐れのある変更及び地域計画の実施に支障が生じる恐れのある変更などを行う場合は、計画変更について文化庁に申請し認定を受けるものとします。また、それ以外の軽微な変更を行う場合は、当該変更内容について岡山県を經由して文化庁に報告を行います。

○第3次備前市総合計画・第2期総合戦略

2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2024年 (令和6年)	2025年 (令和7年)	2026年 (令和8年)	2027年 (令和9年)	2028年 (令和10年)	2029年 (令和11年)	2030年 (令和12年)
市長任期（4年間）				市長任期（4年間）				市長任期（4年間）	
基本構想（計画期間：10年間）									
前期基本計画（計画期間：4年間）				後期基本計画（計画期間：4年間）				● 基本構想の見直し ● 次期計画への移行	
中期財政計画（計画期間：4年間）				中期財政計画（計画期間：4年間）					

○備前市文化財保存活用地域計画



【図0-2】計画期間

4 備前市の「文化資源」の定義

文化財保護法の定義する「文化財」とは、有形文化財(建造物・美術工芸品)、無形文化財(演劇・音楽・工芸技術)、民俗文化財、記念物(遺跡・名勝地・動物、植物、地質鉱物)、文化的景観、伝統的建造物群の6つの種類に区分され、保存技術、埋蔵文化財も保護の対象になっています。このうち、重要なものは指定、選択、選定、登録することにより保護の措置が図られてきました。また、岡山県文化財保護条例や備前市文化財保護条例に定める「文化財」の概念も、文化財保護法に準じています。

一方、近年、地域の歴史文化の価値が見直されるなかで、地域の人々の暮らしと深く関わり、地域の個性を示す歴史的・文化的・自然的な遺産の価値が見直されています。これらの歴史的・文化的・自然的な遺産は、地域の人々の暮らしや歴史との関りを通じて形成されてきた、相互の関係や周辺環境との関係などを示す幅広い物事・事象を含むため、これまでの「文化財」の枠組みだけではとらえることが難しくなっています。

そこで、本地域計画では、指定・未指定に関わらず、人々の長い営みの中でそれぞれの地域で生まれ、はぐくまれ、現在もその地域と有機的な関係にある「もの」や「こと」を、地域を維持し動かしていく資源と考えます。それを人々が共通して大切に思えるよう備前市の「文化資源」と呼称し、市民共有の財産と考えていきます。

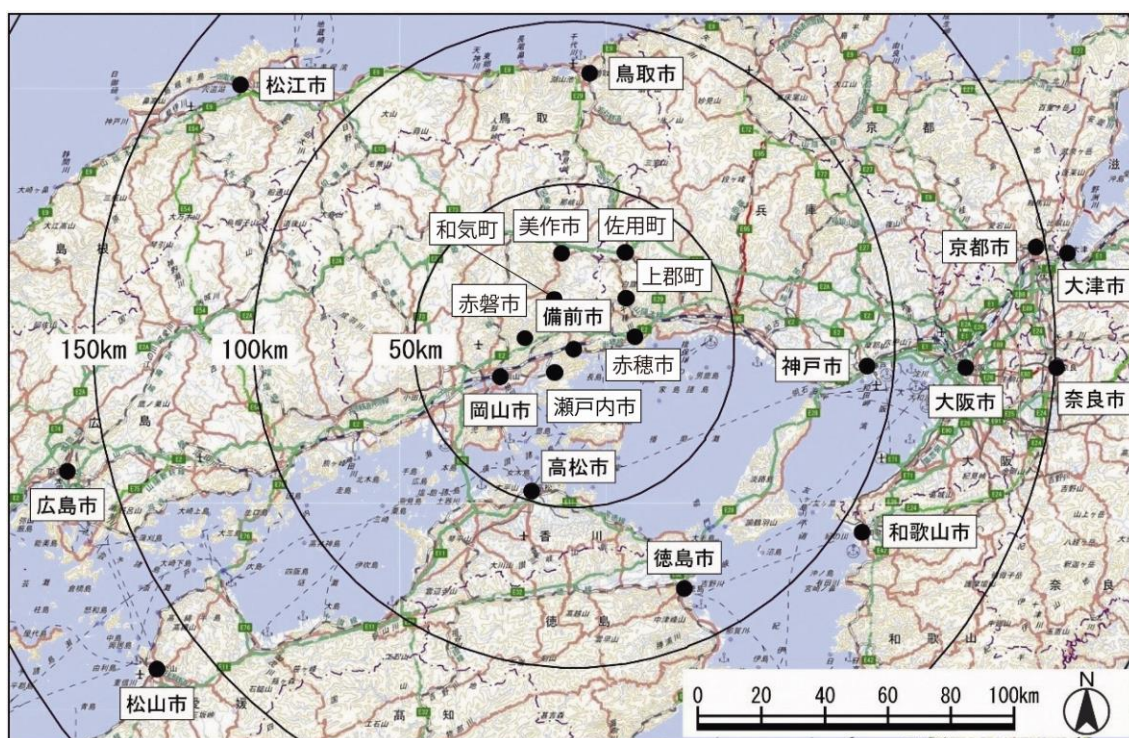
第1章 備前市の概要

1 自然的・地理的環境

(1) 位置・地名

本市は、岡山県南東部、兵庫県との県境に位置しており、北緯 34 度 44 分、東経 134 度 11 分に位置します。行政区は、旧備前市の西鶴山・香登・伊部・片上・伊里・東鶴山・三石地区と旧吉永町の吉永地区、旧日生町の日生地区の 9 地区に分かれています。

市北部、旧吉永町は東に兵庫県佐用郡佐用町、赤穂郡上郡町に接し、北は美作市に接する南北に長い地域です。市域の南東部旧日生町は、東は兵庫県赤穂市、南は瀬戸内海に面しています。市域の西部旧備前市は和気町、赤磐市、岡山市、瀬戸内市に接しています。面積は 258.14km²、岡山県の中で約 3.6% を占めています。県庁所在地である岡山市からは、直線距離で約 25 km 離れています。吉永地区、三石地区は J R 山陽本線、香登地区、伊部地区、片上地区、伊里地区、日生地区、寒河地区は J R 赤穂線の沿線となっています。



【図 1-1】備前市の位置

広域位置図(地理院地図を基に作成)

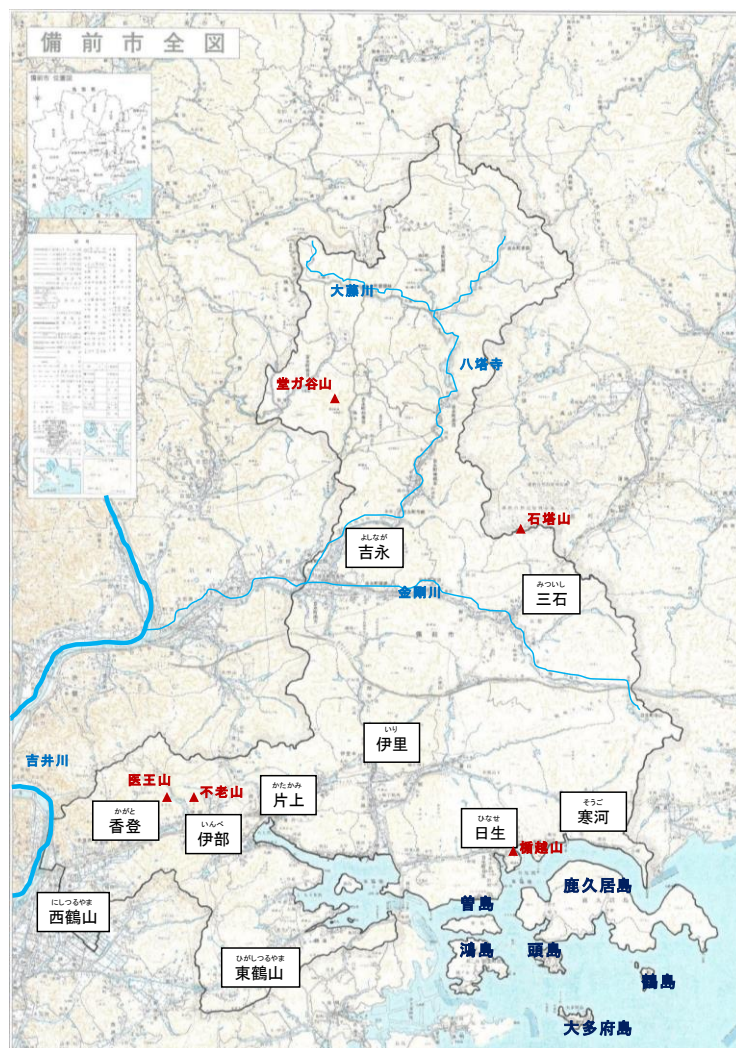
(2) 地勢

岡山県の南東部に位置する備前市は、中部に片上湾を擁し、西端には、岡山県三大河川の 1 つ吉井川が流れています。備前市の地形は、階段状に降下する山々が直接海に至る典型的な沈降海岸で、総面積の約 80% を山林が占めています。

岡山県の東南端に位置する日生町は、山地が海にせまり平地が少ない本土と瀬戸内海に浮かぶ大小 13 の日生諸島からなっています。主に岡山下最大の島である鹿久居島、日生諸島で最も人口が多い頭島、江戸時代に水上交通の要所として在番が設けられた大多府島、キリシタン流罪地の鶴島、別荘地として栄えた鴻島などが展開しています。

岡山県の東南部に位置する吉永町は、四方を山で囲まれており、町の中央部を北から南へ流れる八塔寺川、南部を東から流れる金剛川にそって帯状に平地が開けています。

備前市の西部、香登地区^{にしつるやま}から西鶴山地区にかけては吉井川左岸に当たり沖積平野の平坦地が広がり、伊部地区から三石地区にかけては急峻な山並みが続き、平坦地が谷に沿って細長く開けています。これは埋積谷^{まいせきこく}とよばれる地形で、後氷期^{こうひょうき}の海面上昇によって瀬戸内海に入り込んだ海水によって谷が沈水^{ちんすい}し、おぼれ谷になるのに対し、海水の侵入が緩やかで、堆積作用^{たいせきさよう}が優勢である場合に形成される地形です。片上大橋がかかる片上湾はおぼれ谷の典型で、その縁辺部の東鶴山地区、伊部地区、片上地区、伊里地区などに埋積谷の細長い平坦地が形成されています。



【図 1-2】 備前市地区別全図

(3) 市の変遷

備前市は、「平成の大合併」により、平成 17(2005)年 3 月 23 日に旧備前市、旧日生町、旧吉永町が合併し、新「備前市」として誕生しました。また、前述の 1 市 2 町は「昭和の大合併」で誕生しています。

時期	行政区域																
M22~S26	伊部町	片上町	(旧伊里村)	伊里町	香登町	鶴山村	和気郡	鶴山村	邑久郡	三石町	日生町	福河村	(旧英保村)	吉永町	神根村	三国村	
S26~S30	備前町										日生町	福河村	(旧英保村)	吉永町	神根村	三国村	
S30~S46	備前町																
S46~H17	備前市																
H17~	備前市																

【図 1-3】 備前市の変遷

(4) 地質

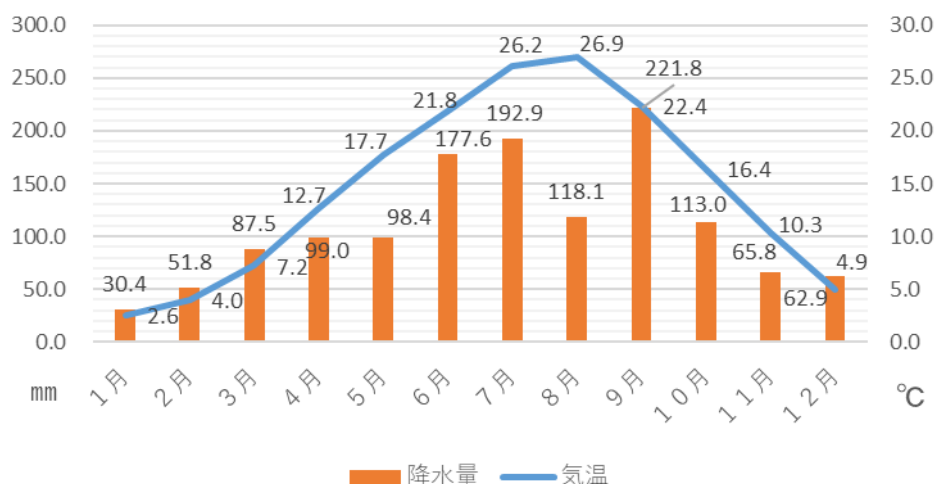
市域は、ほとんどが中生代の流紋岩類からなりますが、三石地区、西鶴山地区(畠田)^{はたけだ}周辺などには中生代以前の泥質岩などが、吉永地区の和意谷^{わいだに}、堂ガ谷山などには中生代の安山岩類が小面積に分布しています。また、主な河川の流域及び湾に面した狭い平野部には沖積層が分布しています。

備前焼の産地である伊部地区は、山間低地の粘土質層、シルト質層および砂礫層が、西鶴山地区には吉井川沿いに堆積した砂礫層などが堆積しています。山間低地あるいは山麓に堆積している沖積層の厚さは比較的薄く、数m以内であると言われています。この沖積堆積物の一部が備前焼の原料粘土として古くから採掘されてきました。

出典：備前市植物目録、神谷雅晴、須藤定久「備前焼とその粘土」地質ニュース 609 号

(5) 気象

気候は瀬戸内式気候に属し、平成 20(2008)年から平成 30(2018)年の年平均気温 14.7℃、年間降水量 1,383.0 mmとなっています。これは温和で晴天が多く、典型的な瀬戸内式の気候です。昭和 49(1974)年、昭和 51(1976)年、平成 2(1990)年には台風による豪雨で甚大な被害を受けました。



【図 1-5】過去 10 年間 (H21～H30) 平均気温・降水量の推移

出典 和気地域気象観測所のデータによる(岡山地方気象台)

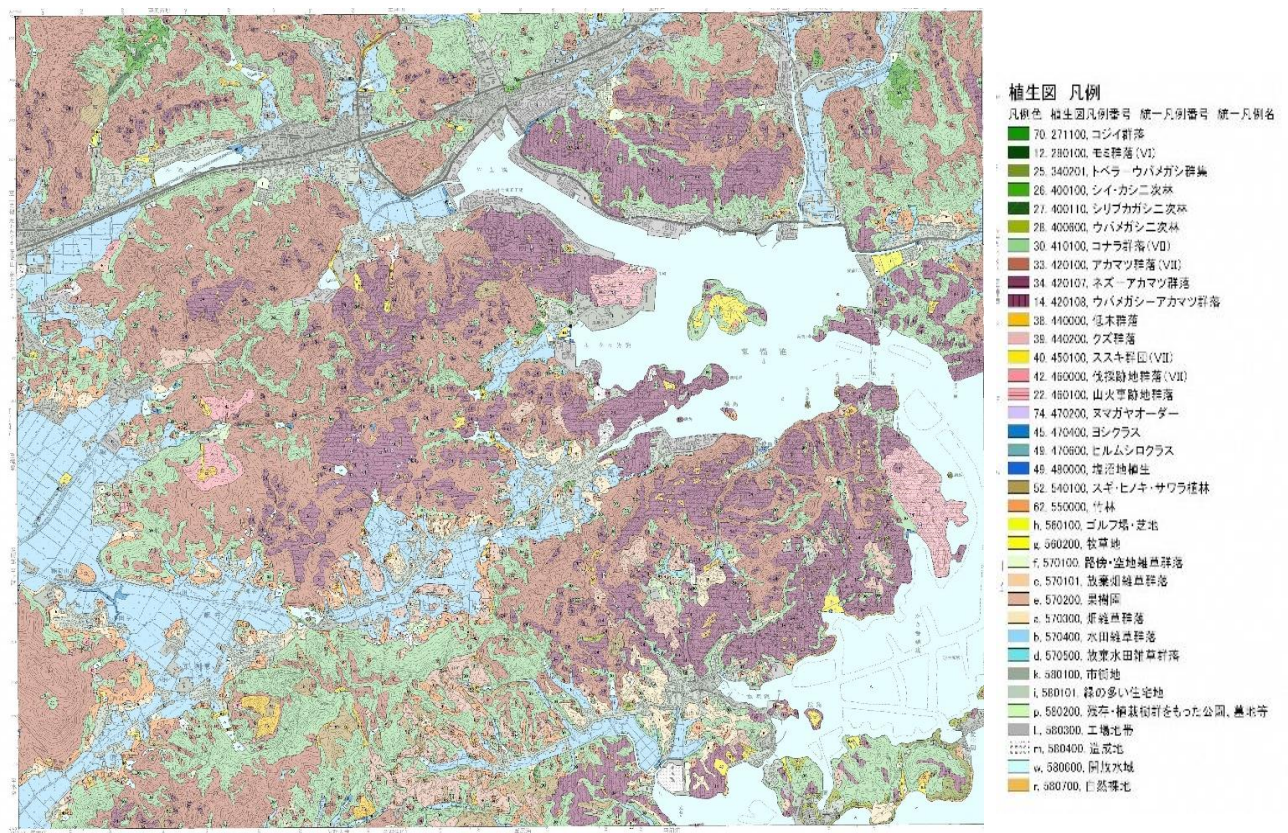
(6) 動物

最近では全国的にニホンジカが分布を広げ、岡山県でも県域東部の広い範囲に見られるようになって、備前市内でも個体数が増加しています。日生海岸・日生諸島は旅鳥の探鳥地として知られ、カモ類、シギ類、カモメ類、イソヒヨドリ、オオジュリンなどが見られます。市域北部の吉永地区(加賀美・多麻)ではモリアオガエルの生息が確認され、繁殖期には泡で包まれた卵塊を樹上で見ることができます。昆虫類では鹿久居島が暖地性の種の多い島として知られています。吉永地区(多麻)の滝谷神社社叢ではヒメボタルの発生が知られています。

(7) 植物

沖積平野の平坦地は市街地や造成地、水田、畑地などとして利用されています。河川沿いには狭いながらもヨシやマコモなどからなる河辺植生があり、河口部にはウラギク、シ

バナ、ハマナツメなどの塩生植物が生える干潟がわずかに見られます。海岸線は複雑に入り組み、砂浜やれき浜、磯浜などがありますが、市街地付近ではほとんど自然海岸は残されていません。砂浜に生えるハマナツメは岡山県内ではほぼ備前市でしか生育が確認されていません。伊部地区や三石地区、伊里地区(閑谷)のため池には、サンショウモ、サイコクヌカボ、チョウジソウなどの絶滅危惧種が生育していることがあります。伊里地区にある旧閑谷学校の周辺地域や伊部・三石地区の市街地背後の丘陵地、吉永地区(八塔寺)など、丘陵地の多くはアカマツ林であるが、松枯れなどによって次第にアベマキ、コナラを主体とした夏緑広葉二次林に遷移しつつあります。また、近年では減少傾向ですがコバノミツバツツジも低丘陵部に群生が見られます。東鶴山地区、鹿久居島などには丘陵地の一部に湿地があり、モウセンゴケ類やミミカキグサ類などの食虫植物が見られます。香登地区の福生寺周辺や吉永地区(加賀美)の日吉神社周辺、伊部地区(久々井)の八幡宮周辺、伊里地区(麻宇那)の石立神社周辺などでは潜在自然植生と考えられるシイノキやカシ類を優占種とする常緑広葉樹林が残存しています。日生諸島や日生地区の高良八幡宮周辺のように、島嶼部や本土側の海に面した急崖地ではウバメガシが優占する海岸林が見られます。丘陵地の一部にはスギ、ヒノキの植林地や竹林が見られる場所もあります。出典：備前市植物目録



【図 1-6】 備前市の植生

出典：「自然環境調査 Web-GIS 1/25,000 植生図(片上)」(環境省生物多様性センター)

(8) 景観

①沿岸地域の景観

瀬戸内海に面して、古くから漁業と海運業で栄えた日生地区は、大小の島々からなる日生諸島があり、豊かな自然と多島美が広がります。現在も日生港には魚介類が水揚げされているほか、昭和 36(1961)年頃からカキ養殖が盛んで、海に浮かぶカキ筏は、この地域の特徴ある景観をつくりだしています。



日生港

日生地区は階段状に降下する山々が直接海に至る典型的な沈降海岸の地形で、平地は僅かですが、沿岸に面して家並みが形成されています。

日生地区と市街地である片上地区を結ぶ伊里地区は、東部に岡山藩による新田開発によって造成された「井田」^{せいでん}が、現在も水田として地域住民によって守り伝えられています。市西部は大正時代から耐火煉瓦^{れんが}会社が操業を続けており、立ち並ぶ煙突群は独特の景観を形成しています。



片上市街地の耐火物工場

日生の島しょ部の西側、瀬戸内海が深く入り込む片上湾は、市役所がある片上地区が湾の最深部にあたり、奈良時代から現代まで港として発展した地域です。

②市街地域の景観

片上地区は、近世山陽道沿いの宿場町として繁栄してきました。大正 12(1923)年から平成 3(1991)年までは、硫化鉄鉱を主に運搬する片上鉄道の終着点としても栄えていきました。現代では、市街地が広がっています。



伊部の町並み

片上地区の西側に位置する伊部地区は、北を中心に中世から脈々と窯の築かれた山が広がり、南側も山が立地する盆地のような地形で、西側には大ヶ池が横たわっています。平野部には明治時代に直立の煙突をもつ個人窯がつくられはじめ、現在の窯業地の景観が形成されていきます。現在では窯元や作家が軒をつらね、煙突から立ち上がる煙は、伊部地区を訪れる多くの備前焼愛好者や観光客を楽しませています。市東部の三石地区は、山々を取り囲む盆地に市街地が形成され、全国的にみても古くから耐火煉瓦産業が盛んで、多くの採石場や耐火煉瓦工場が現在も立ち並び明治時代の面影を今も残しています。また、採石場である台山は年々その姿を小さくしています。市西部の香登地区は、西に吉井川が流れており、新幹線の路線とほぼ並走している旧山陽道に沿って、宿場町の様相を垣間見ることができる商家跡が立ち並んでいます。

③中山間地域の景観

備前市内においても最大の山林を有する吉永地区は、八塔寺川と金剛川が合流する和気町と隣接した地域を中心としており、西に和気町、東に三石地区と山合に形成されています。東西を山陽本線が結び、沿線にある吉永地区ふくみつにあるたくらうしがみしや田倉牛神社には正月5日に大勢の参拝客で賑わいます。標高400



吉永の中山間地域

mの高原に位置する吉永地区の八塔寺は、約1,200年前、道鏡が開基したと伝わる山岳信仰の古刹で、「西の高野山」とも称された場所です。八塔寺を中心に開けたといわれる地域であり、現在でも茅葺き民家や寺院が日本古来の農村景観を伝えていることから、「八塔寺ふるさと村」として映画やドラマのロケ地としても使用されています。また、市内には多くのため池が見られ、特に東鶴山地区ではたくさんのため池が地域の景観を作っています。

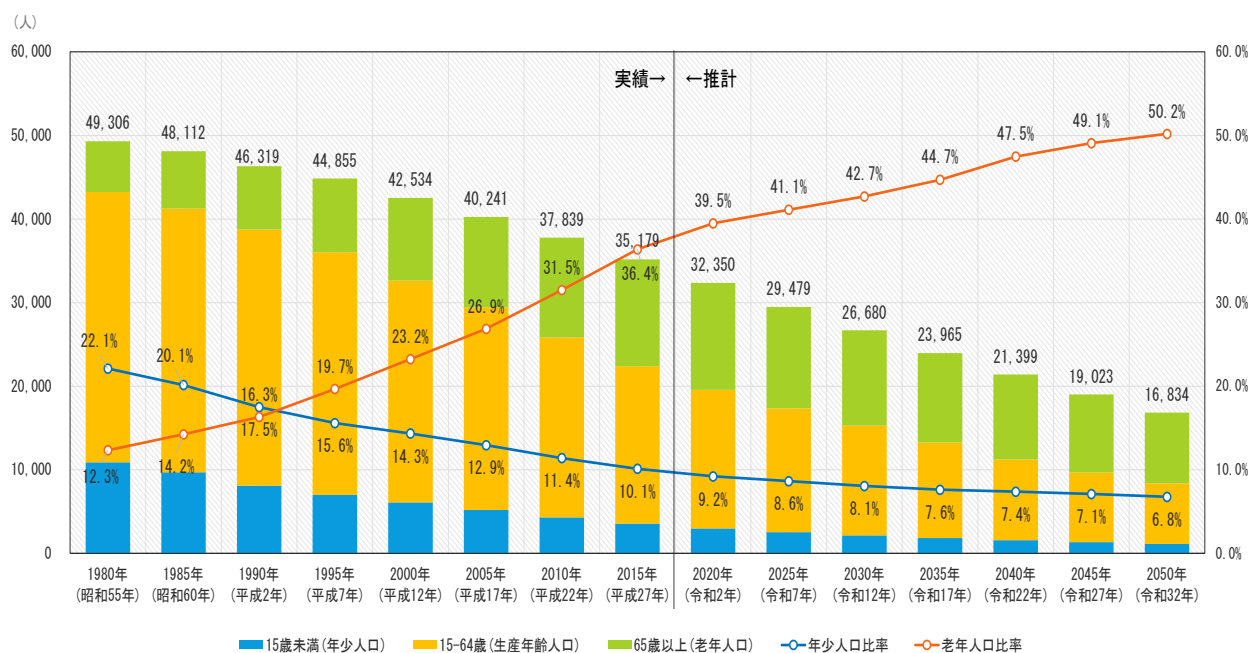
2 社会的状況

(1) 人口

備前市の人口は昭和 50(1975) 年をピークに減少し続けています。年齢別の人口の推移は、15 歳未満の年少人口及び 15～64 歳の生産年齢人口が減少する一方で、65 歳以上の老年人口は増加しています。

人口動態の推移については、自然動態は、死亡数が出生数を年平均約 300 人うわまわっています。また社会動態は、転出数が転入数を年平均約 200 人うわまわっています。特に 20 歳から 30 歳代の転出が多く、進学や就職のタイミングだけでなく、子育て世代の転出が多くなっています。

将来、推定人口は令和 12(2030)年には 26,680 人、令和 32(2050)年には 16,834 人と大きく減少の見込みとなっています。特に日生諸島や吉永地区北部の山間部の地域の人口は、他の地域の人口よりも減少していくことが予測されている厳しい状況です。



【図 1-7】 備前市の人口の推移

出典 実績値:国勢調査、推計値:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

【表 1-1】地区別人口の見通し

No	地区	人口		
		平成 27 (2015) 年	令和 27 (2045) 年	減少率
1	西鶴山	1,389 人	818 人	41.1%
2	香登	2,568 人	1,629 人	36.6%
3	伊部	6,344 人	3,678 人	42.0%
4	片上	3,566 人	1,809 人	49.3%
5	伊里	5,769 人	2,989 人	48.2%
6	東鶴山	1,532 人	711 人	53.6%
7	三石	2,550 人	1,181 人	53.7%
8	日生	3,925 人	2,047 人	47.8%
9	寒河	2,571 人	1,545 人	39.9%
10	諸島部	438 人	139 人	68.3%
11	吉永	3,583 人	2,052 人	42.7%
12	神根	717 人	330 人	54.0%
13	三国	227 人	95 人	58.1%
—	合計	35,279 人	19,023 人	45.9%

出典：2015 国勢調査結果／2045 人口メッシュデータより推計

* 備前市の地域区分では、10 は 8・9 へ、12・13 は 11 へ含まれます

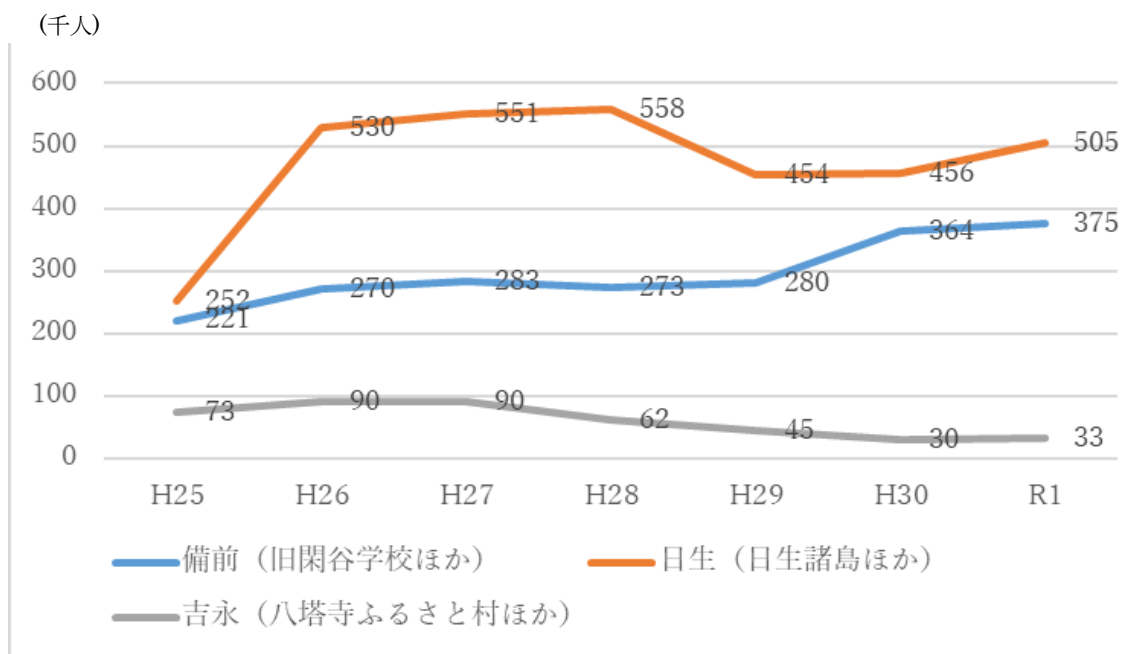
(2) 産業

商工業は、耐火物製造業を中心に精密機械、化学、医薬品、鉄鋼、運輸など多様な業種が進出しています。また、近年、大型商業施設の進出も見られます。

農業については稲作中心に営まれており、一部地域でモモ、ブドウ、イチジク、ミカンなどの果樹栽培が見られます。

水産業については、カキ養殖業を中心とした漁業が盛んに行われています。また、市内に 2 箇所ある魚市場は、観光地としても知られています。

観光については、瀬戸内海国立公園をはじめとする風光明媚な景観や、日本遺産である特別史跡旧閑谷学校や、日本有数の窯業地で本市の特産である備前焼の産地として文化資源を有し、さらには山海の豊富な幸など、資源に恵まれています。



【図 1-8】観光地の観光客数

出典：令和 2 年度岡山県観光客動態調査報告書

(3) 交通

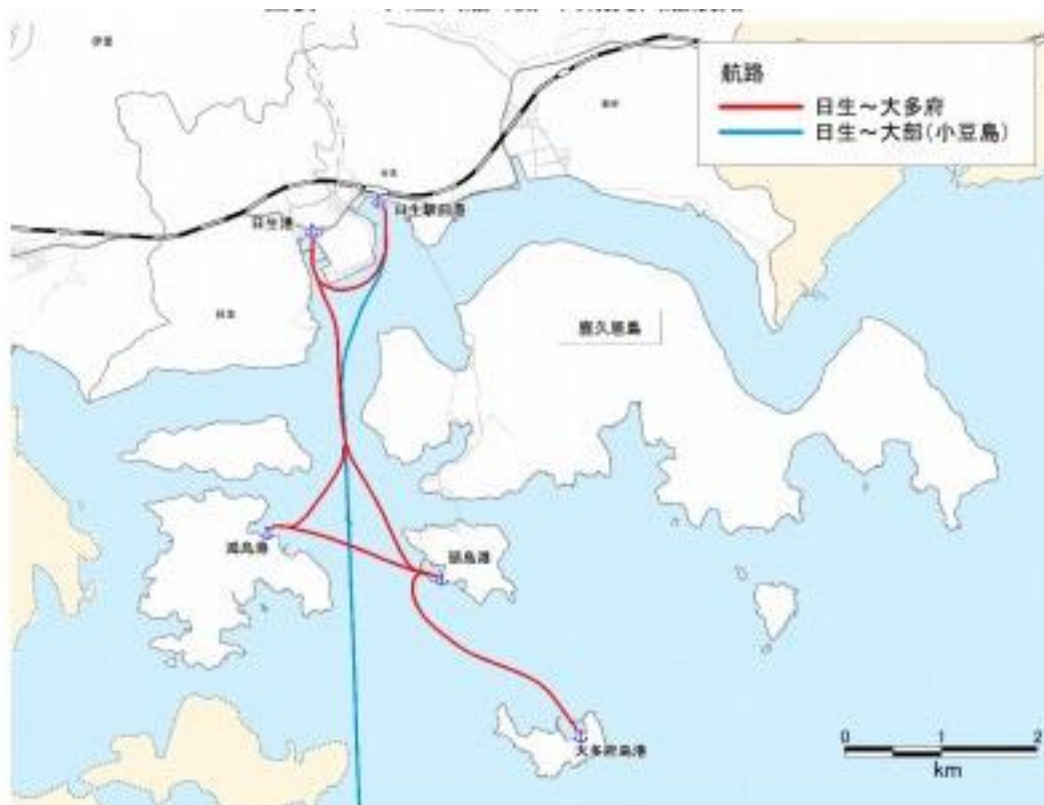
今日の備前市内の公共交通機関として、鉄道、市営・民間バス、定期船が挙げられます。

JR 西日本山陽本線には三石駅、吉永駅があり、JR 赤穂線には寒河駅、日生駅、伊里駅、備前片上駅、西片上駅、伊部駅、香登駅と多数の駅があり、各駅が市民の生活基盤となっています。

備前市内を市営バスと民間路線バス等が運行しています。令和 2(2020)年 3 月時点、市内の路線は、市営バスが日生線、三石線、東鶴山線、福石線、吉永線、八塔寺線、南北閑谷学校のぞみ線、三国和意谷線、寒河蕃山伊里線、頭島線となっており、東西南北の主要道路を結んでいます。また市外からは、片上から岡山駅までを宇野バスが、吉永病院からイオン赤穂店を東備西播定住自立圏域バスが、和気駅から片上及び吉永病院までを和気町営バスが、瀬戸内市営バスは長船駅から備前市新庄を経由し瀬戸内市長船町東須恵の美和をつなぎ、それぞれ運行しています。

主要幹線道路は国道 2 号、250 号、374 号、484 号のほか、岡山ブルーラインから山陽自動車道備前 IC へのアクセスも良いため、多くの自動車が利用しています。

また、日生諸島と本土を結ぶ定期船は、1 社の汽船会社が運行しており、鴻島・頭島・大多府島と本土を結ぶ重要な交通手段となっています。他にも香川県の港である小豆島とも航路を結んでいます。

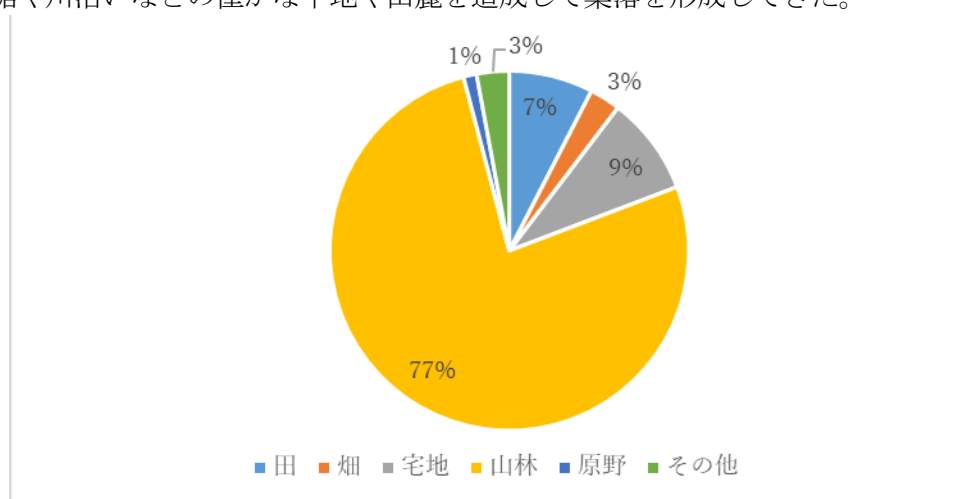


【図 1-10】大生汽船・瀬戸内観光汽船航路

出典：備前市地域公共交通網形成計画

(4) 土地利用

備前市の総面積は 258.14 km²で、平成 27(2015)年 10 月の統計以降変化していません。地域の約 80%が山地で構成されており、宅地は約 9%で、一定の広さをもつ平地に乏しいが、山裾や川沿いなどの僅かな平地や山麓を造成して集落を形成してきた。



【図 1-11】令和 2 年度地目別民有地面積

出典：備前市の統計

3 備前市内の文化施設

【表 1-2】 備前市内の文化施設等一覧（令和3年4月1日現在）

名称	特徴	収蔵品	住所	備考
備前市歴史民俗資料館	発掘された資料や古備前などを展観し備前焼の歴史を紹介するほか、正宗白鳥、柴田錬三郎、藤原審爾、小手毬るい、末井昭など備前市ゆかりの小説家等の作品を展示。	備前地域の古文書、歴史資料、民俗資料等数万点を収蔵。	東片上385	平成3(1991)年開館 (昭和26年竣工の建物)
備前市加子浦歴史文化館	温故知新を基本に海と人を活かす町をテーマに生活や産業の歴史を展示。	日生地域の古文書、歴史資料、漁具を特徴とする民俗資料等数万点を収蔵。	日生町日生801-4	平成9(1997)年開館 (江戸時代末の建築の建物を利用)
備前市吉永美術館	吉永地域の歴史文化を紹介する施設。	江戸時代に生きた郷土出身の漢学者でもあり書家でもある武元登々庵とその弟君立の作品を収蔵。制札など含めて数千点を収蔵。	吉永町吉永中885	平成2(1990)年開館
備前市埋蔵文化財管理センター	埋蔵文化財の保存・活用を図るための施設。発掘調査、出土品の適切な保存管理、調査研究、活用公開などを通して、埋蔵文化財を地域の資産として後世に引きつぐ。	備前市域内の遺跡等で出土した埋蔵文化財数万点を収蔵。	伊部974-3	平成23(2011)年開館 (昭和46年設置の岡山県工業技術センター備前陶芸センター本館の無償譲渡)
備前市立備前焼ミュージアム	800有余年歴史がある備前焼の歴史を古備前、江戸時代の資料、近現代の作家作品を通して展観する。	古備前から現代に至る作品及び資料と、備前焼関連の資料数千点を収蔵。	備前市伊部1659-6	平成27(2015)年開館 岡山県備前陶芸美術館を備前市に無償譲渡
FAN美術館	備前焼の人間国宝 藤原啓記念館、アートオリンピアの受賞作品、人間国宝美術館の3つのアートプロジェクトが集合。	重要無形文化財保持者(人間国宝)藤原啓の作品をはじめ備前焼作品を数千点を収蔵。	徳浪3868	平成29(2017)年開館
BIZEN中南米美術館	日本唯一の古代中南米美術館。世界の七大文明中、日本の歴史教育の空白にある三大(メキシコ中央高原、マヤ、中央アンデス)文明と周辺文化を紹介。	古代中南米美術品数千点を収蔵。	日生町日生241-10	昭和50(1975)年開館

* 岡山県内76美術館・博物館等の案内ガイド「おかやま博物館めぐりの旅」をもとに作成

* このほか岡山県博物館協議会加盟の施設ではないが関連する施設として、正宗文庫、柴田錬三郎生家、八塔寺ふるさと村民俗資料館などがある。



備前市吉永美術館



BIZEN 中南米美術館



備前市歴史民俗資料館



備前市加子浦歴史文化館



備前市埋蔵文化財管理センター



備前市備前焼ミュージアム



FAN 美術館

【図 1-12】 備前市文化施設位置図

4 備前市の歴史

(1) 先史(縄文時代・弥生時代・古墳時代)

今から 4,000 年前の縄文時代中期末、片上の地に竪穴式住居数棟からなる集落が形成されます。^{ながなわていせき}長縄手遺跡と呼ばれ、研究上重要な遺跡のひとつとなっています。岡山県の南部は、弥生・古墳時代を通じて多くの集落跡や巨大古墳があります。備前市はその南東端、岡山県三大河川の吉井川左岸にあたります。備前市の西半分は、船山遺跡の弥生時代の集落や円墳としては県内第 3 位の規模を誇る丸山古墳などの遺跡が多く所在します。一方東半分は急峻な山並みが連続し、三石にかけての県境は、弥生・古墳期の遺跡が非常に希薄な地域です。逆にその交通のさまたげともなる地形が、政治・交易などの面で一定の範囲に文化圏が集約しやすいという地域の特徴を生み出しました。

(2) 古代(奈良時代・平安時代)

奈良時代、兵庫県境に近い三石には古代山陽道の坂長^{さかなが}の馬屋^{うまや}が設けられます。一方、備前国の東部、標高 400m を超える山並みが連続する熊山山塊^{かいだん}では、戒壇と呼ばれる石積み^{いしづみきだんぐん}の仏塔を中心に石積基壇群が形成されていきます。その後、熊山の南麓には渡来系氏族秦氏^{はたし}がかかわったと言われる香登寺^{かがと}が造営されました。

現在、備前市役所が置かれている片上の地は当初^{おくのごう}邑久郷に属していました。天平神護 2(766)年^{ふじのごう}に藤野郷(のちの和気郡)に編入されますが、入り組んだ湾の最深部に美作国の津が設けられ、重要な役割をはたしました。その後、片上の地は山陽道が北回りの和気を経由するルートから、南回りの片上・福岡に変わったことで、交通の要衝として発展していきます。

(3) 備前焼の歴史(平安時代末頃～現代)

備前焼は、7 世紀頃より瀬戸内市内の^{おくこようせきぐん}邑久古窯跡群で連綿とつくられていた須恵器の生産が終わる平安時代後期、それに呼応するかのように伊部地区を中心に生産が開始されるやきものです。中世後半、播鉢・壺・甕などの堅牢さが多くの需要を生み、さらには^{しよくほうき}織豊期、焼締による素朴で簡素な風合いが多くの茶人に好まれました。釉薬を使わないことによって器表に表れるさまざまな窯変は、現在まで多くの愛好家を生んでいます。

備前焼が成立した背景を以下にまとめます。備前市域の約80%は山地です。その地質は流紋岩類です。岡山県南に展開する花崗岩地域にくらべて、流紋岩地域は、樹木が再生しやすく、アカマツ林が広く発生する傾向にあります。この流紋岩から生成さ



伊部南大窯跡の物原

れる山土やそれが堆積した田土が備前焼の原料として使用され、アカマツが燃料として消費されました。急峻な山並が続く熊山山塊は、南面する伊部の地と共に、窯業史を飾ることとなる備前焼を生み出した母体となります。

(4) 中世（鎌倉時代・室町時代・戦国時代）

熊山戒壇の地に建立された^{りょうせんじ}靈山寺は、この地域に成立した^{かがとのしょう}香登荘の動きと連動しながら、備前焼生産の後ろ盾となります。このことは、須恵器生産が律令国家を中心にした流通経済の中でおこなわれていましたが、平安時代後半になると地域色が強くなっていくことと呼応しています。南北朝時代には、播磨の国境近くにある三石城の覇権をめぐって足利氏と新田氏の間で激闘があり、その兵火を受けた靈山寺は滅失してしまいます。

室町時代には、備前の地は、赤松氏、山名氏、戦国時代には浦上氏、宇喜多氏などが覇権を争う舞台ともなりました。播磨、美作に接する備前国の東端という地勢は、三石城、富田松山城など中世城館が18箇所も所在する地域となり、市域の北端、「西の高野山」と呼ばれた^{はつとうじ}八塔寺は鎌倉・室町時代を通じて長く戦いの場となりました。

(5) 近世（江戸時代）

備前国の東端という場所は、藩の中心があった現在の岡山市から遠く、人口が希薄で、自然豊かです。江戸時代、その環境を的確に把握して藩を運営したのが池田家です。^{ぐんだいつだえいちゆう}郡代津田永忠に命じて、「^{さんすいかんせい}山水閑静にして^{よろ}宜しく^{どくしょうがく}読書講学すべき地」にふさわしい地に作ったのが閑谷学校であり、池田が治めた播磨・伯耆を見渡せる



井田碑

「土地の光潤、草木の茂盛」の場所に作ったのが岡山藩主池田家墓所です。施設維持の経営基盤も学校や墓所周辺の林や田からの収益をあてました。閑谷学校には近世山陽道を往来する多くの文人墨客が訪れました。さらには備前市東半にみられるおぼれ谷の地形をうまく利用してつくった干拓地が井田(103.84 ha)です。これは中国周時代にあったとされる統治機構を地上に再現したもので長方形の区画が九等分された「上井」と正方形の区画が九等分された「下井」からなります。

日生の島嶼部でも、1,000ha に及ぶ鹿久居島は藩主の狩猟場・処刑場に、風待ちとして大多府島には巨大な防波堤を築き、港湾施設を整備、島嶼群から少し離れた鶴島は明治初年浦上キリシタン 117 名の配流の地となりました。

播磨との国境、難所といわれた船坂峠から、三石、伊里、片上、香登を通り、吉井川の渡しに至る近世山陽道は、三石・片上には本陣・脇本陣が置かれ、一里塚が整備されました。片上では本陣が備前藩主の指定宿になり、藩の米蔵も置かれ大坂方面への年貢米の回漕で商業が盛んになる在町として栄えました。香登では間宿ですが、運送業や醸造業で栄え、お歯黒は高級品として全国的に知られていました。

(6) 近代(明治時代・大正時代・昭和 20 年まで)

ろう石は江戸時代中頃、三石地区で発見され仏像の製作などに原料として用いられ、明治には石筆の原料として大量に生産されました。その後、耐火特性が判明したろう石を原料に用いた耐火煉瓦の製造がはじまり、19 世紀末に製造が始まって以降、産業として急激に成長しました。戦後は鉄鋼業の炉材として膨大な量の耐火煉瓦が生産されました。生産量の増加に合わせて、移出の便から工場も片上・伊里地区の臨海部に移動しました。この産業は現在でも備前市の基幹産業のひとつであり、三石・吉永・日生・片上・伊里地区の人々の生活や、政治・経済など地域の変遷に大きく関わってきました。文化の面では、与謝野晶子・鉄幹をはじめ著名な文学者が備前を訪れ、地元の人々と交流しました。

(7) 現代(昭和 20 年以降)

江戸時代、日生地区は岡山藩の参勤交代のための労役等の義務が課される加子浦になる一方、日生沖合の海の使用に関して強い権限を持つようになり急速に発展しました。特に



日生諸島

漁業では様々な網漁法が用いられ、なかでも日生で生み出された「つぼ網」と呼ばれる定置網は各地に広がりました。明治 20(1887)年ごろから始まった朝鮮海峡への出漁は、明治 40 年代には韓国東南岸に定住者によって村落まで形成されました。現在は、昭和 36(1961)年に始まったカキ養殖が盛んで、カキオコ(ガキ入お好み焼き)が B 級グルメとして全国的に知られています。

また、交流人口の多かった備前市の沿岸部は柴田錬三郎や藤原審爾といった直木賞作家をはじめ多数の文学者を輩出した地域として知られています。



藤原審爾文学碑

第2章 文化資源の把握調査の概要

文化資源の把握のために今までさまざまな調査が行われていますが、詳細なもの、修理工事に伴うもの、現況確認の^{しつかい}悉皆的なものなどその内容や構成は多岐にわたります。ここでは、自治体史の概略を記述した後、文化財の種類にそってその概要を記します。

(1) 自治体史

現在の備前市は、平成 17(2005)年に備前市・日生町・吉永町の合併により誕生しました。合併後の自治体史の編纂はおこなわれていませんが、合併以前の各地区の町村においては編纂事業がおこなわれました。現在までに刊行されているものを地域ごとに編纂時期を追いながら以下に整理します。

昭和 26(1951)年に片上町と伊部町が合併し備前町となる年に、『片上町史』と『伊部町誌』がそれぞれ各町で発行されています。なお『伊部町誌』は大正 2(1913)年にその前段階のものが個人で製作されています。その後、昭和 30(1955)年に 備前町、伊里町、香登町、(和気郡)鶴山村、(邑久郡)鶴山村が合併して備前町となり、また日生地区は日生町と福河村が合併し現在の日生町が誕生しました。『日生町誌』は昭和 26(1951)年、『三石町史』は昭和 34(1959)年に発行されています。吉永地区は昭和 29(1955)年に和気郡吉永町・神根村・三国村の 1 町 2 村が合併し吉永町となりました。その後、『吉永町史』は昭和 59(1985)年～平成 9(1997)年の間に通史編 4 冊、資料編・民俗編各 1 冊の全 6 冊として刊行されています。町史以前に『神根史考』が昭和 13(1938)年、個人で発行されています。

各町村史は、編集の段階で細部が省略されているものもあり、町村史の原稿や調査資料の再把握は今後必要になります。

また、現備前市を含む旧和気郡については、『和気郡誌』が明治 42(1909)年に発行されました。その後、『和気郡史』通史編上巻と資料編上巻が昭和 56(1981)年に、資料編下巻が昭和 58(1983)年に、通史編中・下巻が昭和 59(1984)年及び平成 14(2002)年に計 6 冊発行されています。現備前市では平成 3(1991)年に『備前市二十年の歩み』が発行されています。

(2) 文化資源に関する調査

①有形文化財

a. 建造物

建造物に関しては、昭和 41（1966）年に御滝山真光寺本堂並びに三重塔、昭和 47（1972）年に大滝山三重塔解体修理、防災施設の改修が行われ修理報告書が発行されました。

平成 25（2013）年～平成 27（2015）年にかけて日光山正楽寺山門・鐘楼・手水舎の屋根の葺き替え工事が行われ、その修理報告書が備前市教育委員会から刊行されました。平成 27（2015）年には松尾山松本寺理性院本堂内の保存修理工事が行われ、結縁灌頂の堂宇であるとの調査報告書が備前市教育委員会等によって発行されました。

b. 美術工芸品

平成 2（1990）年度からの岡山県教育委員会による岡山県社寺所有資料調査が行われ、浄光山妙国寺と日光山正楽寺の所持する絵画・彫刻・工芸品・書籍・典籍・古文書等の文化財についての調査が行われ、報告書が刊行されました。仏像に関する調査は、平成 23（2011）年度に国の雇用創出の交付金を使い悉皆的調査を行った結果、市内 22 寺院の約 370 体の仏像が確認され、概要が報告書になりました。令和元（2019）年から令和 2（2020）年度にかけて市内寺院を対象とした仏画・肖像画の悉皆的調査を行い、137 幅（仏画肖像画以外の物 9 幅を含む）、岡山県立美術館寄託の 1 幅、岡山県立博物館寄託の 24 幅、計 162 幅を把握する事ができました。この調査は倉敷市立美術館学芸員前田興氏の指導を受け、仏画の評価を行っているもので、今後も継続していくことで指定等の基礎的資料となる予定です。



令和 2（2020）年度仏画・肖像画調査の様子

平成 25（2013）年度から令和元（2019）年度にかけて備前市所蔵旧役場資料のマイクロフィルム化のための撮影が岡山県立記録資料館によって実施されました。正宗文庫については個人と国文学研究資料館による調査が実施され正宗文庫所蔵の典籍分類に関する目録が

平成 7(1995)年に発行されています。

平成 7(1995)年度から平成 9(1997)年度にかけて備前焼の年銘調査、宮獅子調査、中近世の年号を彫込んだ備前焼の調査を、委員会を組織した上で行い、報告書を刊行しています。

c. 建造物（近代化遺産）

岡山県近代化遺産総合調査が平成 15（2003）年度・平成 16（2004）年度の 2 ヶ年にわたって岡山県教育委員会により実施され、三石耐火煉瓦株式会社事務所棟・煙突ほか、三石煉瓦拱渠群、船坂トンネル、旧三石尋常高等小学校講堂（現、三石小学校講堂）、正宗文庫、旧万代医院などが報告されました。

②無形文化財

備前焼作家・窯元の実態把握のため、備前焼陶友会によって備前焼実態調査が平成 9(1997)年に実施されました。

平成 25（2013）年に備前市指定無形文化財「備前焼の製作技術」を指定し、保持者を認定した際、現役で活動する備前焼作家の活動状況を事前調査しました。

③民俗文化財

民俗分野では『和気郡史資料編 下巻』、『吉永町史 民俗編』、『日生町誌』において記述があるほか、平成 2(1990)年に発行された『井田（資料集）』や平成 21(2009)年に発行された『伊里 自然と歴史』、平成 24(2012)年に発行された『東鶴山風土記改訂版』等、各地区や個人による冊子も作成されています。

令和 2(2020)年度は、備前民俗調査委員会によって民俗文化財が調査されました。新型コロナウイルスの感染防止のため、多くの祭礼が中止となったため、現地調査は 2 例のみとなりましたが、文献調査とアンケート調査により、市内全体の祭礼の現状を把握する事ができました。備前民俗調査委員会によって報告書がまとめられ、今後の調査の基礎的資料とする事ができました。

備前焼の近世・近代の製作道具の調査が 3 か年かけて備前市歴史民俗資料館が中心となり実施され、備前市教育委員会によって平成 30(2018)年に報告書が発行されました。

④記念物

a. 遺跡

備前市における遺跡の調査は、備前市教育委員会が平成 11(1999)年頃より断続的な窯跡の分布調査、遺物採取や窯跡の略測を実施し、伊部南大窯跡、伊部西大窯跡、伊部北大窯跡、山崎窯南遺跡、医王山東麓窯跡、不老山窯跡、また平成 24(2012)年に備前市内の窯跡分布調査に関する調査報告書を発行しました。さらに佐山新池窯跡群・佐山東山窯跡の発掘調査が岡山理科大学生物地球学部考古学研究室によって実施され、平成 25(2013)年～平成 29(2017)年にかけて報告書が発行されました。

また、岡山県古代吉備文化財センターによる長縄手遺跡の発掘調査が平成 5(1993)年、平成 11(1999)年、平成 14(2002)年に実施され、平成 17(2005)年に報告書が発行されました。備前市内の中世の城館跡に関する調査は平成 25(2013)年度に実施され、岡山県古代吉備文化財センターの岡山県中世城館跡総合調査によって『岡山県中世城館跡総合調査報告書 第1冊 備前編』に市内 14か所の中世城館の調査報告が令和 2(2020)年 3 月に掲載されました。このほか、平成 16(2004)年度に策定した「史跡伊部南大窯跡整備基本構想」に基づいて、令和 3(2021)年度まで、「中世備前焼総合調査事業」を実施しています。

井田跡で計画されている農業排水施設整備事業に関連して文化財保護法による確認調査を実施しています。これに加え開発に伴う井田跡の景観維持を図るための協議や、水路の石垣の現状を確認する基礎調査、井田に関する文献調査を実施しています。今後も数年か

b. 動物・植物・地質鉱物

植物に関する調査は、岡山県植物誌研究会によって平成 24(2012)年末までに備前市けて内で確認された植物の目録が作成されました。動物・地質鉱物に関しての体系立てた調査は備前市内では実施されていません。

旧吉永町と旧日生町では天然記念物についての冊子が発行されています。



令和 2(2020)年度 熊山山塊踏査の様子



令和 2(2020)年度 井田跡水路現状調査の様子

【表 2-1】自治体史類報告書等一覧

年度	市史・町史関連	報告書類	埋蔵文化財	地域グループ
明治42 (1909)	○和気郡誌（私立和気郡教育会）			
昭和26（1951）	○片上町史（編集委員会） ○伊部町誌（報道委員会）			
昭和27（1952）			○伊部南大窯址発掘資料（日本陶磁協会）	
昭和34（1959）	○三石町史（編集委員会）			
昭和36（1961）		○特別史蹟並びに国宝及び重要文化財閑谷覺講堂 外四棟保存修理（第一期）工事報告書（岡山県）		
昭和37（1962）		○特別史蹟並びに重要文化財閑谷覺聖廟閑谷神 社々殿及び石塀保存修理（第二期）工事報告書（岡 山県）		
昭和40（1965）	○加子浦の工業化—岡山県日生町 の場合—（地域研究会）			
昭和41（1966）		○重要文化財真光寺本堂保存修理工事報告書 ○重要文化財真光寺三重塔保存修理工事報告書		
昭和43（1968）		○備前の刀（備州長船美術刀剣研究会）		
昭和46（1971）		○閑谷学校史（刊行会）		
昭和47（1972）	○日生町誌	○重要文化財大滝山三重塔防災施設工事報告書	○不老山古備前窯跡（岡山県）	
昭和49（1974）		○日生諸島の民俗（岡山県）	○東備西播開発有料道路建設事業実施にともな う埋蔵文化財報告	
昭和52（1977）		○岡山県民俗地図（岡山県）		
昭和53（1978）		○岡山県の近世社寺建築（岡山県） ○岡山県「道標（みちしるべ）」調査報告書（岡 山県）	○岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 25（山陽自動 車道建設に伴う発掘調査 1 備前市荒神社東遺 跡）（岡山県）	
昭和54（1979）		○岡山県文化財総合調査報告 天然記念物編 17 （岡山県）		
昭和55（1980）		○旧閑谷学校歴史資料目録（岡山県）		○ふるさとの思い出写真 集明治大正昭和備前（図 書刊行会） ○備前市の仏たち（備前 郷土研究会の会）
昭和56（1981）	○和気郡史資料編上巻（刊行会）	○岡山県文化財総合調査報告 18（岡山県）		
昭和58（1983）	○和気郡史資料編下巻（刊行会）	○岡山県文化財総合調査報告 20（金光町・吉永 町・中和村・八束村・川上村）（岡山県）		
昭和59（1984）	○和気郡史通史編下巻 I（刊行会） ○吉永町史資料編（刊行会） ○吉永町史民俗編（刊行会）		○亀井戸庵寺確認調査報告書（備前市埋報 2）	○わたしたちの村の歴史 （郷土史研究グループ）
昭和60（1985）		○日生町の文化財（日生町教育委員会）	○船山遺跡発掘調査報告書	
昭和61（1986）			○亀井戸遺跡確認調査報告書（備前市埋報 3）	
昭和62（1987）	○日生のあゆみ	○備前市の文化財		
昭和63（1988）			○備前市文化財年報（1）（備前市埋報 4）	
平成元（1989）		○岡山県の民謡（岡山県）		○香登お歯黒（香登お歯 黒研究会）
平成2（1990）	○吉永町史通史編 I（刊行会）	○民俗資料選集 18（盆行事 1 岡山県） ○岡山大学産業経営研究会研究報告書（通号 25） （岡山大学産業経営研究会）		
平成3（1991）				
平成4（1992）		○岡山県歴史の道調査報告書第 1 集（山陽道）（岡 山県） ○岡山県社寺所有資料調査報告書 2（岡山県）		
平成5（1993）		○岡山県社寺所有資料調査報告書 3（岡山県）		

平成7（1995）		○岡山市文化財総覧（岡山市市町村振興協会） ○備前市の文化財 改訂版		
平成8（1996）	○吉永町史通史編Ⅲ（刊行会） ○岡山県風土記			
平成9（1997）	○吉永町史通史編Ⅳ（刊行会）	○中国の民俗 岡山県編（日本民俗調査報告書集成）（三一書房）		
平成10（1998）	○備前市二十年の歩み		○備前焼紀年銘土型調査報告書（調査委員会）	○わがまちの文化遺産（文化協会）
平成13（2001）			○船山遺跡（岡山県埋報155）	
平成14（2002）	○和気郡史通史編中巻Ⅰ（刊行会） ○和気郡史通史編中巻Ⅱ（刊行会） ○和気郡史通史編中巻Ⅲ（刊行会） ○和気郡史通史編下巻Ⅱ（刊行会） ○和気郡史通史編下巻Ⅲ（刊行会）		○山崎古窯跡（岡山県埋報167）	
平成15（2003）			○伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査報告書Ⅰ（備前市埋報5）	○みんなで考えよう備前市・和気郡のあした（備前市・和気郡合併調査研究会）
平成16（2004）		○中国地方の近世社寺建築1（鳥取・島根・岡山）（鳥取県、島根県、岡山県）		
平成17（2005）		○岡山県の近代化遺産（岡山県）	○史跡伊部南大窯跡整備基本構想	
平成18（2006）	○吉永町史通史編Ⅱ（刊行会）		○北大窯跡・西大窯跡調査概報（備前市埋報6） ○伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査報告書2（備前市埋報7）	
平成19（2007）		○岡山県の会陽の習俗（岡山県）		
平成20（2008）			○国指定史跡伊部南大窯跡発掘調査報告書（備前市埋報8）	
平成21（2009）				○伊里 自然と歴史（非売品）（伊里マップ作りの会） ○備前ふるさと探訪（非売品）（個人発行）
平成22（2010）		○特別史跡旧閑谷学校保存管理計画書（岡山県）		
平成24（2012）		○備前市仏像調査報告書	○医王山東麓窯跡群発掘調査報告書（備前市埋報9）	○東鶴山風土記改訂版（改訂版東鶴山風土記編集委員会）
平成25（2013）		○岡山県の近代和風建築（岡山県） ○備前市植物目録	○山崎窯南遺跡（備前市埋報10） ○備前窯詳細分布調査報告書（備前市埋報11）	
平成26（2014）		○備前市歴史文化基本構想		
平成27（2015）		○旧閑谷学校石塀修理報告書（岡山県）		
平成28（2016）		○備前市文化財レポート2016【年報】 ○松尾山松本寺理院院学術総合調査報告書（松尾山松本寺理院院学術総合調査委員会） ○備前市寺社建築調査報告書Ⅰ 日光山正楽寺	○佐山東山窯跡群第5次発掘調査概要（岡山理科大学考古学研究室）	
平成29（2017）		○備前市文化財レポート2017【年報】 ○備前市寺社建築調査報告書Ⅱ 松尾山松本寺理院院	○医王山東麓窯跡群発掘調査報告書Ⅱ（備前市埋報12）	
平成30（2018）		○備前市文化財レポート2018【年報】 ○備前焼の製作道具調査報告書 ○近世遺跡調査報告書—交通・運輸・通信業—（文化庁）	○不老山窯跡発掘調査報告書遺物補遺篇（備前市埋報13）	
平成31（2019）		○備前市文化財レポート2019【年報】		○地域活性化学会研究大会論文集（地域活性化学会）
令和2（2020）		○岡山県中世城館跡総合調査報告書第1冊（備前編）（岡山県） ○備前市文化財レポート2020【年報】		
令和3（2021）			○史跡備前陶器窯跡保存活用計画書	

第3章 備前市の文化資源の概要

令和3(2021)年3月末時点での備前市内の指定文化財は121件です。国指定14件、県指定23件、市指定82件となっています。このほか、登録有形文化財は2件です。種別としては、遺跡が28件と最も多く、続いて建造物が23件と続きます。特に市指定建造物(石造美術を除く)は市指定文化財全体の約15%を占めています。また、重要無形文化財の保持者として15名が認定を受けています。

指定等を受けていない「文化資源」は、現在把握されているだけで3,214件あり、文化財保護法に示される文化財の種類に従って分類しています。分類にあてはめにくい項目、例えば備前焼作家、文学者は無形文化財の分類に、風俗習慣、郷土料理、郷土民話、郷土民謡などは無形民俗文化財の分類としています。

以下、類型に従って指定等文化財・未指定文化財の概要を記しています。

【表3-1】備前市文化資源件数一覧

令和3年12月1日現在

備前市指定文化財件数表

令和3年12月1日現在

平成30年12月1日現在

	有 形 文 化 財									無 形 文 化 財 （ 保 持 者 数 ）	民 俗 文 化 財		記 念 物			文 化 の 景 観	計
	建造物		美 術 工 芸 品								有 形 民 俗 文 化 財	無 形 民 俗 文 化 財	遺 跡	名 勝 地	動 物 、 植 物 、 地 質 鉱 物		
建 造 物	石 造 美 術	絵 画	彫 刻	工 芸 品	書 跡 ・ 典 籍	古 文 書	考 古 資 料	歴 史 資 料									
国指定	7	—	—	1	—	1	—	—	—	1(1)	—	—	4	—	—	—	14
県指定	3	—	2	4	6	—	—	1	1	1(7)	1	1	2	—	1	—	23
市指定	13	7	4	4	6	3	1	1	5	1(7)	—	4	22	3	8	—	82
登録有形	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
指定等計	25	7	6	9	12	4	1	2	6	3(15)	1	5	28	3	9	—	121
未指定	208	708	326	267	133	229	34	75	14	367	11	286	466	18	62	10	3,214

1 文化財類型に基づく文化資源

(1)有形文化財

指定の内訳は国指定 9 件、県指定 17 件、市指定 44 件の合計 70 件です。このうち建造物が 30 件、美術工芸品など 40 件となります。

① 建造物

旧 閑谷学校は、寛文 10(1670)年に岡山藩主池田光政が庶民の子弟教育を目的として作らせた学校として知られています。学房^{がくぼう}や飲室^{いんしつ}などが順に完成し、現在の規模になったのは元禄 14(1701)年とされています。国宝の旧閑谷学校講堂をはじめ、旧閑谷学校聖廟^{せいびよう}、旧閑谷学校石塀^{いしべい}など全 25 棟が国の指定を受けています。このほかの国指定では、大滝山三重塔、真光寺三重塔、真光寺本堂があります。

県指定では、大滝山福生寺^{ふくしょうじ}本堂、大滝山福生寺仁王門^{しやうらくじ}、日光山正楽寺山門の 3 件があります。大滝山福生寺は奈良時代天平勝宝年間(749～757)に開かれましたが、康正元(1455)年、戦火によってことごとく焼失し、その後次第に復興したと伝えられます。県指定の本堂は岡山藩二代藩主池田綱政が大願主となり、天和 2(1682)年に建立されました。仁王門は応永 4(1397)年に足利義満が建立したと伝えられます。康正元(1455)年の焼失を免れ、元和 9(1623)年の大改修を経て現在に伝わります。日光山正楽寺は報恩大師^{ほうおんだいし}が備前 48 か寺を開創したとき、その一つとして建立されたと伝えられる真言宗の寺院です。正楽寺山門は文化



真光寺三重塔

14(1817)年建立とされ、雲と波の彫刻を施した板軒仕立て^{いたのきした}の建造物は県内唯一確認されている作例として、平成 29(2017)年 3 月 7 日に指定を受けました。

市指定は、建造物 13 件と石造美術 7 件の合計 20 件となります。旧吉永町では、神根神社^{こうねじんじや}本殿、松本寺^{しょうほんじ}本堂、松本寺宝篋印塔など 6 点、旧日生町では、17 世紀中頃建築でその後移築されたという西念寺表門^{さいねんじ}の 1 件、旧備前市では、御滝山真光寺仁王門、天津神社^{あまつじんじや}本殿など 14 件で、旧備前市の指定文化財の数が多くなっています。中には江戸時代の備前焼を焼成する連房式^{れんぼうしき}の窯の地上構造物をその一部に残す、天保窯^{てんぼうがま}もあります。

未指定文化財として、明治時代以降の建造物・構造物等に関しては、平成 17(2005)年に「岡山県近代化遺産総合調査」によって 57 件が一覧化されました。このうち、令和 3(2021)年 6 月の時点で 51 件が現存しています。内訳は農業分野 1 件、鉱山業分野 1 件、窯業分野 3 件、商業分野 5 件、道路分野 3 件、鉄道分野 18 件、海運分野 3 件、通信分野 1 件、治水分野 3 件、上下水道分野 4 件、宗教分野 4 件、生活分野 5 件となっています。鉄道分野の数が突出していますが、このうち 8 件は、JR 山陽本線船坂トンネル、JR 山陽本線小屋谷川^{こうきょ}拱渠など、三石地域に所在する煉瓦製の構造物となっています。さらに鉱山業分野では吉永地区の旧山陽クレー製造所、窯業分野では三石耐火煉瓦株式会社の施設 2 件が含まれるなど、耐火煉瓦に関係する施設は地域の歴史・産業を特徴付けるものとして評価されています。

② 美術工芸品

国指定として、^{みょうこくじ}妙圀寺の^{もくぞうしやかによらいざぞう}木造釈迦如来坐像、^{しぎこうしき}正楽寺の四座講式の 4 巻が指定を受けています。木造釈迦如来坐像は、像底板に「運慶六代孫大仏師法印^{びやくごう}イ作 延文三(1358)季十一月日」と室町時代北朝の年号の朱書銘があります。^{びやくごう}白毫も当初のものであり、後補のない仏像となっています。四座講式は鎌倉時代の建保(1215)3 年正月作の法会の要目表です。巻末に「建保三年正月云々、沙門高弁」とあり、鎌倉時代の^{けごんしゅう}華嚴宗の僧^{そうみょうえしやうにんこうべん}妙恵上人高弁の著作とされ、全 4 巻とも完備されています。

県指定は 14 件が指定されています。内訳は、^{けんぽんぼくがびやくえかんのんず}絹本墨画白衣観音図などの絵画 2 件、木造阿弥陀如来及^{りょうわきじぞう}び両脇侍像などの彫刻 4 件、備前焼茶壺などの工芸考古 7 件、工芸品として、太刀無銘^{でんくにとし}(伝国俊)の 1 件、歴史資料として、閑谷中学校関係歴史資料の 1 件となります。

市指定は 24 件が指定されています。内訳は、^{あみだによらいがぞう}阿弥陀如来画像などの絵画 4 件、^{ともがぶやくしによらいざぞう}友延薬師如来坐像などの彫刻 4 件、^{うさはちまんぐうびぜんやきこまいぬ}宇佐八幡宮備前焼狛犬などの工芸考古 7 件、長法寺古文書が古文書として 1 件、長法寺^{だいほんにやきょう}大般若経などの書跡典籍 3 件、和気郡三石村往還筋家並分見絵図などの歴史資料 5 件となっています。

また、未指定の仏像は平成 24(2012)年に把握したもので 267 件あり、時代としては平安



木造釈迦如来坐像

時代のものから平成に入って作られたものまで多岐にわたりました。このほか地域特有の有形文化財として、備前市八木山地区には江戸時代初期に創建、京都から運ばれた池田輝政らの遺骨などが仮安置された鏡石神社や、鏡石神社ろう石造池田輝政公坐像といったろう石細工や、各地域の神社に奉納されている江戸時代以来の絵馬などがあります。

(2)無形文化財

備前焼の製作技術に係る無形文化財の認定及び保持者の内訳は、国指定重要無形文化財 1 件(保持者 1 名)、岡山県指定重要無形文化財 1 件(保持者 7 名)、備前市市指定無形文化財 1 件(保持者 7 名)の合計 3 件(15 名)です。

伊部地区の一带は古くよりやきものの産地として知られていて、現在でも多くの窯元や作家がその伝統を受け継いでいます。800 有余年の歴史を持つ備前焼は堅牢なやきものとして日本各地に流通し、戦国の世には、その「冷え枯れたる」趣により茶事に用いられ、戦国が終わる頃には為政者も重用するやきものとなりました。昭和 31(1956)年には、金重陶陽しげとうようが国指定重要無形文化財「備前焼」保持者(人間国宝)となり、新幹線が岡山まで開業したのをきっかけに多くの観光客が訪れるようになり高度成長ともあいまって多くの作家が生まれました。現在では伊勢崎 淳い せ ざきじゅん氏を含め 5 名の保持者を輩出したやきものの産地として全国・世界にも知られています。また、岡山県指定重要無形文化財「備前焼製作技術」でも現在 7 名が保持者の認定を受けています。



伊勢崎淳氏

備前焼の製作技術以外で無形文化財の指定や保持者の認定はなされていませんが、伊里地区にはかつて、竹筆の製作技術があり、また八木浄慶作やぎじょうけいのろう石製大日如来坐像だいにちによらいざぞうや三石地区でろう石製の置物が散見されることから、江戸時代から続くろう石の加工技法が伝承されていた可能性があります。

(3)民俗文化財

指定の内訳は、県指定が 2 件、市指定が 4 件の合計 6 件です。このうち有形民俗文化財は、県指定 1 件、無形民俗文化財は県指定 1 件、市指定 4 件の合計 5 件となります。備前市は瀬戸内海の水運、山陽道など交通に恵まれたことから、他地域との交流が盛んな土地

です。備前市は市町村合併前の旧備前市、旧日生町、旧吉永町の三つの地域に大きく分けることができますが、地域によって生業が異なるために風習にも違いが生じています。現在でも、言葉や食生活にその様子を見ることができます。

① 有形民俗文化財

県指定として、3 か年にわたる総合調査の結果、新たに備前焼の製作道具が令和2(2020)年3月13日に指定されました。これは備前焼の採土、成形、窯詰め、焼成、窯出しといった各工程において使用する様々な道具1,100点が、用途を把握されたうえで一括保存されており、備前焼製作の様相を体系立てて把握することができる資料として評価されています。



備前焼の製作道具

日生地域の漁業は、加子浦歴史文化館につば網漁法など代表的な漁法の説明パネル、動画、模型、実際の漁具が体系立てて展示されています。

② 無形民俗文化財

県指定は、^{ふくいしこうじんじやかくらししまい}福石荒神社神楽獅子舞が「出立ちの舞」「村まわし」などの古式をよく伝えている獅子舞として、指定を受けています。

市指定は、神根神社獅子舞、投げ節・車唄、春日神社の獅子舞、^{そうごおど}寒河踊りの4件です。備前市内の祭りの多くは10月に集中しており、執行の中心役を交代で回す当屋制や神楽舞などが特徴として挙げられます。また、旧備前市では岡山藩主池田光政の時代に儉約令が出され、神輿やだんじりを用いての祭り、盆踊りが禁止されていたことから、明治以降に新しい要素を取り入れたものも多いことが推察されます。



祭礼が比較的古い姿を留めつつも受け継がれているのに対し、盆などの年中行事は姿を消しつつあります。海辺や河原で火を焚く「まんど」

福石荒神社神楽獅子舞

と呼ばれる盆行事や「とんど」と呼ばれる正月行事は、かつて旧備前市一帯で行われていたとされますが、現在は一部の地域で見られる程度です。また、備前焼まつりの際に行われる「かべりだいまつ」も元々は盆行事で内容も異なっていましたが、そのことを知る人も少なくなっています。害虫除けの為に吉永地区で行われていた「虫送り」は昭和30年代

に行われなくなりました。一方で、牛馬が田畑に出ることが無くなった今でも、^{たくらうしじんじや}田倉牛神社では五穀豊穰・商売繁盛・良縁等が祈念され、信仰が多様化しつつも継続されています。香登地区では、お歯黒粉の製造が奈良時代以降行われてきたとの伝承があり、昭和中期に途絶したものの、現在は黒豆の染色用として地元企業によって再生産が行われています。

(4)記念物

指定の内訳は、国指定が4件、県指定が3件、市指定が33件の合計40件となります。

①遺跡

国指定は、特別史跡1件、史跡3件が指定されています。特別史跡の「旧閑谷学校」は、史跡地内にある国宝の講堂をはじめほとんどの建物が国指定重要文化財となっており、全体が特別史跡として保存管理がされています。国指定史跡は、丸山古墳、岡山藩主池田家墓所、備前陶器窯跡の3件です。丸山古墳は吉井川東岸の丘陵部に立地する直径約60mの円墳です。堅穴式石室には特殊な彫刻文様を配した家形石棺があり、^{はくさいさんかくぶちしんじゅうきょう}舶載三角縁神獣鏡1面をはじめ、30数面の鏡が出土したことで知られ、岡山県南部における代表的な円墳です。岡山藩主池田家墓所は、池田家の菩提寺である京都花園妙心寺護国院の火災をきっかけに池田光政が津田永忠に命じて作らされました。墓所は山中にあり、光政の祖父輝政(姫路城城主)、父利隆、光政らを儒式で埋葬しています。



輝政の「一のお山」を中心に、合計7つ

岡山藩主池田家墓所 (池田輝政墓)

の「お山」で構成されています。備前陶器窯跡は、伊部南大窯跡・伊部北大窯跡・伊部西大窯跡・医王山窯跡からなる窯跡群です。伊部南大窯跡は室町時代から江戸時代にかけて共同で操業され、七基の窯跡と破損品や窯道具を捨てた巨大な物原からなっています。伊部西大窯跡に接する^{いおうざんかまあと}医王山窯跡は、平安時代から室町時代にいたる十基の窯跡からなります。備前焼の成立から大窯生産への推移を知る上で重要な史跡として、これら同時期の大窯跡が指定を受けています。

県指定は2件あります。^{しずたにやきかまあと}閑谷焼窯跡は、旧閑谷学校の講堂の瓦を焼くために造られた窯で、後にその窯を利用して藩主が使用する茶器・細工物などが焼成されていました。三石城跡は、元弘3(1333)年に南朝方の挙兵に呼応した伊藤大和二郎が山陽道を塞ぐ目的で城

を構えたのが始まりとされています。県指定天然記念物である住吉島の樹林は、流紋岩からなる周囲 290mの小島に暖帯樹ウバメガシが群生していることから、島嶼部の原生林として貴重とされています。

市指定記念物は史跡 22 件あります。市指定としては、中世山岳仏教の大伽藍跡として、山上伽藍八塔寺の旧跡や、旧閑谷学校の学校田である井田跡^{せいでんあと}などが代表的です。

未指定の史跡としては片上地区に縄文時代の長縄手遺跡、鹿久居島に中世の千軒遺跡^{せんげんいせき}などの遺跡がみられます。特別史跡旧閑谷学校に関して、吉永地区に旧閑谷学校の教授役で国特別史跡の一部である黄葉亭^{たけもとくんりゅう}を設けた武元君立の宅跡が、旧閑谷学校近くには、明治 17(1884)年に再興した閑谷巒^{にしびざん}の巒長西薇山をはじめとした、江戸時代からの閑谷学校関係者の墓所があります。備前焼の窯跡に関しても、指定史跡以外に不老山^{ふろうさん}、榎原山^{かやはらさん}など伊部地区を中心に 120 箇所以上の地点が知られています。

②名勝地

市指定 3 件のうち、大滝山・熊山は、熊山の中腹にある大滝山福生寺を中心として、寺院跡・古窯跡を含みモミ・スダジイ・スギなどからなる自然度の高い樹林が残されている地域です。深谷の滝は、石塔山を源とする二段滝で、上の段にあたる雄滝は幅 2m あまり、落差が 13m ほどあります。

③ 動物・植物・地質鉱物

県指定は 1 件で、「椎の樹林」は久々井八幡宮社叢^{くぐいはちまんぐうしゃそう}のシイノキからなる自然林です。

市指定は 8 件で、ヒメボタルは滝谷神社の社叢内に生息が確認されているホタルの一種で、陸生貝をえさとする森林性の昆虫です。金彦神社社叢は、社叢内にはスギやモミ、カヤ、アラカシ、ケヤキ、ムクノキの巨樹が生育するほか、ヤマモミジ、サルスベリ、モッコクなどの老木が見られます。コウヤミズキ自生地は、八塔寺川と大藤川との合流点下流にあり、早春に黄色の花を咲かせるコウヤミズキが群生します。高良八幡^{こうらはちまん}の社叢は、ウバメガシが優占する海岸林で、瀬戸内沿岸の海岸植生をよく留めています。西願寺^{さいがんじ}のイチョウは、西願寺境内にある巨木です。おがたまの木は、吉永小学校の校庭にあり巨木ですが、近年樹勢が衰えたため、学校の授業で樹勢回復の取り組み



高良八幡社叢

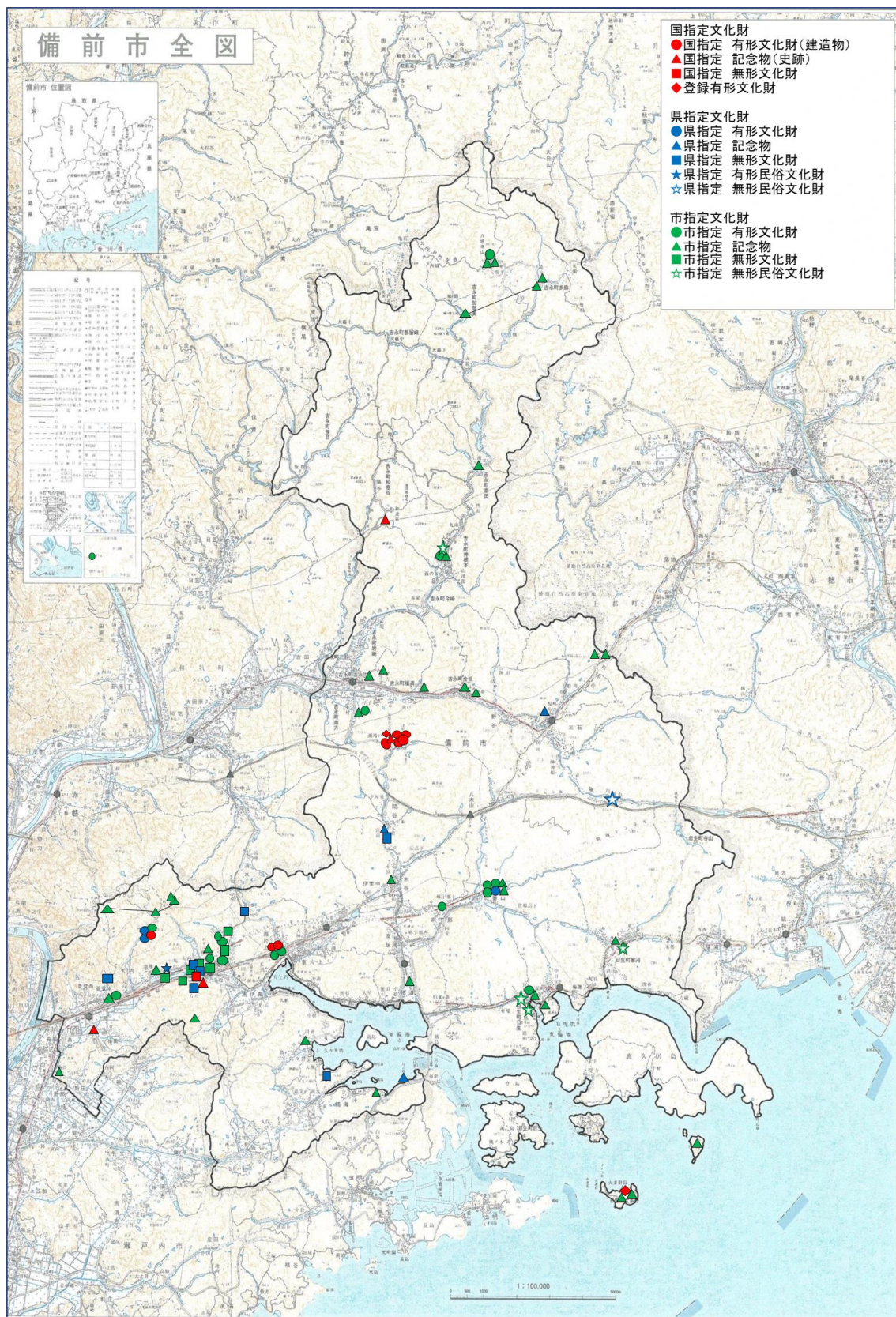
がなされています。モリアオガエルは、梅雨時に泡状の卵塊を葉や木の枝などに産み付ける両生類で、吉永地区(加賀美・多麻^{かがみ たま})にある数か所のため池のほとりで産卵がみられます。

(5)文化的景観

国・県・市として選定されているものはありませんが、伊部地区においては備前焼の窯元・作家の登り窯煙突や備前焼を使った瓦や塀が見られる町並みが、日生地区においては瀬戸内海の島々の景観や海上のカキ筏、沿岸には係留された漁船群や三階建ての建物といった漁村特有の風景が見られます。市指定史跡の井田跡では、江戸時代に整備された区画が現在でも田畑・宅地の境界線を形成しており、江戸時代の農業の姿を推定することができます。吉永地区(八塔寺地域)では、山中の開けた土地に市指定史跡の山上伽藍八塔寺の旧跡や、岡山県近代化遺産として調査を受けた三村久吾生家(八塔寺国際交流ヴィラ)といった農家の屋敷などがあり、岡山県によって独自に進められた事業で「八塔寺ふるさと村」として整備されています。三石地区には、先述した耐火煉瓦製造工場の煙突や耐火煉瓦の構造物が散見されるなど、それぞれの地域に特徴的な景観が見られます。

(6)伝統的建造物群

備前市内に伝統的建造物群として選定されているものはありませんが、備前焼の作家や窯元が軒を連ねる伊部地区では、江戸時代から続く窯元が多く、近世山陽道沿いに店を連ねています。道に面した側では商品を展示して販売する、奥には工房を配置するという明治時代からの店構えが多く見られますが、江戸時代の建物はほとんど現存していません。近年では、鉄筋コンクリート造りの建物も多くなっています。



【図 3-1】 指定文化財分布図(美術・工芸品を除く)

2 日本遺産

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもので、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となり総合的に整備・活用することで、国内外に戦略的に発信し、地域の活性化を図ることを目的としています。

本市においては、平成 27(2015)年度に茨城県水戸市の旧弘道館^{きゅうこうどうかん}、栃木県足利市の足利学校跡^{あしかががっこうあと}、大分県日田市の咸宜園跡^{かんぎえんあと}等と併せて「近世日本の教育遺産群 ー学ぶ心・礼節の本源ー」として、また平成 29(2017)年度に福井県丹生郡越前町の越前焼、愛知県瀬戸市の瀬戸焼、愛知県常滑市の常滑焼、滋賀県甲賀市の信楽焼、兵庫県丹波篠山市の丹波焼と併せて「きっと恋する六古窯 ー日本生まれ日本育ちのやきもの産地ー」として認定を受けています。

(1) 「近世日本の教育遺産群 ー学ぶ心・礼節の本源ー」

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層の武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に着けるなど、高い教育水準を示してきました。これは、藩校や郷学^{ごうがく}、私塾、寺子屋など、様々な階層を対象とした教育機関の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれています。

4 市にはそれぞれ「世界に誇る日本の教育」を象徴する資産群が点在しており、本市の構成資産は次のとおりです。

① 旧閑谷学校（国宝・国特別史跡・国重要文化財）

岡山藩主池田光政が造った世界最古の庶民のための公立学校といわれており、江戸時代前期の建物と配置がほぼそのままの形で残る稀有な文化資源です。

② 枳菜^{せきさい}（未指定）

江戸時代の学校には、儒学の祖孔子を祀る建物が造られることが多く、そこでは孔子の徳を称える儀式が行われていました。閑谷学校でも貞享 3(1686)年に枳菜が始まり、現在も行われています。

③ 備前国和気郡井田村延原家文書（未指定）

検地帳^{けんちちょう}などからは当時の学校領の様子が、入学願書や教科書等からは江戸時代の子もたちが学校に通う様子がわかります。

④ ^{くまざわばんざん}熊沢蕃山宅跡（市史跡）

池田光政は学校創立のきっかけとなる儒教思想を儒学者熊沢蕃山から学びました。蕃山隠居の地が学校からほど近いところに残っています。

⑤ 井田跡（市史跡）

池田光政が中国周時代に行われたとされる統治制度とされる井田法を再現させた新田です。一部は学田となり、閑谷学校の経営をささえました。

(2) 「きっと恋する六古窯 -日本生まれ日本育ちのやきもの産地-」

瀬戸、越前、常滑、信楽、丹波、備前のやきものは「日本六古窯」と呼ばれ、世界に誇る日本古来の技術を継承している、日本生まれ日本育ちの、生粋のやきもの産地であります。中世から今も連綿とやきものづくりが続くまちは、丘陵地に残る大小様々の窯跡や工房へ続く細い坂道が迷路のように入り組んでいます。恋しい人を探すように煙突の煙を目印に陶片や窯道具を利用した塀沿いに進めば、「わび・さび」の世界へと自然と誘い込まれ、時空を超えてセピア調の日本の原風景に出合うことができます。

六古窯は、各々で生まれた伝統や製作技術とともに、さりげなくそしてほのぼのと来訪者を出迎える町並みとやきものが、日本人のおもてなしの心を表しており、その一つである本市の構成資産は次のとおりです。

① 焼物の里の文化的景観（未指定）

窯元の角地に松割木のまきが規則的に積み重ねられ乾燥させられています。松割木は窯焚きの時、煉瓦製の煙突から黒色の煙がはき出します。伊部を囲む山々、不老山、医王山は流紋岩からなり、そこから生成、堆積した田土は備前焼の原料粘土として使用され、独特の味わいを器に描き出します。伊部の旧家の中には土塀に窯の破片・陶片を練りこみ、屋根に半分にした土管をのせるものがみられます。

② 備前焼の焼成技術（未指定）

備前焼は登り窯や窖窯で焼成されますが、炎によりうつわの表面に描き出された独特の味わいは「窯変^{ようへん}」と呼ばれます。現在では備前焼のように「まき」で焼成する産地は少なく、窯焚きは釉薬を使わない土にあわせた独特のものです。

③ 無形文化財 備前焼の製作技術（国重要無形文化財・県重要無形文化財・市無形文化財）

後に「備前焼中興の祖」と称される金重陶陽が人間国宝になり、日本の高度成長と重なり、多くの作家が生まれました。現在では伊勢崎淳氏をはじめ5人の人間国宝を輩出

したやきものの産地として知られています。岡山県、備前市でもそれぞれ無形文化財の保持者を認定する制度を運用しています。

④ 備前焼熊山古窯跡群（市史跡）

伊部の北、熊山山中に点在する窯跡群で、鎌倉時代から室町時代のもの 17 基が市指定史跡になっています。付近には名勝地の屏風岩もあります。

⑤ 備前陶器窯跡（伊部南大窯跡・伊部西大窯跡・伊部北大窯跡・医王山大窯跡）（国史跡・市史跡）

室町時代末頃に築かれ、江戸時代は岡山藩の保護と統制を受けながら、窯元六姓の制度の中で幕末まで操業された大窯跡群で、いずれの窯でも長大な規模をもつ複数の窯が見つかっています。

⑥ 小幡山長法寺・天津神社（市有形文化財）

備前焼の作家・窯元のゆかりの寺社で、備前焼が多く寄進されています。長法寺は報恩大師備前四十八ヶ寺のひとつで、本堂は明和 7(1770)年に上棟しています。天津神社は天正 7(1579)年、現在地に遷宮されたもので、本殿は延宝 6(1678)年の改築です。門・参道には備前焼瓦などが使用されています。

⑦ 備前焼狛犬（県重要文化財・市有形文化財）

備前市では、神社の社頭で備前焼の宮獅子を見かける機会が多く、江戸時代後半から近代にかけて窯元の主力商品として多く作られ、全国へ流通しました。木谷天神社に奉納された備前焼狛犬や片上宇佐八幡宮の大型の獅子は代表的な作品です。

⑧ 旧閑谷学校（国宝・国特別史跡・国重要文化財）

国宝の講堂や聖廟など主要な建物だけで約 5 万枚の備前焼の瓦が使用されています。

⑨ 備前焼まつり（未指定）

備前焼のまち伊部で、毎年 10 月第 3 日曜日とその前日の土曜日に開催されており、日本全国や海外から十数万人の方が訪れる大規模な陶器の祭りとなっています。

第4章 備前市の歴史文化の特徴

備前市は南北に大きく広がっており、市域の大部分は山林が占める一方、市域の南側は瀬戸内海に面し海運に恵まれた地域となっています。豊かな山林資源、水運に恵まれた立地により、古代から窯業が営まれ中世には伊部地区を中心に数多くの窯が築かれた備前焼は、その伝統技術が多数の窯元や作家によって受け継がれています。また、人口が希薄で自然豊かな環境を、近世以降的確に把握し利用した池田家により、国宝の旧閑谷学校講堂や、国指定史跡の岡山藩主池田家墓所をはじめとした建造物が造られ、文化資源として現在まで伝わっています。近代以降は、耐火煉瓦をはじめとした製造業が発展したほか、自然環境にも恵まれ、山や海で採れた産物を活かした食文化が形成されてきました。

こうした背景から、以下の5つが備前市の歴史文化の特徴として整理できます。

(1) 山や川、海、平野などの地勢から交通・流通の拠点となった地域

備前市は岡山県の南東に位置し、兵庫県と隣接しています。市域の北部である吉永地区は、東は兵庫県佐用町・赤穂郡上郡町、北は美作市に接する南北に長い地域です。市域の南東部である日生地区は、東は兵庫県赤穂市、南は瀬戸内海に面しています。また、市域の西部は和気町・赤磐市・岡山市・瀬戸内市に接しています。瀬戸内海には鹿久居島・頭島・大多府島・鶴島・鴻島等からなる日生諸島が展開しています。その地勢から岡山県東部の備前焼の生産・柵原の鉄鉾石や耐火煉瓦の集散の拠点ともいえる地域として発展してきました。

内陸に入り込む片上湾は、後氷期の海面上昇によって谷が沈水したことで形成されたおぼれ谷の地形で、天然の良港として利用されてきました。湾の最奥部には縄文時代に人々が定住し、長縄手遺跡が形成され、古代には美作国の津となります。また、15世紀中頃の文献「兵庫北関入船納帳」^{ひょうごきたせきいりふねのうちょう}の記述からは、片上・伊部などから備前焼の壺などが積み出されていたことがうかがえます。日生の島嶼部には中世瀬戸内海の交易品の流通拠点のひとつと考えられる千軒遺跡が形成されました。

一方、低丘陵が展開する岡山県南ですが、備前市では標高が400mを超える熊山をはじめ急峻な山塊が連なります。その熊山には中世に霊山寺を中心に宗教的な拠点ができ、山々では戦国武将が覇権を争う三石城や富田松山城などが構築されます。八塔寺においても「西の高野山」とも呼ばれるぐらいの真言密教としての勢力が形成されます。平野部に急峻な山塊を縫うように作られた山陽道は、鎌倉時代の終わり頃、三石～和気を通る北路から三

石～片上～長船の南路に変わります。「一遍上人いっぺんしょうにんえでん絵伝」にも福岡の市の賑わいが描かれています。近世の山陽道沿いには醸造業やお歯黒生産で栄えた香登があります。近代以降では、柵原の硫化鉄鉱石の積出ルート片上鉄道と片上港が流通の拠点となります。

(2) 備前焼を礎に発展してきた産業構造をもつ地域

備前市南西部の東鶴山地区(佐山)は、中国地方最大の須恵器窯跡群である邑久古窯跡群の北東端に位置します。佐山周辺の地域では 7 世紀末頃には須恵器の生産が開始され、9 世紀には佐山全域で窯が築かれます。12 世紀後半には生産の地が伊部へと移り、やがて備前焼の生産が開始されたと考えられています。鎌倉時代に描かれた「一遍上人絵伝」には、福岡の市で備前焼の壺や甕が取引される様子が描かれています。また中世後半以降、備前焼は機能性の高い商品として西日本を中心に流通し、織豊期にはその味わいから為政者に茶道具として取り上げられました。近世以降は他の窯業地で生産された施釉陶や磁器に商品としての市場を奪われ、細工物や土管、徳利などの商品に活路を見出しますが、明治期には衰退の道を辿ります。昭和に現れた「備前焼中興の祖」金重陶陽によって、美術品としてその市場価値を見出され、今日まで至ります。

一方、備前焼土管などの生産技術は、三石地区で産出するろう石が耐火煉瓦の原料となることから耐火煉瓦産業へと応用され発展し、現代でも備前市の基幹産業となっています。

(3) 恵まれた海から生み出される海産物を生かした食文化が育まれた地域

備前市は市域面積の約 80%を山地が占める自然に恵まれた地域です。また瀬戸内海に面しているために海の幸にも恵まれています。それらの恵まれた自然から生み出される産物を活かし、豊かな食文化が育まれてきました。その代表格がカキオコ(カキ入りお好み焼き)です。昭和 36(1961)年にカキ養殖が日生地区で始まったことがきっかけとされ、今では日生地区のソウルフードとして全国に向けて強力な情報発信力を持っています。全国でもカキ養殖の有数の産地となった日生地区ですが、江戸時代にはサワラ漁の船が 300 隻、各地へ出漁し、大坂魚市場では「魚島のサワラ」として高値で取引され、その漁民が 150 年前に生み出した「つぼ網漁法」は日本だけでなく韓国の近代漁法に影響を及ぼしました。春のサワラは、豊漁・漁業の安全を願い作り始めたこうこ寿し、漁師めしが家庭料理になったいりやき、内臓の塩漬けを使ったわたがいやきも郷土料理としてよく知られています。このほかにもケッケ(ダイチョウ)、イイダコ、このわた、アナゴなどの海の幸は郷土色豊かな食材として季節に合わせて食されます。イチジク、ピオーネ、マスカット、モモ、ソ

バなどの山の幸にも恵まれ、食材だけでなく加工産品としても販売されています。

(4) 映画のロケ地にもなり多数の文学者を輩出している地域

備前市出身の文学者は、自然主義文学に新境地を開拓した穂浪出身の正宗白鳥^{まさむねはくちょう}、「罪な女」「秋津温泉」など数多くの小説を執筆し、エンターテインメント作家としても活躍し直木賞も受賞した片上ゆかりの作家藤原審爾^{ふじわらしんじ}や「眠狂四郎」シリーズでも知られ文化人タレントとしても活躍した鶴海出身の直木賞作家柴田錬三郎^{しばたれんざぶろう}が代表格となります。さらに近年再評価が進むプロレタリア文学者の寒河出身の里村欣三^{さとむらきんぞう}、伊部出身の小説家・詩人で「エンキョリレンアイ」などの恋愛小説が話題を呼んだ小手毬^{こてまり}るい、吉永出身で昭和 50 年代の日本のサブカルチャーをけん引した編集者で「素敵なダイナマイトスキャンダル」の著作もある末井昭^{すえいあきら}も挙げられます。このほか、芸能、政治・経済、音楽の分野でも世界的に活躍し、地域に貢献した多くの方がいますが、備前市出身の文学者数は他の分野に比べて顕著となっています。小津安二郎監督「早春」の映画のロケ地として三石が舞台となつたのをはじめに、八塔寺ふるさと村も今村昌平監督「黒い雨」、市川崑監督「八つ墓村」などのロケ地としてたびたび取り上げられます。この背景は自然が豊かであったり、特徴的な景観を持つ場所が備前市に多くあったりすることに起因します。文学者を多く輩出していることは個人の才能的側面としてとらえることができますが、こうした印象的な景観が文学者のその後の文学観に影響を与えた可能性もあります。

備前市内には、こうした文学者の生家跡等に記念碑が多く建てられています。

(5) 社会で生きる基本能力を身に着け、地域のまとめ役を育てるという学びの伝統が現代まで受け継がれている地域

閑谷学校は、寛文 10(1670)年に設立された世界最古の庶民のための公立学校と言われており、岡山藩主池田光政が、村や地域の運営にあたる村や地域のリーダーたちを養成する目的で設置しました。

岡山藩士の津田永忠により整備が進められ、学房が寛文 12(1672)年に、講堂が延宝元(1673)年に、聖廟が延宝 2(1674)年に建造され、光政の死後には学校の恒久化を目指して校内建物の改築を行いました。現在の閑谷学校の規模は 18 世紀初頭に揃いました。

教育内容は基礎的な手習い・算用・素読から儒学の講釈まで幅広く、階層を超えて人々の共通の教養を広める役割を担いました。武士や他地域の子弟も受け入れ、学校の教育や運営に庶民出身者を登用するなど、開かれた学校でした。

閑谷学校の空間構成の特徴として、まず山あいの閑静な場所に立地する点が挙げられます。藩校等は藩の政治経済の中心地である城下に建てられる場合が多く、建物や周辺環境が失われやすいのですが、閑谷学校は学校名から連想する印象がその立地と合致し、今も建物は良好に保存されています。この場所が選定された理由は、光政が「山水清閑、宜しく読書講学すべき地」と教育の場に相応しい環境であると判断したことによります。山紫水明の地に身を置くことによって修養を深める思想は、儒学の普遍的な基本思想です。

現在も完成時の遺構と配置がほぼそのまま残っています。学びの場である講堂は現存する日本最古の学校講堂であり、宗教建築に準じた質の高い空間として設計され、堅牢な石塀で囲まれた全体は学びの理想を示しています。単独で立つ講堂の東側には、高台に聖廟と閑谷神社を配し、特に孔子を祀る聖廟は敷地の東側に一段高く立地しています。西は火除山^{ひよけやま}によって出火しやすい日常空間（学房群）と儀式空間を隔離しています。光政を祀る芳烈祠^{ほうれつし}（現閑谷神社）や光政の爪や髪を納めた椿山^{つばきやま}により、庶民教育の場という廃されやすい立場の学校を守る建物配置としています。

閑谷学校は、明治4(1871)年岡山藩の廃止によって閉校となりますが、翌々明治6(1873)年には閑谷精舎として再興され、その後も閑谷^{しずたにこう}・私立閑谷中学校・岡山県閑谷中学校等と移り変わり、近代以降の教育制度の大幅な改変後も、脈々とその学びの伝統は受け継がれました。

第5章 関連文化財群の概要

1 関連文化財群設定の目的

この章では第4章で概観した文化資源を「備前市の歴史文化を特徴づける文化財の関連性によって生み出される一定のまとまり」、つまり関連文化財群として構成し、新たに設定します。ここでは、関連文化財群として新たに備前市内の文化資源を再構成し、ストーリー性をもったまとまりとしてグループ設定をしますが、そのことによって取り上げられなかった他のものが除外されるようなことがあってはなりません。

関連文化財群の設定を行う際、有形・無形、民俗、記念物、文化的景観など現在の文化財の指定制度を利用する部分もありますが、これだけにとらわれることなく、現在、過去、未来など時間軸の視点、娯楽文化の視点などさまざまな視座から考えていきます。指定を受けた「文化財」という言葉からは、「人々の生活からかけ離れたところで、時間や空間に關係なく単体で存在し、価値のあるもの」という印象でとらえられる場合があります。

しかし、指定の有無にかかわらず、文化資源は人々の生活や時間の流れと不可分の關係で存在し、地域の個性を表象するという特質も含んでいます。地域には長い時間をかけて培われた文化の蓄積があり、そのすべてがかけがえのないものです。

具体的な関連文化財群の設定に関しては、対象となる文化資源に対して様々な判断基準によって価値が区別されます。例えば多い・少ない、大きい・小さい、古い・新しいという数量的な判断基準、指定・未指定、登録・未登録、選択・未選択、決定・未決定、選定・未選定、有形・無形という物として存在する・しないという基準、雅・俗という娯楽性がある・ない、芸術性がある・ないという世間的な価値基準、行政・市民という価値判断をする人々の区分などです。このような様々な見方・考え方・立場はありますが、できうる限りこれらにとらわれることなく、備前市の歴史文化を特徴づけるまとまりを見出すよう努めました。

本計画に至る関連文化財群の設定経緯は次の通りです。備前市において過去の形成された膨大なテキストデータをもとに、「備前市歴史文化基本構想(平成26(2014)年3月策定)」において7つの関連文化財群を抽出しました。7つの関連文化財群の抽出に当たっては、地域の方々と地域を歩いて地域の文化資源を知るワークショップを5回行いました。本計画では、この7つの関連文化財群をもとに、内容の精査をおこないました。作成をすすめる作業の中で、新たに発見されたり、再認識されたりしたものを、備前市の歴史文化の特徴として、関連文化財群を設定しました。

関連文化群の各ストーリーは、地域が成り立ってきた豊かな歴史文化をあらわしています。このストーリーは、観光施策として取り組めるもの、新たな地域産業の契機になるもの、新たな商品開発につながるものなど、多様な可能性を含んでいます。具体的には関連文化財群を实际来訪する人が、その価値や魅力を理解し、発信できる、その良い循環を関係者が実感できるかについて、関連文化財群ごとの情報を集める必要があります。その情報をもとに、観光振興や地域ブランドの創出という視点で調査計画を立案していきます。

このフレームは、実施者である民間企業や団体の参画が必須となるので、備前市里海・里山ブランド推進協議会と連携をとりながら進めていきます。

またこれら関連文化財群のさらなる本質的価値の顕在化を進めるために、備前市の文化資源に関する課題を前提に、構成文化財の適切な維持管理・修理等を行い、あわせてガイダンス施設の整備なども検討します。

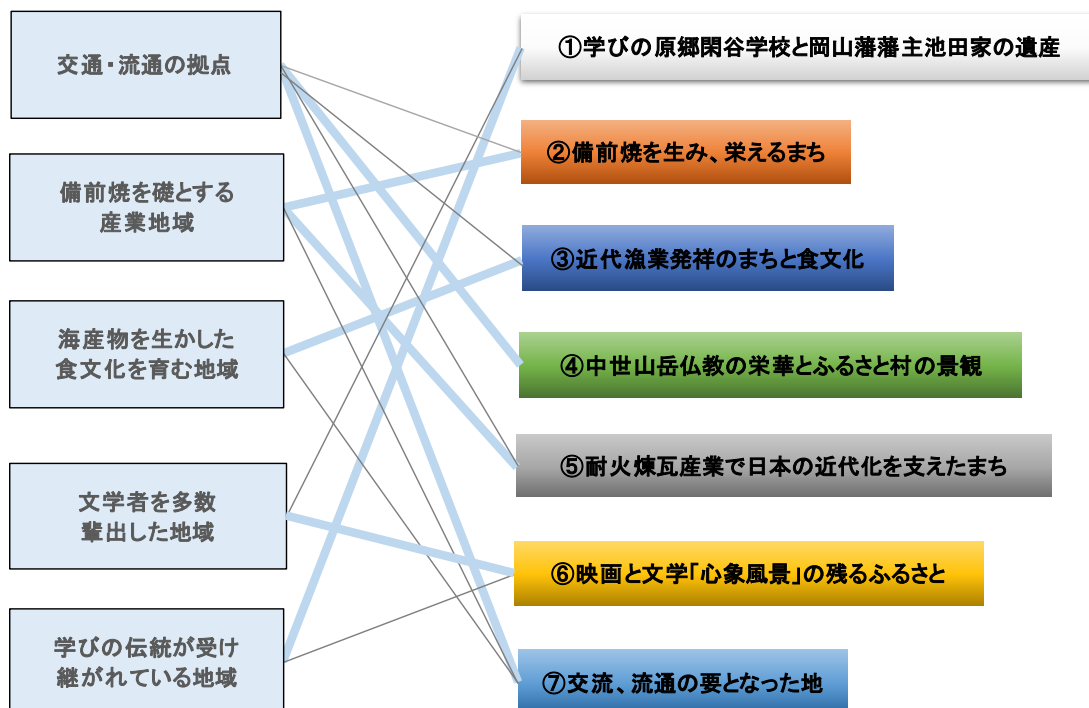
【表 5-1】関連文化財群一覧表

① 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産
旧閑谷学校講堂などの瓦を焼成した「閑谷焼窯跡」、学校経営のための学校田「井田跡」、近代になって存亡の危機にあった学校を維持した人々の関連史跡、閑谷学校の作事をした津田永忠が和意谷に造営した「岡山藩主池田家墓所」・「大多府漁港元禄防波堤」などからなる。
② 備前焼を生み、栄えるまち
中世後半、日本の中でも有数の窯業地であった備前、機能性の高い商品として西日本各地に流通し、織豊期には茶道具として為政者に取り上げられた。近世・近代は低迷するが、金重陶陽によって、現代の美術品となり愛好者も多い。構成資産は中近世の窯跡と現在の窯業地「伊部」の景観からなる。
③ 近代漁業発祥のまちと食文化
日生地区は昭和 30 年代に始まったカキ養殖が、養殖筏と他島美の景観、B 級グルメ「カキオコ」の食文化を生み出した。近世末には、関西や四国まで出漁するサワラ漁の流瀬船の拠点となり、また日生で生まれた「つぼ網漁法」は韓国の近代漁法まで影響を与えた。漁業に関する景観、イベント、海産物など構成資産は幅が広い。

④ 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観
中世には「西の高野」と呼ばれ真言密教の一大勢力となった地域だが、戦国期には備前・播磨・美作三国の国境に近いという地勢から何度も兵火にあい、荒廃する。近世には、岡山藩の援助もあり復興するが、焼失に遭う。八塔寺の建物、三重塔跡、石小詰の塚など山岳仏教の栄華を彷彿とさせる構成資産からなる。映画のロケ地になることが多い八塔寺付近の自然豊かな農村の風景は、50 年ほど前に整備されたもの。
⑤ 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち
近代の日本の製鉄産業を支えた耐火煉瓦で繁栄した地域である。耐火煉瓦の原料であるろう石が産出し、備前焼の焼成技術がありその産業基盤が応用できたことで産地になった。三石地区はＪＲ山陽本線の煉瓦拱渠群、耐火煉瓦工場の煙突、隣接する吉永地区はクレーを乾燥させるための校倉造り風の大型建物が構成資産となっている。
⑥ 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと
文化勲章を受けた正宗白鳥、弟で稀有な蔵書群を構築した国文学者正宗敦夫、柴田錬三郎・藤原審爾、二人の直木賞作家を備前市は輩出している。近年では、恋愛小説で話題の小手鞠るい、評価が進むプロレタリア文学者里村欣三、昭和 50 年代の日本のサブカルチャーをけん引した編集者末井昭の出身地、SF 作家眉村卓も日生にゆかりがある。映画のロケ地も多く、エンターテインメントのまちとしても注目される。
⑦ 交流、流通の要となった地
縄文時代から現代まで、備前地域では多くの人が行き交い、住み、物をつくり、産業を興し、衰退離散し、その繰り返しで地域が成り立ってきた。備前地域の地勢・地政は、古代以前では海岸部にあっても急峻な熊山山塊があることが遺跡の立地に影響を与え、古代ではその急峻さが密教系寺院にとって拠点を置く好条件となり、中世では山城を築く際有利に働いた。平野部においても、山陽道が中世後半に片上・伊部ルートに変わったことも地域の成り立ちに大きな影響を与えた。そうした営みの中でこの地域の風土が作られ、人々の暮らしの中に息づいている。

備前市の歴史文化の特徴

関連文化財群



【図 5-1】 関連文化財群の設定

① 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産

閑谷学校は備前市の成り立ってきた歴史的な背景を考えると一番に挙げられるものです。寛文 10(1670)年、池田光政が木谷村に学校をつくるよう津田永忠に命じたことによってその歴史が始まります。創建から 350 有余年、国宝の講堂をはじめ多くの建造物が国指定重要文化財になり、国の特別史跡として適切に保存・活用がされています。楷の木の紅葉・梅や椿など四季折々に変化する自然と講堂の備前焼瓦の美しさに惹かれ、今では年間約十万人が来訪する岡山県内でも有数の観光スポットです。現在では、「旧閑谷学校を世界遺産に登録しよう」という取組みや、「教育のまちびぜん」の象徴や理念としても大きく掲げられています。

また、閑谷学校といえば、学校のある周辺のみを思い浮かべる人が多いですが、成立の過程でできた施設や関わった人々が残したものが備前市内に点在しています。この項目では、「学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産」という関連文化財群としてまとめます。

まず、現在の講堂の瓦を焼成するために閑谷学校から南約 3 km、福神社付近の山裾に貞享 3(1686)年、閑谷焼窯が数基築かれました。5 万枚もの瓦焼成後は、宝永 7(1710)年頃まで、閑谷学校の祭器や細工物など製造する藩の窯業試験場的な場であったといえます。現在は県指定史跡として保護されています。

JR 赤穂線伊里駅のホームに降り立つと、東側に向けて広大な水田地帯が広がります。休耕田や点在する住宅はみられますが、規則的な区画が展開します。池田光政が津田永忠に命じて中国周時代の統治機構を具現化するために広大な土地を開発して上井田、下井田などを作りました。実際の完成は、光政没後の綱政の時代になります。また閑谷学校周辺には、光政の理想の具現化を試みた井田とは別に、閑谷学校の経営基盤を支える「約 280 石の学田」、「70 町余の学林」があります。

次に閑谷学校を作り上げた津田永忠が関わった文化資源をみていきます。

元禄 11(1698)年、「大多府に港を整備せよ」との藩命により津田永忠は延長約 130m、幅 6m、高さ 5m の石積みの防波堤を大多府島に作りました。その形は、閑谷学校の石塀と見紛うばかりで、わが国で現存する数少ない明治以前の防波堤の中で最も優れた構造物のひとつであるという評価がされています。現在では、大多府島の玄関口に国指定登録文化財「大多府漁港元禄防波堤」として、他にはない優れた景観を作り出しています。島には合わせて航行の安全を図るため、灯籠堂や船舶の飲料水確保のため大井戸も整備され、現在では市指定史跡として保存が図られています。

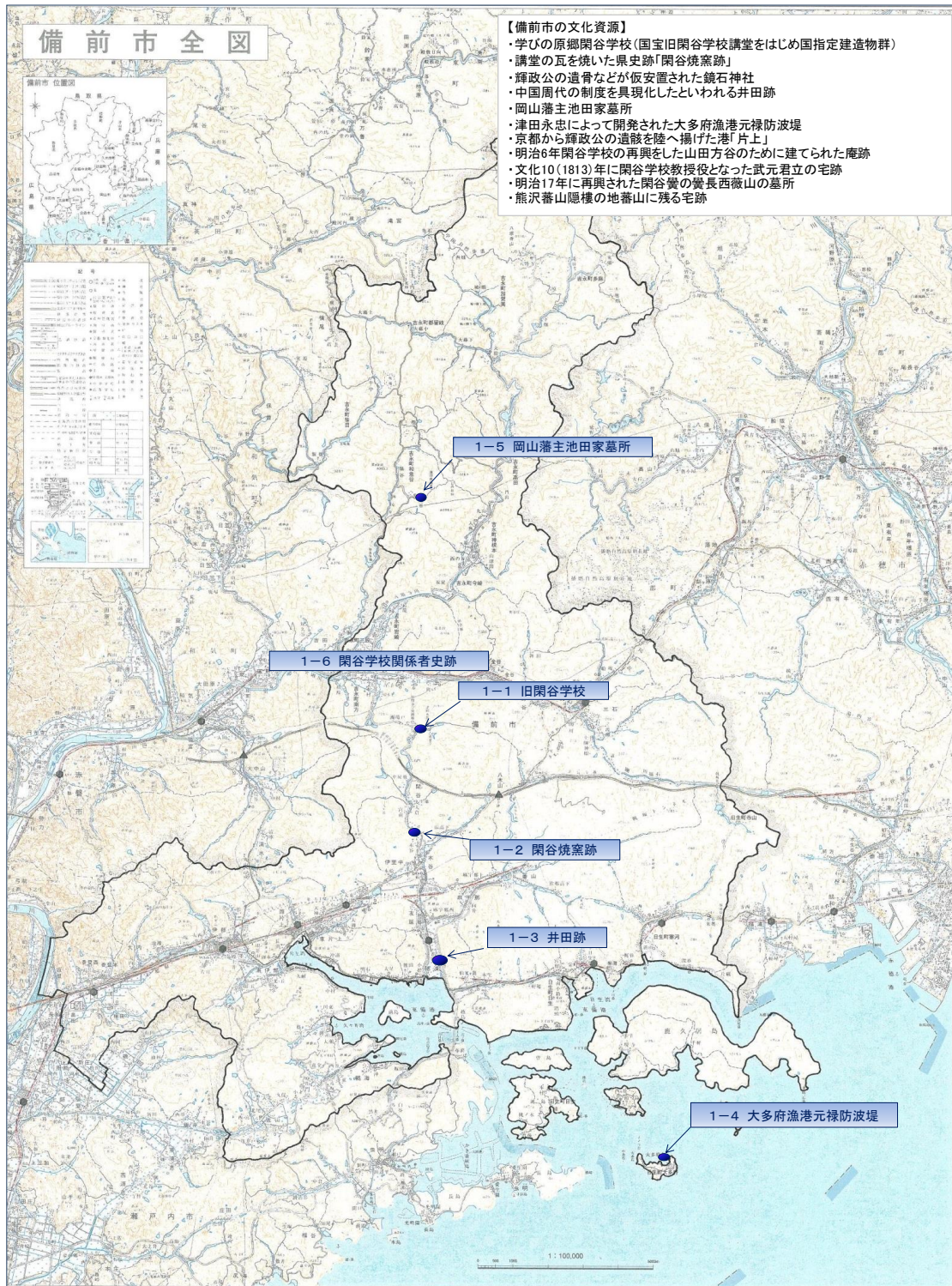
寛文 4(1664)年、池田家の菩提寺、京都花園妙心寺護国院の炎上をきっかけとして光政

が津田永忠に命じて作ったのが和意谷の池田家墓所です。京都から海路運ばれた池田輝政と利隆の遺骸は片上の津から鏡石神社に運ばれ仮安置されたと伝わります。鏡石神社のご神体はろう石でできた八木浄慶作「池田輝政」の像で、本殿は三間社流造で、平唐門が付属します。墓所は、標高 390m、和意谷敦土山山上に光政の祖父輝政(姫路城城主)、父利隆、光政を儒式で埋葬しています。明治年間に慶政、茂政の「お山」ができ、合計 7 つのお山で構成されています。

【表 5-2】「①学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財 の 所在地	
1-1	旧閑谷学 校	国重文	岡山藩主池田光政によって 創建された、現存する世界最 古の庶民のための公立学校 といわれていて、国宝の講堂 をはじめ多くの建造物が国 指定重要文化財になり国の 特別史跡となっている。	伊里	1-1 旧閑谷学校 
1-2	閑谷焼窯 跡	県史跡	講堂の瓦焼成のために築か れた窯。閑谷学校の祭器や細 工物など製造する藩の窯業 試験場的な場であった。	伊里	1-2 閑谷焼窯跡 
1-3	井田	市史跡	池田光政が津田永忠に命じ て中国周時代の統治機構を 具体化するために開発した 水田で、上井田、下井田など を作った。	伊里	
1-4	大多府漁 港元禄防 波堤	登録有 形	津田永忠によって作られた 石積みの防波堤。国内で現存 する数少ない明治以前の防 波堤の中で最も優れた構造 物のひとつである。	日生	1-4 大多府漁港元禄防波堤 
1-5	岡山藩主 池田家墓 所	国指定	池田家の菩提寺、池田光政 が津田永忠に命じて作った。 岡山藩主池田宗家一族の墓 所で合計7つのお山で構成 されている。	吉永	
1-6	閑谷学校 関係者史 跡	市史跡	閑谷学校の再興をした山田 方谷のために建てられた庵 跡、岡山藩の藩政確立に取り 組んだ熊沢蕃山の隠棲地や 居宅跡、閑谷学校教授役とな った武元君立の宅跡、閑谷覺 の覺長西薇山の墓所をはじ め、江戸時代からの閑谷学校 関係者が葬られた墓所が残 る。	吉永・ 伊里	

① 学びの原郷関谷学校と岡山藩主池田家の遺産



【図5-2】

② 備前焼を生み、栄えるまち

平安時代の末、西の山窯跡や大ヶ池南窯跡など伊部の山麓で生産が開始された備前焼は、鎌倉時代中ごろになると山の中腹に立地することが多くなり、南北朝期にはさらに高度をあげ、標高 400mを超えるような熊山山塊に位置するものもあります。熊山山頂には熊山遺跡を代表とする石積み遺構が点在し、奈良時代には靈山寺という山上寺院が建立されました。南北朝末ないしは室町時代はじめ頃、ふたたび窯は山麓に築かれるようになります。規模も山崎古窯跡の幅 2.5m、推定全長 20m、不老山東口窯跡の幅 3.4m、推定全長 40m にも巨大化し、量産化を指向します。その後 16 世紀後半のある段階で、山麓に点在していた大窯は北大窯、西大窯、南大窯へ集約されることになります。

律令制下の旧備前市域は、当初邑久郡香登郷、方上郷などに属していたようで、その後天平神護 2(766)年、藤野郡(のちの和気郡)に編入されています。現在の旧備前市域は『倭名類聚抄』では和気郡坂長郷、香止郷ですが、記載のない「方上郷」は「延喜式」では美作の港「片上津」となっています。「香止郷」は伊部を含む香登の平野部だったと想定されますが、白河天皇の勅旨田となり、その後堀河天皇の時代(白河院の院政期)に荘園として成立します。その後、香登荘は鳥羽院、八条院に伝えられますが、母の美福門院藤原得子の菩提を弔うために高野山菩提心院に領家職が寄進されます。こうして香登荘は八条院を本家とし、菩提心院を領家とすることになります。

菩提心院は、高野山内で金剛峰寺方と対立していた大伝法院方の末寺に属します。その紛争の結果、正応元(1288)年大伝法院は、和歌山県那賀郡根来町へ移ります。この地にある根来寺はその大伝法院を前身とする真義真言宗の総本山ですが、その坊院跡から埋甕遺構として大量の備前焼の大甕が出土したことが知られます。その数は根来寺全山で、1,500 個以上といわれ、その多くが 16 世紀後半に属するものです。用途は甕倉で油を蓄える容器としての使用が推定されています。その量的なものを香登荘と大伝法院との関係に見る向きもありますが、香登荘は南北朝の動乱によって領有は仁和寺に帰し、最終的に室町幕府領として伝領されていたと考えられています。したがって大量出土の理由を別に考える必要があります。

室町時代、備前の地は赤松氏、山名氏、浦上氏など勢力がめまぐるしく入れ替わりますが、最終的に宇喜多氏が覇権を握ります。そのころ活躍した豪商で来住法悦という人物は、片上湾の最奥部浦伊部に居住し、瀬戸内海の交易で何万石もの富を築いたといえます。交友関係も日禪をはじめとする日蓮宗本山関係者、保津川を開削したことで知られる京都の大商人角倉了以との結びつきがあります。天正 18(1590)年には、岡山城築城の銀を調達し

た功績により、岡山城下に一町を賜り、屋敷を構えるなど宇喜多氏とも非常に強く結びついていました。

浦伊部の地は伊部南大窯跡からわずか 1.5km 東にあたり、備前焼を海上ルートで積み出す際、要地となったところで、根来寺での大量の備前焼大甕出土の背景には豪商来住法悦を要とした海上交易ルートのかかわりが深いと考えられます。平成 12(2000)年の調査で確認され天正期の窯と推定されている東 3 号窯跡はまさに根来寺に大甕を大量に提供した窯のひとつと考えられています。

文献資料・考古資料に、香登がやきものの産地として登場することもあります。和歌山県西牟婁郡白浜町長壽寺境内から出土した大甕は「備前國住人 香登御庄□ 二 曆應五年□ あつらう也」の銘文があります。暦応 5(1342)年の年号は、知見のある年銘資料としては最古のものです。

応安 4(1371)年、九州探題へ下向する途中の今川了俊(貞世)は、「さて、かゞつ(香登)といふさとは、家ごとに玉だれのこがめといふ物を作ところなりけり(中略)其日はふく岡につきぬ・・・」という記述を『道ゆきふり』という紀行文の中に残しています。

その福岡については、正安元(1299)年円伊を主宰とする工房で制作された『一遍聖絵』の福岡の市の場面に、布や魚鳥など商いの商品とともに簡単な掘建て小屋の下に備前焼が転がっている様が描かれています。一遍がこの地を布教に訪れたのは、弘安元(1278)年頃だったといわれています。

このほか「香登荘」と直接の関係ではありませんが、『兵庫北関入船納帳』に文安 2(1445)年に備前焼の壺や甕が 1200 個余り兵庫港(現神戸港)に運ばれた記載があります。

このように過去の備前焼は機能性の高い商品として西日本を中心に流通し、織豊期、その味わいから為政者に茶道具として取上げられました。近世以降は他の窯業地で生産された施釉陶や磁器に商品として市場をうばわれ衰退の道をたどりますが、昭和に現れた備前焼中興の祖と呼ばれる金重陶陽によって、美術品としてその市場価値を見出して、今日にいたります。最盛期には窯元・備前焼作家は 400 人を超えたといえます。

【表 5-3】「②備前焼を生み、栄えるまち」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財 の 所在地	
2-1	備前焼の 窯跡群	国史跡 市建造 物	平安時代の末、西の山窯跡 や大ヶ池南窯跡など伊部の 山麓で生産が開始された備 前焼は、鎌倉時代中ごろにな ると山の中腹の立地が増加 し、16世紀後半のある段階 で山麓に点在していた大窯 は北大窯、西大窯、南大窯へ 集約された。国指定史跡の備 前陶器窯跡をはじめ、市指定 史跡の備前熊山古窯跡群、下 山龍王山古窯跡群、市指定建 造物の天保窯がある。	伊部	2-1 備前焼窯跡 
2-2	医王山・ 不老山・ 榎原山	未指定	これらの山には各時代の備 前焼を生産した窯跡が点在 している。	伊部	2-2 不老山と山陽新幹線 
2-3	伊部の町 並み	未指定	近世の山陽道の面影を残す 伊部の東西通りと点在する 備前焼を使った塀や土留め がある。窯元、作家が軒を連 ね、登窯の煙突が独特の景観 をみせる。	伊部	2-3 伊部の町並み 
2-4	耐火煉瓦 工業の近 代遺産群	未指定	明治時代に産業として土 管製造の工場が立ち並んだ。	伊部	
2-5	天津神 社・ 長法寺	市工芸 品	陶工に関わりのある宗教施 設に、陶祖を祀る忌部神社が ある。宮山からの眺望や備前 焼の屋根瓦、参道などがある 天津神社や、備前焼作家の檀 家が多い長法寺等がある。	伊部	
2-6	浦伊部	未指定	備前焼の積出拠点とされる 浦伊部来住家などがある。	伊部	

② 備前焼を生み、栄えるまち



【図5-3】

③ 近代漁業発祥のまちと食文化

日生地区では「R」のつく月にはカキが食べられるシーズンだといえます。フランス語で9月から4月を表記すると必ず「R」が入ることからこのようです。このカキ、今ではご当地グルメカキオコ(カキ入りお好み焼き)として全国的に知られ、全国から観光客が押し寄せるほど盛況になっています。このブームは、20年ほど前に「日生カキお好み焼き研究会」という団体が、地元で食されていたカキオコを見直そうと広報をはじめたことが端緒となっています。日生で採れる新鮮で肉厚なカキを千切りキャベツと生地を合わせて鉄板で焼くためカキの独特の風味を失わない所が魅力です。そのため新鮮なカキが市場に出回る10月下旬から3月頃までの季節限定メニューになっています。

ルーツははっきりしないのですが、昭和36(1961)年にカキ養殖がはじまったことがきっかけになっているようです。現在ではカキの生産は広島県、宮城県に続き全国第3位で、日生は県内でも有数の産地です。カキ養殖は、ホタテ貝の殻の真ん中に穴を開け、針金を通したものをロープにつけて筏につるす垂下式で、1本のロープにつき約30枚、筏1基につき800本ほど吊り下げています。カキ養殖がはじまった当初は湾内に約20基余り筏がありましたが、現在は約300基前後の筏があり、片上湾から日生諸島にかけてカキ筏が浮かぶ風景は、瀬戸内海らしさを醸し出しています。

全国でもカキ養殖の有数の産地となった日生地区ですが、江戸時代の終わりごろにはサワラ漁の流瀬船が300隻、阿波、讃岐、播磨まで出漁し、大坂魚市場では「魚島のサワラ」として高値で取引されました。また日生の漁民が150年前に生み出した「つば網漁法」が日本や韓国の近代漁法に影響を及ぼしたこともその歴史のひとつです。つば網漁法は魚がものにぶつくと曲がる習性を利用したもので、チヌ、カレイ、メバル、車エビ、イカ類を対象としています。10m×100mの範囲で竹竿を海中にさし、それに網を袋状にかけ、道網と呼ばれる誘導部分から魚を網の中に導くシンプルで合理的な漁法として知られます。進取の気性に満ちていた日生の漁民は、明治20(1887)年以降の韓国、フィリピン、シンガポールなど海外へも進出し、その漁法が伝播したともいわれています。鱈は春を告げる魚のとおり、この時期に瀬戸内海沿岸の各地で食されます。

日生漁港の五味の市に隣接して、江戸時代の建物を移築改修した加子浦歴史文化館があります。建物内には漁具や回船などの資料が多数展示しており、このような日生地区のルーツを学習する絶好のポイントとなっています。

五味の市では、朝早く水揚げされた魚が漁師のおかみさんによって威勢良く売られています。関西方面からのお客さんが多いようです。さまざまな魚、競り出せない魚を扱うこ

とが市の名前の由来らしいですが、以前は現在地より北 700m にあり、平成になって岡山県によって埋立て整備された「東備港日生地区」に移転しました。

日生港の最深部にあたるこの付近は三階建ての建物が港に隣接し、店先では焼き穴子など海産物が販売されています。日生諸島への定期便が発着する船着き場、係留された漁船群、高良八幡の社叢と楯越山、高層マンションなどが、港湾の中に競うような独特の対比で特徴的な景観を成しています。

船着き場から大生汽船の定期便で沖合に出ると、向かって左側に「うちわだの瀬戸」に備前〇日生大橋がかかる鹿久居島が見えます。14 ある日生諸島最大の島で 10.17 km²の広さがあり、頭島大橋からペンションや民宿が多い頭島へとつながります。さらに左手前方沖合には、キリシタン巡礼の地として知られる鶴島、潮待ちの場所として古くから栄えた大府島の島影が望めます。右側は「うずあいの瀬戸」を挟んで曾島、点在する別荘の白い建物と島影が印象的な鴻島があります。港に戻り日生地区の住宅地に入り込むと鮮魚店や小売店、カキオコの店や水餃子の有名店が住宅に隣接し、さらに歩みを進めると、江戸時代中期に活躍した廻船業者田淵屋甚九郎の碑がある西念寺や、獅子舞が市指定無形民俗文化財になっている春日神社があります。

【表 5-4】「③近代漁業発祥のまちと食文化」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財 の 所在地	
3-1	カキ入り お好み焼 き	未指定	日生で採れる新鮮で肉厚なカキを千切りキャベツと生地を合わせて鉄板で焼くためカキの独特の風味を失わない所が魅力。全国から観光客が押し寄せるほど盛況である。	日生	3-2 カキ養殖  3-3 つぼ網漁法  3-4 五味の市 
3-2	カキ養殖	未指定	カキの生産は広島県、宮城県に続き全国第3位で、日生は県内でも有数の産地。現在では約300基前後の筏があり、片上湾から日生諸島にかけてカキ筏が浮かぶ風景は、瀬戸内海らしさを醸し出している。	日生	
3-3	サワラの つぼ網漁 法	未指定	江戸時代の終わりごろ日生ではサワラ漁が盛んだった。日生の漁民が150年前に生み出したつぼ網漁法は、魚がものにぶつかると曲がる習性を利用したものである。	日生	
3-4	五味の市	未指定	朝早く水揚げされた魚が漁師のおかみさんによって売られている。	日生	
3-5	日生港	市指定	日生諸島への定期便が発着する船着き場、係留された漁船群、高良八幡の社叢と楯越山、高層マンションなどが、港湾の中に競うような独特の対比で特徴的な景観を成している。	日生	
3-6	日生諸島	未指定	14の島から構成され、瀬戸内海国立公園の一部。	日生	

③ 近代漁業発祥のまちと食文化



【図5-4】

④ 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観

八塔寺ふるさと村の中心地部に立つと、まさにそこはスローライフの世界です。普段間断なく音にさらされている現代人にとって、農村風景を背景に蝉の声、たまに走る車のエンジン音など、一つ一つの音がクリアに聞こえます。いわば、音に隙間がある静けさが町の喧騒と離れた独特の空間です。

このふるさと村の景観ができたのは、昭和 49(1974)年です。国による面的な保存整備事業が行われていない時期に岡山県によって独自に進められた保存・整備事業で、津山市の大高下、鏡野町の越畑とともに、ふるさと村整備の端緒となりました。現在では、のどかな農村風景が広がる地域ですが、その名前が示す通り、八塔寺としての積み重ねがあります。

八塔寺は、神亀 5(728)年聖武天皇の勅願によって弓削の道鏡が創建したと伝わっています。中世には、高野聖の分流「八塔寺聖」の力でできた真言密教として勢力があり、「西の高野山」とも呼ばれ、一時は「八院六十四坊七十二ヶ寺」あったといわれています。この行者関連の史跡に市指定史跡の石小(子)詰の塚があります。

乾元元(1302)年、歴応元(1338)年、八塔寺は備前播磨美作の国境に位置するという地形的な要因から再三の兵火に遭い焼失しています。その後永正 14(1517)年、三石城主浦上村宗と置塩城主赤松義村の戦いとなった八塔寺合戦で全山が焼失しました。しかし高頭寺の山門は唯一焼失しなかったと伝わります。

この高頭寺ですが、その寺号は江戸時代初めごろにさかのぼります。元和元(1615)年、八塔寺は常照院(愛染院)、宝寿院(真言院)、明王院の三院になります。常照院に天台宗の僧が入り、八塔寺の寺号を使用、天台宗への改宗を行います。宝寿院と明王院は真言宗のまま高頭寺(山号恵日山)と改め、現在に至ります。

池田忠雄による八塔寺再興がなされたのは寛永 3(1626)年ですが、その後も宝永 3(1706)年、池田綱政により三重塔などが整備されました。しかし、寛政 2(1790)年、またも焼失にあい、その後再建されて現在に至ります。

景観という視点では、中世にはかなりの規模を有する宗教的な拠点であり、その名残は八塔寺周辺にうかがうことができます。しかし現代の景観の主をなすのは「ふるさと村整備」事業によるもので、「黒い雨」をはじめ映画のロケ地として取り上げられています。

またモリアオガエルやヒメボタルなどが生息する周辺の豊かな自然環境も景観の特徴として忘れることができません。

【表 5-5】「④中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財 の 所在地	
4-1	八塔寺ふるさと村	未指定	国による面的な保存整備事業が行われていない時期に岡山県によって独自に進められた保存・整備事業で、ふるさと村整備の端緒となった。典型的な農家のつくりをもつ国際交流ヴィラがあり、民俗資料館などの建物群と田のおりなす空間が広がる。	吉永	4-1 八塔寺ふるさと村 
4-2	八塔寺周辺	市指定	山岳仏教の栄華を偲ばせる市指定石造美術の石小（子）詰の塚や、かなりの規模を有する宗教的な拠点であった八塔寺などに中世の名残をうかがうことができる。	吉永	4-3 八塔寺ふるさと村周辺の自然 
4-3	八塔寺ふるさと村周辺の自然	市天然記念物	市指定天然記念物のヒメボタル、コウヤマズキ自生地、モリアオガエルなど自然豊かな環境である。	吉永	

④ 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観



【図5-5】

⑤ 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち

明治 34(1901)年に官営の八幡製鉄所が粗鋼の生産を開始したことにより、鉄鉱石を溶かす本格的な製鉄業が発展していきました。そのような中で、溶鉱炉の内壁に使用する耐火煉瓦の需要が増加したこと、備前焼の焼成技術がありその産業基盤が応用できたこと、大平鉱山のろう石開発が行われていたことなどから、加藤忍九郎の三石耐火煉瓦株式会社が発展し、三石地区に耐火レンガ工場が集中することとなります。

また兵庫県境の三石地区を通る JR 山陽本線には、四連の三石金剛川拱渠、小屋谷川拱渠をはじめ計 10 基もの煉瓦拱渠群(アーチ橋)が連続している区間があります。明治 9(1876)年に造られた京都府の七反田拱渠の六連に次いで径数が多くなっています。また岡山県近代化遺産総合調査報告では、野道拱渠はポータルに焼過煉瓦を用いた模様(ポリクロミー)が美しいだけでなく、堅積された自立したアーチ(ヴォールト)に明確な縞模様が入るという珍しいデザインであること、小屋谷川拱渠は内部に勾配があり、途中で何段にも高さを変えている点が珍しいとの指摘があります。

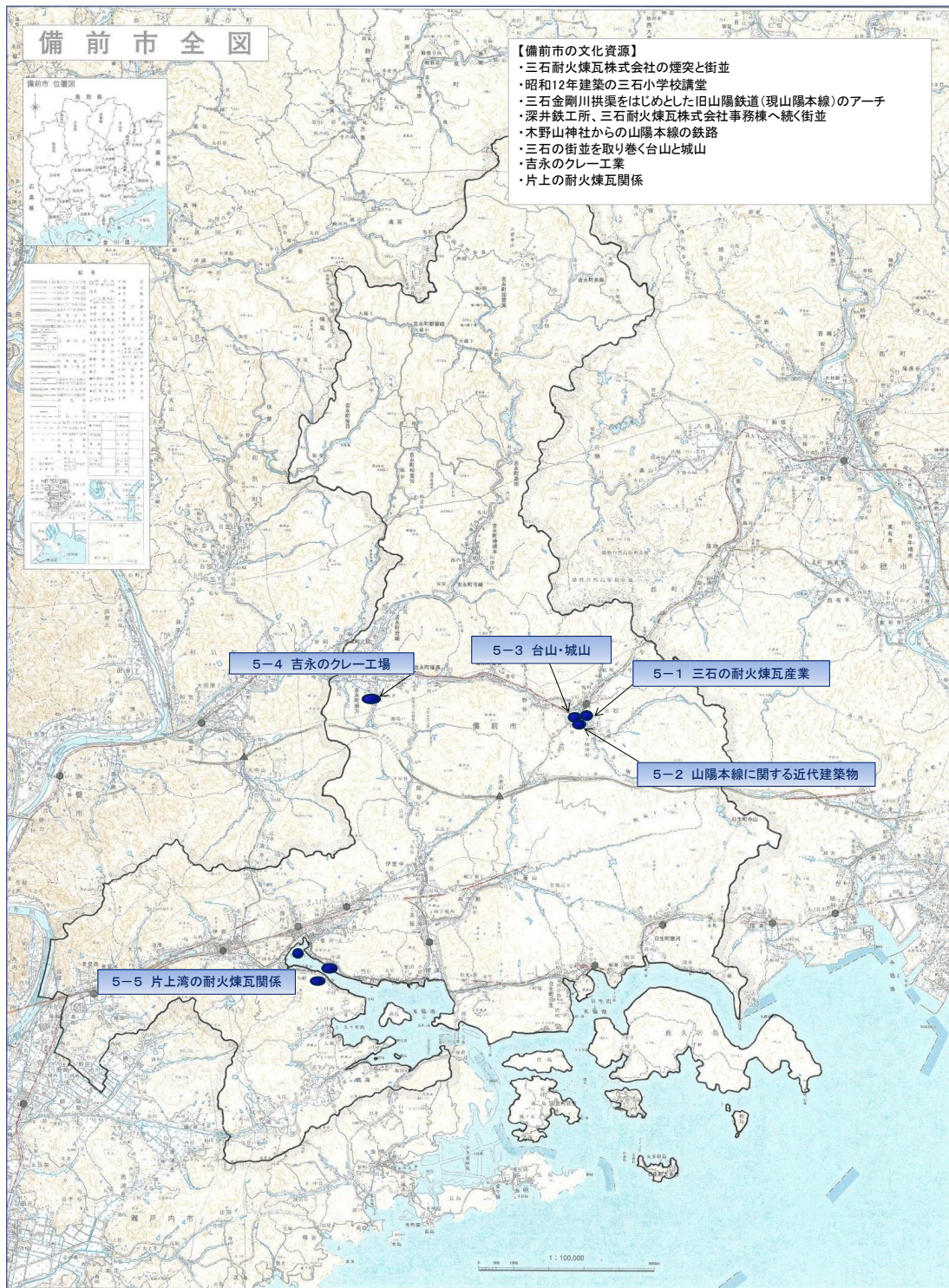
JR の煉瓦拱渠群(アーチ橋)以外にも、三石地区には M プロジェクトの象徴的存在となっている昭和 12(1937)年に完成した三石小学校講堂、入り口に独特のアーチを持つ木造三階建ての深井鉄工所、三石耐火煉瓦株式会社の煙突など、耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち、三石を特徴づけています。

吉永地区南部には工場に隣接して、校倉造り風の大型の建物をみることがあります。風を中にいれ、製品であるクレーを乾燥させるための施設です。その工場のひとつ山陽クレー工業株式会社のホームページによると「クレーは元来粘土、または白土と訳されるが、日本では主としてろう石を微粉末にしたものをさす。ゴム業界ではクレーのことをカタルポといい、薬品業界ではカオリン、製紙業界では白土と呼び、業界によって異なる。タルクは中国から原石を輸入し粉碎精錬した鉱物の粉末で、用途は製紙の填料、農薬のキャリアー、塗料接着剤、ゴム、樹脂、紡績、医薬等幅広い分野にわたって利用されています。商品本来の機能を十分に発揮させるために潤滑油的役割をもつ原料」(一部改変)との説明があります。このクレー、戦後の復興期には全国の 9 割を占める主要な産業のひとつであり、現在でも製品を乾燥させる施設は独特の景観をつくりだしています。

【表 5-6】「⑤耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財 の 所在地	
5-1	三石の耐火煉瓦産業	未指定	耐火煉瓦の需要の増加や、備前焼の窯の技術を持つ地域が近くにあったこと、太平鉱山のろう石開発が行われていたことなどから、加藤忍九郎の三石耐火煉瓦株式会社が発展し、三石地区に耐火煉瓦工場が集中し発展した。	三石	5-1 耐火煉瓦産業の街並み 
5-2	山陽本線に関する近代建築物	未指定	三石地区を通る JR 山陽本線には、四連の三石金剛川拱渠、小屋谷川拱渠をはじめ計 10 基もの煉瓦拱渠群（アーチ橋）が連続している区間が現存している。	三石	
5-3	台山・城山	未指定	三石地区は、国内屈指のろう石の産地である台山や、城山には中世の山城である三石城に囲まれている。	三石	5-3 台山 
5-4	旧三石尋常小学校 旧講堂等の近代建築	未指定	三石地区には耐火煉瓦産業が発展していた当時の建築物が点在し、三石の町並みを特徴づけている。	三石	
5-5	吉永のクレー工業	未指定	クレーとは、ろう石を微粉末にしたもので、戦後の復興期には全国の 9 割を占める主要な産業のひとつであった。製品を乾燥させる施設は独特の景観をつくりだしている。	吉永	
5-6	片上湾の耐火煉瓦関係	未指定	片上湾沿いを中心に耐火煉瓦等の工場が並んでいる。	片上	5-6 片上湾の耐火煉瓦関係 

⑤ 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち



【図5-6】

⑥ 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと

6 番目に設定した関連文化財群は、文化財のフレームからではなく、備前市で映画・テレビドラマのロケ地となった場所、備前市出身またはゆかりのある文学者とその作品に登場する舞台という大きく二つの視点から構成してみました。

まず映画・テレビドラマのロケ地となった場所ですが、昭和 31(1956)年公開の原節子主演、小津安二郎監督の「早春」を嚆矢に平成 21(2009)年公開の広末涼子、中谷美紀主演の映画「ゼロの焦点」まで 10 例を数えます。岡山県内では倉敷市的美観地区、岡山市の西大寺地区、高梁市の中心部の街並みなどがロケ地としてよく知られていますが、備前市内でも比較的ロケが多く行われています。市内地区別では三石地区と八塔寺ふるさと村の 2 か所が多くなっています。これは三石地区や八塔寺ふるさと村がひとつの関連文化財群として構成できるほど特徴的な景観をもつところに起因すると思われます。

次に備前市出身またはゆかりのある文学者を取り上げてみました。明治末から昭和初期に活躍した穂浪出身の正宗白鳥、「眠狂四郎」シリーズで知られる鶴海出身の直木賞作家柴田錬三郎、純文学からハードボイルド、恋愛小説まで幅広い執筆で「小説の名人」とも称された片上出身の直木賞作家藤原審爾、プロレタリア文学者として再評価が進む日生寒河出身の里村欣三、「エンキョリレンアイ」などの恋愛小説が話題を呼ぶ伊部出身の小手鞠るい、昭和 50 年代の日本のサブカルチャーをけん引した編集者で吉永出身の末井昭があげられます。出身者ではないものの、会社員として日生に在住していた眉村卓は SF 作家で、平成 21(2009)年、病気で亡くなった妻に日々ショートショート作品を捧げた実話をもとにした「僕と妻の 1778 の物語」が竹内結子、草彥剛主演で映画化されています。

漫画では、原作ディスク・ふらい、作画西崎泰正による「ハルカの陶」が平成 23(2011)年に話題となりました。その後映画化もされています。原画作者は岡山市出身ですが、備前焼に魅せられ窯元で修行するハルカを伊部の町並みを背景にさわやかに描き、陶芸の世界に新しい風を吹き込んでいます。

以上、端的に言えば「エンターテインメントと備前」という関連文化財群ですが、映画、文学、漫画などは現代人の生活を潤す重要なアイテムでもあります。それを生み出す「人」が片上湾から日生湾にかけて多く輩出し、生み出す「場所」が「三石地区」「八塔寺ふるさと村」「伊部地区」に多くあります。

【表 5-7】「⑥映画と文学、「心象風景」の残るふるさと」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財 の 所在地	
6-1	映画のロケ地	未指定	映画のロケ地は三石地区と八塔寺ふるさと村の2か所が多い。これは三石地区や八塔寺ふるさと村がひとつの関連文化財群として構成できるほど特徴的な景観をもつところに起因する。	伊部 片上 三石 吉永	6-1 映画のロケ地 
6-2	備前ゆかりの文学者	未指定	備前市ゆかりの文学者は、正宗白鳥、藤原審爾、里村欣三、小手鞠るい、眉村卓などで、それぞれ穂波、片上、日生、伊里、日生に係わる場所がある。	伊部 片上 伊里 日生	6-2 備前ゆかりの文学者 

⑥ 映画と文学、「心象風景」の残るふさと



【図5-7】

⑦ 交流と流通の要となった地

縄文時代から現代まで、備前地域では多くの人が行き交い、住み、物をつくり、産業を興し、衰退離散し、その繰り返りで地域が成り立ってきました。備前地域の地勢・地政は、古代以前では海岸部にあっても急峻な熊山山塊があることが遺跡の立地に影響を与え、古代ではその急峻さが密教系寺院にとって拠点置く好条件となり、中世では山城を築く際に有利にはたきました。平野部においても、山陽道が中世後半に片上・伊部ルートに変わったことも地域の成り立ちに大きな影響を与えました。海浜部においても、片上湾という内海が、古代には美作国の津、中近世には備前焼の積出、近代には柵原の鉄鉱石や煉瓦などの集散地点として利用されました。日生地区の島嶼部においては、入江を利用した千軒遺跡の立地、近世には豊かな漁場、近代以降はカキ筏の養殖と展開します。そうした営みの中で備前地域の風土が作られ、人々の暮らしの中に現在でも息づいています。

縄文時代、片上に人々が定住した集落跡の長縄手遺跡、古墳時代には 30 数面もの鏡が出土した国指定史跡の丸山古墳、古代には美作国の津であった片上、中世では靈山寺中心に宗教的拠点を形成した熊山、鹿久居島に展開した千軒遺跡、戦国武将が覇権を争った三石城や富田松山城、近世山陽道沿いの醸造業やお歯黒生産で栄えた香登、柵原の硫化鉄鉱石の積み出しルートである片上鉄道と片上港など、交通・流通の要となった地の概要をまとめます。

a. 原始

- ・長縄手遺跡は、今から 4,000 年前、縄文時代中期末の片上の地にあった縄文時代の集落。西日本で確認された縄文時代の集落跡では、住居跡などが良好な状態で残存しているなど研究上重要な遺跡のひとつです。

- ・丸山古墳は、吉井川の左岸の丘陵上に立地する古墳で舶載三角縁神獣鏡など 31 面もの鏡を出土したことで知られます。南北 68m、東西 55m、高さ 9m の円墳。

b. 古代

- ・「延喜式」という平安中期に編纂された律令の施行細則、つまり格式によると、平成 25(2013)年に建国 1,300 年となった美作国の津は「片上」で、長縄手遺跡内では奈良時代の井戸枠も確認されています。

c. 中世

- ・奈良時代の仏塔ともいわれる熊山遺跡が形成された後に熊山山上に成立した靈山寺は、修験など中世の宗教的拠点ともなり、備前焼の生産を庇護したともいわれます。

・鹿久居島の千軒湾の入り江に位置する千軒遺跡は、縄文時代から中世にわたる遺跡で、特に鎌倉から室町期にかけて流通の拠点と推定されています。

・吉永地区の医王山城、三石城、片上地区の富田松山城、香登城など赤松氏、浦上氏らが跳梁跋扈した山城が展開します。

・「兵庫北関入船納帳」には備前焼を積んだ船の記載があり、片上、浦伊部などの港湾名がみられる。伊部地区(浦伊部)の「来住家」付近には備前焼の積み出し拠点があったことが推定されています。

d. 近世

・第11代万代常閑の時、家伝の「延寿返魂丹」が富山に伝わり「越中富山の売薬の始祖」となりました。子孫は片上で万代医院を経営していました。

・「お歯黒」の生産地として香登産は高級品として知られていました。

・近世山陽道の香登周辺は醸造業などで栄え、その富が香登教会や石井十次など慈善事業のスポンサー的役割を果たしました。

e. 近代

・片上地区は柵原で産出した硫化鉄鉱石を積み出すためのルート片上鉄道と港湾施設が展開した地域です。現在でもディーゼル機関車や流川鉄橋、片鉄ロマン街道などが残っています。

三石地区は「日本の近代化を支えたまち三石の耐火煉瓦産業」で詳述しています。

【表 5-8】「⑦交流と流通の要となった地」構成文化資源一覧

番号	文化資源 の名称	指定等 の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の 所在地	7-3 丸山古墳 
7-1	長縄手遺跡	未指定	縄文時代中期末の片上湾最深部にあった集落。西日本で確認された縄文時代の集落跡では、住居跡などが良好な状態で残存しているなど研究上重要な遺跡のひとつ。	片上	
7-2	熊山の霊山寺跡・石積み群など	未指定	熊山遺跡が形成された後に熊山山上に成立した霊山寺は、修験など中世の宗教的拠点ともなり、備前焼の生産を庇護したともいわれる。	香登	

7-3	備前市の 古墳	国史跡市 史跡	30数面もの鏡が出土した国指定史跡の丸山古墳や、天神山古墳、西鶴山地区の低丘陵上に広がる古墳群がある。	東鶴山 西鶴山
7-4	鹿久居島の千軒遺跡と入江	未指定	鹿久居島の千軒湾の入り江に位置する県重要遺跡の千軒遺跡は、縄文時代から中世にわたる遺跡で、特に鎌倉から室町期にかけて流通の拠点と推定されている。	日生
7-5	備前市の山城	県史跡市 史跡	県指定史跡の三石城跡、富田松山城跡、香登城跡、医王山城跡など山間部に山城が点在する。	備前市
7-6	万代医院跡と万代常閑	未指定	第11代万代常閑の時、家伝の「延寿反魂丹」が富山に伝わり「越中富山の売薬の始祖」となった。子孫は片上で万代医院を経営していた。	片上
7-7	片上ロマン街道	未指定	片上鉄道のナローゲージ（狭軌）跡を平成14（2002）年に片鉄ロマン街道（サイクリングロード）として整備した。	片上
7-8	香登の町並み	未指定	近世山陽道の香登周辺は醸造業などで栄え、その富で香登教会や石井十次など慈善事業のスポンサー的役割を果たした。	香登
7-9	来住家 妙圀寺	市史跡	備前焼の積出拠点とされる浦伊部来住家と市指定史跡の伝太閤門跡、妙圀寺。	伊部

7-7 片上鉄道ゼロ起点 （片上ロマン街道）



7-8 香登の町並み



⑦ 交流と流通の要となった地



【図5-8】

第6章 文化資源の保存・活用に関する課題と方針

1 文化資源の保存・活用に関する現状と課題

(1) 調査・把握に係る現状と課題

備前市では、第2章で概要を記したように、これまで様々な文化資源把握調査が行われ、成果を上げていますが、産業遺産を含む建造物、古文書、動物、地質鉱物、保存技術、民俗など特定の分野で基礎的な調査が行われていません。このことは1市2町が合併して新備前市になって15年以上経過しているのに、指定文化財が統一した基準で加除ができていないことにもつながっています。

平成17(2005)年に合併した備前市・吉永町・日生町のうち、比較的把握が進んでいるといえるのは旧吉永町です。旧吉永町では町史が^{へんさん}編纂されており、多くの文化資源が紹介されています。通史に関連したものが中心で、文化資源の把握が十分なものとはいえませんが、民俗や文献についても詳しく記載されています。旧日生町は、民俗や自然に関しては、シリーズで冊子を刊行するなど比較的把握が進んでいますが、有形文化財や埋蔵文化財に関してまとめられたものは少ないのが現状です。これは旧日生町が刊行した『日生町誌』にも同じ傾向が見て取れます。旧備前市に至っては自治体史が編纂された事はありません。平成17(2005)年以前に合併した旧伊部町・旧三石町・旧片上町で情報量にばらつきはあるものの、町誌・町史が編纂される等、一部の地域についてある程度文化資源の把握ができています。

文化施設では、冊子が刊行され、絵馬や井田など設定された企画展のテーマで文化資源の把握が進んでいる一方、仏像と石造物の分野は民間によって、悉皆的な調査が行われています。埋蔵文化財の把握に関しては備前焼の窯跡の発掘調査が行われ、報告書が発行される等、比較的充実しているといえます。その他、3市町合併の後、地域の公民館が文化資源についてまとめたものがあります。広域では、備前市・和気町・赤穂市の一部が属していた和気郡を対象とした地域誌が刊行されていますが、これは邑久郡に属していた東鶴山地区を含んでいません。全体に通史の記述が多く、各分野にわたる網羅的な記述にはなっていません。市全体で悉皆的な調査を終えているのは仏像調査や植物相の調査です。

未調査の分野に関しては、どのような調査が必要か的確に把握した課題をもとに、事業規模等を考慮しながら予算措置も勘案し、年次計画的に実施に移していく必要があります。そうすることで、備前市の歴史文化の特徴が具体的に今まで以上に明らかになっていきます。

【表 6-1】地区別の調査状況

旧地区	地区	時代区分	建造物	美術工芸品	無形文化財	民俗文化財	史跡	名勝	動植物・地質鉱物	文化的景観	伝統的建造物群	文化財の保存技術	埋蔵文化財
旧備前市	東鶴山	先史	—	△	△	△	△	○	△	—	—	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	未	△			△						
		近世	未	△			△						
		近現代	未	△			△						
	西鶴山	先史	—	△	△	△	△	○	△	—	—	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	未	△			△						
		近世	未	△			△						
		近現代	未	△			△						
	香登	先史	—	△	△	△	△	—	△	未	△	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	未	△			△						
		近世	未	△			△						
		近現代	未	△			△						
	伊部	先史	—	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	△	△			△						
		近世	△	△			△						
		近現代	△	△			△						
	片上	先史	—	△	△	△	△	○	△	—	—	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	△	△			△						
		近世	△	△			△						
		近現代	△	△			△						
	伊里	先史	—	△	△	△	△	○	△	△	—	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	△	△			△						
		近世	△	△			△						
		近現代	△	△			△						
	三石	先史	—	△	△	△	△	○	△	△	—	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	未	△			△						
		近世	未	△			△						
		近現代	△	△			△						
旧日生町	日生	先史	—	△	△	△	△	△	△	△	—	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	未	△			△						
		近世	未	△			△						
		近現代	未	△			△						
	寒河	先史	—	△	△	△	△	△	△	未	—	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	未	△			△						
		近世	未	△			△						
		近現代	未	△			△						
旧吉永町	吉永	先史	—	△	△	△	△	○	△	△	—	△	△
		古代	—	△			△						
		中世	△	△			△						
		近世	△	△			△						
		近現代	未	△			△						

(凡例)

○ おおむね調査ができています

△ さらに調査が必要

— 該当なし

未 未調査

（２） 保存に係る現状と課題

文化資源を次世代に引き継ぐためには適切な管理、適時の修理を行う必要があります。近年、市指定の建造物で大規模修理が連続し、多額の補助金を交付しています。さらに毎年、指定文化財に草刈等の管理費用の補助や、防犯防災設備への補助も行っています。しかし、補助する行政側、管理する所有者側双方に負担が大きく、今後指定された建造物などの経年劣化にともなう維持管理に係る費用の増大も見込まれます。

保存修理のための補助金や調査経費は年々増加する傾向にあります。財政の枠も限られていますので、緊急性や優先度などを考慮して、整理する必要があります。10ヶ年単位ぐらいで、事業内容や財政規律から重点的に取り組むものを検討していく必要もあります。

このように保存に関する補助制度はありますが、対象になる文化資源が有機的に関連付けられていないことから、指定文化財のみの限定的な保存しかできていないのが現状です。文化資源が持つ特徴を明らかにできていないものが多く、そのため効率的な保存の方法がとられていないのも一因です。指定された文化資源の維持管理費が年々増大していて、今後民間資金の導入など長いスパンでの計画が必要です。

これまであまり備前市内では大規模な史跡整備事業が行われていません。現在、備前陶器窯跡保存活用計画を策定済みですが、実際の整備は数年先からとなります。市域内において、国宝・国重文・特別史跡など複数の指定がかかる旧閑谷学校は、(財)特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会が岡山県の指定管理者として適切な運営を行い、価値の保存を行っています。

（３） 活用に係る現状と課題

同様の機能を持つ文化施設が地域内に点在しているため、文化資源に関する効率的・効果的な活用が難しい状況にあります。そのため令和(2020)年に策定された施設再編計画に合わせて、拠点となる施設、そこを補完する施設に再編することが喫緊の課題です。

一方、日本遺産の構成資産である「延原家文書」をはじめ地域の歴史を語る重要な古文書類や歴史資料が未調査のまま散逸する恐れもあり、体系立てた調査が急務ともなっています。さらに、国指定史跡「備前陶器窯跡」に関しては、保存活用計画が策定されていますが、整備はこれからとなり整備費用の確保も課題となります。国指定史跡「丸山古墳」では、整備構想も未着手、公有化計画も現在ありません。今後は再編された文化施設からの情報発信を行いながら、事業着手の機運を高める必要があります。

閑谷学校、備前焼の里など訪れた人たちが長い時間備前市に滞留し、じっくりと備前市

の歴史文化に触れるように、いかに周遊ルートを整備し、拠点を形成するかも課題であり、今後観光部局とより緊密な連携が必要になってきます。

観光エリアでありながら空き家が増えている伊部地区などその対策は地域づくりとの関連もあり重要な問題となっています。平成 23(2011)年度創設された空き家情報バンク制度を活用しながら、芸術家の市外から招聘など制度の活用方法を検討していく必要があります。

また来訪者が気軽に備前市内を周遊したり、快適な滞在できるようユニバーサルデザインに基づく史跡や施設の整備、また統一したデザインによる案内表示板等の充実が必要となります。

(4) ひとづくり・しくみに係る現状と課題

過疎化が進む地域、限界集落となっている地域では祭りや行事、生活文化の保存継承が危機に瀕し、すでに主催者や伝承者がいなくなることで消滅したものも多くあります。これら担い手不足により、伝統の技や知恵、活動が失われている状況にあります。このような状況に伴い、若者をはじめとする伝統文化や地域の成り立ちへの関心の低下が懸念されるなか、備前市の文化資源の価値や魅力を地域住民に理解してもらえるような備前歴史フォーラムや講座・講演会などの今まで以上の取り組みが今後必要となります。さらには、地域やまちの未来を担う子どもたちが文化資源に関心を持てるような郷土学習などのしくみづくりをどのように構築していくかも、課題となっています。一方で、熊沢蕃山、津田永忠など郷土ゆかりの人物、柴田錬三郎、藤原審爾、正宗白鳥など郷土出身の文学者に関して学んだり顕彰することによって、地域への愛着を深める機会とすることも大切です。

また、文化財行政を担っている教育委員会部局では、文化財専門職員（学芸員）、埋蔵文化財専門職員の適正な配置がなされていないため文化財全体を保存・活用していく取り組みを円滑に進めることができていないのが現状です。今後の計画的な職員配置による適正な体制づくりが必要となります。さらには専門職員が研修などを通してスキルアップすることは、適正な人材育成の一環として重要であり、体制維持の基盤となります。一方で文化資源を教育委員会部局だけの課題としてとらえるのではなく、庁内の観光、企画などの関連部局・NPO・備前市ボランティアガイド協会などの任意団体との連携も必要となってきます。

2 文化資源の保存・活用に関する方針

(1) 将来像

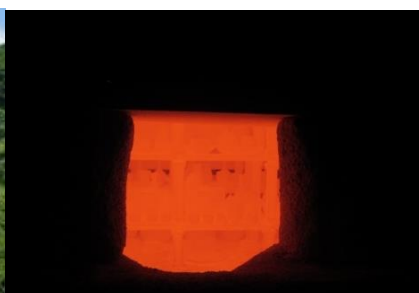
備前市内には旧閑谷学校、備前焼、瀬戸内海からの海産物、四季折々に美しい山々などがあり、豊かな歴史文化・自然に恵まれた地域です。それらは備前焼などの窯業をはじめ、現代の生活の中で脈々と息づいています。地域の特色を構成するこれら文化資源を、広い視点に立ち第3次総合計画・第2期総合戦略、教育に関する大綱など関連施策と調整をはかりながら、次世代へ引継いでいくことが重要です。文化資源を地域の宝として大切に思う人づくりを永続的に進めることで、郷土に対する愛着が高まり、心豊かにいつまでも住み続けたいまちになるものと考えます。

豊かな歴史文化、自然は、地域の魅力であり、多くの来訪者・観光客を引きつける資源です。それは地域経済へも影響を与えます。来訪者視点で地域の人々が新たな魅力作りをじっくり行うことが大切です。魅力的な情報発信を行い、多くの人々が来訪し、新たな交流が生まれることが、地域づくり、まちづくりの起点になります。

各地域では、ご当地グルメであるカキオコや、日本遺産に認定された近世日本の教育遺産群の構成資産である井田跡で栽培された井田米を使用し、備前市里海・里山ブランド「みんなでびぜん」として認定された日本酒「備前井田」を顕著な例として、観光資源、まちづくりのきっかけとして活用していく取組みも盛んです。これら文化資源は、長い時間をかけて形成されたもので、地域の個性とも言えます。そうしたことを踏まえ、備前市の文化資源の保存と活用に関する将来像として、「**地域の文化資源を活用し、地域につながりを取り戻し、郷土に対する愛着を高め、未来のまちづくりへつなげる**」とし、「ふるさは備前です」と言えば、世界中の人が相槌を打つようなまちを目指します。



学びの原郷「閑谷学校」



800 有余年続く「備前焼」

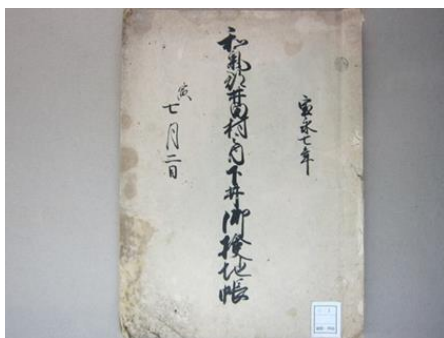


豊かな海産物「五味の市」

(2) 基本方針

① 調査・把握に係る基本方針

備前市には未指定の文化財が多く存在しており、今後は産業遺産を含む歴史的建造物の総合的調査、仏画・肖像画の調査、古文書の調査、植生の最新状況の把握調査、民俗調査など各分野の悉皆的調査と、井田跡、熊山山塊の戒壇、備前焼陶工・窯元、備前焼宮獅子、耐火物など地域やテーマに基づいた総合的な調査による文化資源の把握が急務です。こうした取り組みにより備前市の特徴的な歴史文化を明らかにしていきます。あわせて、調査が終了した分野に関しても成果物等の定期的な情報の更新が必要です。



備前国和気郡井田村延原家文書

② 保存に係る基本方針

文化資源の保存管理を適切に行うためには、それらが継続的に営々と行われることが大切であり、年次的で計画的な修理を行う必要があります。そのため、民間資金も含めて様々な補助制度・助成制度を有効に使いながら、地域の人々とも連携して長期的で効果的な保存や整備を文化資源に対して行っていきます。

文化資源をとりまく周辺環境を含めた一体的な保存管理のための環境整備等に取り組み、文化資源の状況等を継続的にモニタリングする体制を整備していきます。

③ 活用に係る基本方針

国史跡備前陶器窯跡など拠点となる史跡や施設の整備の検討を行い、空き家情報バンクのデータも活用しながら、地域の人々が地域の歴史文化を体感できるような場を創出します。その場では、地域の人々が主体的、継続的に、文化資源の保存と活用に取り組んでいきます。これまでの様々な分野にわたる調査成果やこれから行う調査の結果を情報発信し、備前市の歴史文化の特徴が多くの人に届くようにします。情報発信の強化、様々な媒体を

使ったメディアの多様化を目指し、備前市の歴史文化に関する情報が的確に利用したい人に届くようにします。そして発信された内容が単体であるのではなく、ほかの分野と関係して備前市の歴史文化の特徴を作り出していることが届くよう各事業が有機的関係を持った取り組みになるようにします。さらには、有機的関連性を持たせた文化資源をめぐる周遊ルートを設定するなど、その内容の情報発信を行ってきます。

③ ひとづくり・しくみに係る基本方針

備前市の文化資源を自然に大切に思える人をふやすために、魅力発信のイベント、各地域での文化資源をテーマにしたワークショップの開催、学校教育における郷土学習など、それが永続する仕組みをつくります。一方、文化資源の保存・活用のための体制整備として文化財専門職員の適正な配置や庁内の横断的な連携体制を整えます。そのために、専門職員の計画的な採用、適正な人材育成を行っていきます。

これまで保存・活用を担ってきた地域や団体等のコミュニティとしての活力を保ち、その活性化を促すため、地域及び各種団体間のネットワークづくりや活動への支援充実に取り組めます。

また、子どもたちが歴史文化に触れる機会を増やし、学校教育等様々な場を通じた担い手育成に取り組めます。



論語かるた伊里中学校かるた大会の様子

3 関連文化財群の保存活用に関する課題と方針

本項では、関連文化財群ごとの課題及び方針を記述します。

(1) 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産

旧閑谷学校の重要文化財の建物は、経年劣化に対応するための維持・修理の負荷が年々大きくなっています。近年は特別史跡地内のどこかの建物で修理工事が実施されています。特別史跡旧閑谷学校保存管理計画に基づく業務のうち、旧閑谷学校への理解を深めてもらうための施策や講演会やシンポジウムなどを行いその価値の周知など、岡山県と連携しながら行っています。一方、旧閑谷学校の価値をより広く伝えるために情報発信のもととなる「コミュニティ」「人材育成」などをテーマとした戦略の検討を、備前市・近世史の専門家・備前市ボランティアガイド協会などの団体・市民が連携しながら行っています。熊沢蕃山の顕彰事業やそれに関する生涯学習施設の整備等の検討を令和 5(2023)年度を目途に備前市熊沢蕃山顕彰推進委員会・熊沢蕃山マンガ製作活用検討委員会等で行っていきます。井田跡の開発に伴う確認調査、歴史資料調査、環境調査など総合的な調査のとりまとめを令和 6(2024)年度を目途に、備前市教育委員会で行っていきます。

(2) 備前焼を生み、栄えるまち

課題は、やきもの業界全体が不振のなかで、備前焼も不振が続いていること、窯場がある伊部地区の面的な観光、長時間滞在できるまちになっていないこと、地域の成り立ちや関連史跡への関心が希薄であることなどがあげられます。

備前市が専門家の指導を受けながら史跡伊部南大窯跡整備基本構想に基づく保存活用計画の実施、史跡整備に向けた調査を令和 7(2025)年度を目途に実施していきます。行政と専門家からなる実行委員会で備前地域の歴史の情報発信のための備前歴史フォーラムの開催を継続していきます。行政が平成 30(2018)年度から実施している中世備前焼総合調査事業の成果を、令和 3(2021)年度中にまとめ、保護すべき窯跡群の位置づけなど次の段階の事業に生かしていきます。備前市教育委員会の学芸員と近世史の専門家で関連団体の協力を得ながら近代以降の備前焼陶工・窯元の調査・現代作家の活動状況の把握を令和 9(2027)年度を目途に実施していきます。備前市教育委員会の学芸員と専門家で無銘の備前焼宮獅子の実態把握調査を令和 5(2023)年度を目途に実施していきます。

竹筆、ろう石加工技術など未指定伝統技術の実態把握調査を備前市教育委員会が主体となり令和 10(2028)年度から令和 12(2030)年度の間実施します。

(3) 近代漁業発祥のまちと食文化

近代漁業のあらましなど、漁業のまちとして栄えた日生地区の歴史や産業をテーマにした常設展示を加子浦歴史文化館で行っていますが、備前市内の各地域における食文化の違いなどの悉皆的な調査はできていません。平成 30(2018)年には古くから漁業で栄えてきた日生地区の食文化をテーマに加子浦歴史文化館で企画展を行いました。この展示を通してみえてきたことは、長い年月を経て市内各地域の伝統的な行事や作法と結びついた食文化が、どのように形成されたのか、また代々受け継いできた食文化が失われないための方策が必要ということです。

今後、備前市が関連団体や市民の協力を得ながら、加子浦歴史文化館など文化施設での情報発信を営々と行っていく、食文化をテーマにしたワークショップの開催や調査研究の深化を図っていきます。また、備前市の文化資源の商品化やそれをテーマにした企画に対する支援方法を備前市が検討するとともに、農林水産部局と連携をとりながら関連団体を中心になって実施していきます。

(4) 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観

ふるさと村の景観維持のための費用の負荷がかかりますが、管理する分母となる人口が限界集落に近い状態です。また、調査研究の進展がなく、この地域の本質的価値の情報発信がしにくいという側面があります。

県内大学の中世史の専門家の指導を受けながら備前市教育委員会が八塔寺の歴史の調査・研究の深化と調査方法の検討、成果の発信を行っていきます。これらの成果をもとに、備前市教育委員会・関連団体を中心となり「ふるさと村」の情報発信を行っていきます。専門家の助言を受けながら、備前市が景勝地・動物・植物・地質鉱物等の把握調査を行っていきます。

(5) 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち

近代化遺産の本質的価値の情報発信とその組織、資産の管理者と保護の関連で課題があります。

近代窯業史の専門家の指導、備前市セラミックスセンターなど関連機関の助言を受けながら、備前市が耐火煉瓦産業に関する悉皆調査や備前市近代化遺産の保存方法の検討をしていきます。関連団体が大人の工場見学会(耐火煉瓦やクレイ工業)の実施を検討します。備前市教育委員会が、近代の建造物の専門家の指導を受けながら三石小学校講堂など、文

化資源の拠点となる構成資産の整備方法の検討をします。

(6) 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと

拠点的な情報発信の場所がなく、市民の意識もそこまで醸成されていないのが課題です。

備前市が関連団体の協力を得ながら備前ゆかりの文学者等の情報発信方法の検討をしていきます。関連団体が、映画ロケ地巡りツアーの実施とロケ地候補の検討をしていきます。市民・関連団体が素材「備前市」の積極的活用を検討していきます。備前市の各文化施設が、近代文学史などの専門家の助言を受けながら文学者など備前ゆかりの人物など顕彰事業(企画展など)を実施していきます。

(7) 交流、流通の要となった地

顕著な資産がありながら、体系立てて、歴史文化の文脈に乗せて情報発信ができていない点、本質的価値が丁寧に抽出できず情報発信に至っていないという点が課題です。

近世・近代の交通史、流通史の専門家の指導を受けながら、備前市教育委員会が「交通・流通」をテーマとした調査研究の深化をはかります。関係団体・専門家の協力を受けながら備前市が「交通・流通」をテーマとしたワークショップの開催をしていきます。考古学・保存科学の専門家の助言を受けながら備前市教育委員会が丸山古墳の価値の明確化に向けた手法の検討・認知度の向上をはかっていきます。備前市教育委員会埋蔵文化財専門職員が、考古学の専門家の助言を受けながら備前市内にある遺跡のさらなる価値の明確化に向けた調査の実施をしていきます。関連団体、備前市が令和 6(2024)年度から令和 12(2030)年度にかけて、古民家のまちづくりへの活用を検討していきます。令和 5(2023)年度に取りまとめを目途に備前民俗調査委員会など専門家の指導を受けながら備前市教育委員会が祭り、年中行事などを対象とした総合的な民俗文化財調査の実施をしていきます。備前市がユニバーサルデザインに配慮した総合的なガイダンス方法(案内表示など)の検討と実施をしていきます。

第7章 文化資源の保存・活用に関する措置

1 措置の考え方と重点的な措置について

文化資源の保存と活用に関する将来像の実現に向けて、それぞれの課題及び方針に対応した個別の措置を講じます。措置は、市費、県費、国費（文化財補助金、地方創生推進交付金等）、その他、民間等の資金も活用しながら取組を進めます。また、計画期間内に取り組む措置のうち、緊急性を要するもの、観光や地域振興など他分野と関連し取り組みの相乗効果等が期待できるもの、保存・活用を今後推進していくための基礎となる仕組みづくりなどについて、重点的に取り組む措置（重点措置）と位置付けます。

2 措置の概要について

(1) 調査・把握に係る措置

備前市では、令和12(2030)年までの間に、文化財をはじめとする多くの文化資源の調査を行い、その活かし方やさらなる魅力の発見につながるよう、特に以下について、総合的な調査およびテーマに基づく調査を行っていきます。

【表 7-1】調査・把握に係る措置一覧表

番号	既存 /新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重点 措置	予定する財 源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
1	新規	歴史的建造物の総合的調査	歴史的建造物について、文化資源の新規指定・登録や解除候補の把握のための総合的調査を行います。	—	—	◎	◎	●	●	●		市
2	既存 継続	仏画・肖像画の調査	市内27寺院のうち、終了していない残り約3分の2の仏画・肖像画の悉皆的調査は外部専門家を招聘し実施します。	—	—	◎	◎	●	●			市
3	新規	古文書の調査	日本遺産の構成資産の一つである「延原文書」などの市内に現存する古文書の所在調査及び内容確認を行います。	—	—	◎	◎	●	●		■	国文 市
4	既存 継続	井田跡の総合調査	日本遺産の構成資産でもある「井田跡」に関して、発掘調査、石垣の測量等を行い、その価値を明らかにしていきます。	—	△ 備考	◎	◎	●	●		■	国文 県 市

5	既存 継続	熊山山塊の戒 壇群の調査	史跡伊部南大窯跡整備基本構想に基づき、中世備前 焼調査事業としてさらなる価値の明確化に向けた 調査の実施を検討します。	—	—	◎	◎	●				国文 市
6	新規	未調査・調査途 中の案件への 取り組み	岡山藩主池田家墓所など備前市内にある史跡のさ らなる価値の明確化に向けた調査の実施	—	—	◎	◎	●	●	●		市
7	新規	植生の最新状 況の把握調査	植物相の最新状況を把握するため、補足調査を専門 家へ委託し、平成 25(2013)年に作成した「備前市植 物目録」を最新情報に更新します。	—	—	◎	◎	●				市
8	新規	景勝地・天然記 念物等の把握 調査	景勝地・動物・植物・地質鉱物等について、文化財 新規指定・登録や解除候補を把握するための調査を 行います。	—	—	◎	◎	●	●			市
9	新規	歴史ある町並 みの調査	歴史ある町並みの景観を保持するため、その景観の 構成要素の調査を行います。	○	◎ 備ボ	○	◎	●	●			国文 市
10	既存 継続	備前焼陶工 ・窯元の調査	備前焼について、特に把握のできていない近代以降 の備前焼陶工・窯元や、現代作家の活動状況につい て調査を行います。関連して「備前焼の製作道具」 の再評価も行います。	—	△ 備民	◎	◎	●				市
11	既存 継続	備前焼宮獅子 の調査	全国の神社等に点在する、年号や陶工名が入ってい ない備前焼宮獅子について実態把握のための調査 を行います。	—	△ 備民	◎	◎	●				国文
12	新規	伝統技術の実 態把握調査	竹筆、ろう石加工技術など、備前市には備前焼以外 にも多くの伝統技術が残されています。このような 未指定の伝統技術について、実態把握の調査をし ます。	—	△ 備民	◎	◎		●			市 民
13	既存 継続	民俗の総合調 査	祭りや年中行事などの民俗文化を中心とした調査 を実施します。	—	○ 備民	◎	◎	●	●		■	国文 市

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

(2) 保存に係る措置

文化資源の保存はみんなで未来に向かって営々で行うもので、私たちの世代の責務です。日常の管理を普段から行い、モニタリング制度などを利用して地域の人々も見守れるようにします。また防災訓練などを通し、地域の文化財をみんなで守る意識を高め、地域で守る文化資源という防犯意識も育つように配慮していきます。特に国史跡丸山古墳に関しては、保存に向けた計画等がないので、保存活用計画、保存整備基本計画等の策定を検討していきます。以下の表にその内容をまとめています。

【表 7-2】保存に係る措置一覧表

番号	既存/ 新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重 点措置	予定す る財源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
14	既存 継続	文化資源の 保存・管理	岡山県文化財保護指導委員や管理者などが行う文化財パトロールによる日常点検等で異常があった場合、異常箇所の確認を行い、管理者等へ指導助言をします。	△	◎ 備ボ	○	○	●	●	●		国・県
15	新規	丸山古墳に 関する整備	国指定史跡丸山古墳について、将来的な保存のために整備構想の計画策定を検討します。	—	—	◎	◎			●		国文
16	既存 継続	補助・助成 制度の周知	修理などによって発生する経費が多額になる場合は、補助制度等があることを周知します。また、維持管理にとどまらず、文化資源を活かせるような国や県などの補助金の活用はもちろんのこと、民間における助成制度を把握し、その情報発信を行います。	△	◎ 備ボ	○	○	●	●	●		市
17	既存 継続	文化資源の 防災意識の 啓発	万が一の火災に備えた防災訓練等の実施と、盗難等の防犯に対応するための施策を検討します。国特別史跡旧閑谷学校、国指定重文大滝山三重塔、国指定重文真光寺三重塔・本堂で継続して防災訓練を実施していきます。	△	◎ 備ボ	△	◎	●	●	●		市
18	新規	モニタリン グ制度の実 施	文化財パトロールなどを活用しながら数多くある文化資源を地域住民が見守れるようにします。	◎	△ 備ボ	—	○		●	●		市

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

(3) 活用に係る措置

文化資源は、対象となる領域は幅広く、また活用するための手法・手段も様々です。そのため、それらを有機的に関連づけて行い、備前市の歴史文化の特徴が顕在化するように措置を行う必要があります。

文化資源を適切に保存管理して活用する拠点となる施設の整備を、既存施設の機能の再編も考慮しながらすすめていきます。拠点形成には空き家などの有効活用も検討します。次に国指定史跡備前陶器窯跡の整備を行い、国指定史跡丸山古墳の活用方法も検討していきます。これらを含めて閑谷学校、備前焼、日生の海産物を周遊するルートを設定し、来訪者の滞在時間が長くなるようルートを整備していきます。周遊ルート上は案内表示板などユニバーサルデザインに基づく総合的なガイダンスに配慮していきます。日本遺産の構成資産のひとつである「延原家文書」も翻刻して活用方法を検討するなど文化資源の効果的な情報発信を考えていきます。以下の表にその内容をまとめています。

【表 7-3】活用に係る措置一覧表

番号	既存 /新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重 点措置	予定する財 源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
19	既存 継続	文化施設の再 編成	令和 2(2020)年度に策定された施設再編計画に合わせて、適切に文化資源を調査、保存、管理、活用できる総合的な文化施設の再編成を検討します。	△	△ 備郷	△	◎	●	●	●	■	国 市
20	新規	拠点となる施 設の整備	再編に基づき、文化資源を保存・活用するため備前焼ミュージアムを中心として拠点施設を整備します。	△	△ 備郷	△	◎		●	●	■	国 市
21	新規	古文書の調査 結果の活用	日本遺産の構成資産の一つである「延原家文書」などの市内に現存する古文書の所在調査及び内容確認を行い、その翻刻と公開・活用の方法について検討していきます。	—	—	◎	◎		●	●	■	市
22	既存 拡充	備前陶器窯跡 の整備	史跡備前陶器窯跡整備基本計画(令和 4(2022)年度作成予定)に基づき、今後 10 年間、計画期間に基づき、史跡整備を進めていきます。	—	—	◎	◎	●	●	●	■	国文 市

23	既存 継続	丸山古墳に関 する活用	国指定史跡丸山古墳について、文化施設での展示やイベントを通じて、認知度の向上をはかりながら、丸山古墳の魅力を活かすための手法を検討していきます。	—	—	◎	◎		●	●		国文 市
24	新規	周遊ルート等 の設定	備前市内に多くの観光客が訪れ、滞在時間が長くなるよう閑谷学校、備前焼、日生の海産物が周遊できるように、その魅力に触れ学ぶことができる周遊ルートを設定します。	△	△ 備考	△	◎	●	●	●	■	国地 市
25	新規	周遊ルート等 の整備	周遊ルートのパンフレットを作るなど、市内文化資源を活用した観光基盤の整備を進めていきます。	△	◎ 備考	△	◎		●	●	■	国地 市
26	新規	空き家等活用	備前市空き家等実態調査の結果をもとに空き家等（文化的価値がある建物や文化的景観の地域指定等）を活用した支援事業の実施を検討します。	○	◎ 備考	○	◎		●	●		国地 市
27	新規	ストーリーの 拠点形成	関連文化財群のストーリーをもとに、国指定史跡備前陶器窯跡などその拠点となる構成資産の整備方法を検討します。	○	◎ 備考	○	◎			●		国地 市
28	既存 継続	文化資源を活 かした取り組 み	備前市の文化資源をテーマにした食品・生活雑貨の商品化、および周遊ツアーのパッケージ化の検討をした際に、その企画に対する支援方法を検討します。	○	◎ 備考	○	○	●	●	●		国地 市
29	既存 拡充	文化資源の情 報発信	文化資源の情報発信をおこないます。SNS等で若年層にも地域の文化に触れ、親しんでもらえるような遺跡発掘現場の体験イベントや動画配信を行います。備前歴史フォーラムなどその機会を活用します。	—	○ 備考	△	◎	●	●	●		国地 市
30	既存 継続	文化資源の情 報発信手法の 検討	文化資源の情報発信を行うため、SNS等で若年層にも地域の情報が届くよう配信アプリ等の開発など、情報発信の手法を検討します。	—	○ 備考	△	◎	●	●	●		国地 市
31	既存 拡充	案内表示板等 の整備	備前市を訪れた人が気軽に周遊できるよう、文化施設や史跡等への案内表示の充実を図ります。	—	○ 備考	△	◎	●	●	●		国地 市

32	新規	ユニバーサル デザインに基 づくガイダン ス方法の検討	備前市を訪れた人が気軽に周遊できるようユニバ ーサルデザインに配慮した総合的なガイダンス方 法を検討し実施します。	—	○ 備ボ	△	◎	●	●	●		国地 市
----	----	--------------------------------------	---	---	---------	---	---	---	---	---	--	---------

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

(4) ひとづくり・しくみに係る措置

文化資源を未来につなげていくのはそこに住む人々です。その流れが継続するよう文化資源の魅力が伝わるよう備前歴史フォーラムの開催、講座・講演会の実施、文化資源をテーマにしたワークショップを計画していきます。地域の文化資源に魅力を感じ、守るために郷土学習や熊沢蕃山など備前市ゆかりの人物の顕彰も計画していきます。さらには地域の紐帯ともいえる祭りが廃れないように民俗文化財継承の取り組みに支援していきます。一方で行政においても埋蔵文化財担当職員、文化財専門職員の適正な配置を行い関連部局との連携もとりながら文化資源の保存・活用を図っていきます。以下の表にその内容をまとめています。

【表 7-4】ひとづくり・しくみに係る措置一覧表

番号	既存/ 新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重 点措置	予定する財源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
33	既存 継続	備前歴史フォーラムの開催	講座やフォーラムを通して備前地域の歴史を中心に様々な分野の面から毎年テーマを設けて情報発信を行い、魅力を発信していきます。	○	◎ 備フ	○	◎	●	●	●		市
34	新規	地域住民によるモニタリング制度の実施	文化財パトロールだけでなく数多くある文化資源を地域住民が見守れるような体制の構築を検討します。	◎	△ 備ホ	—	○		●	●		市
35	既存 継続	市内文化施設における講座・講演の開催	市内文化施設で開催する企画展等に合わせて、地域住民が文化資源の魅力を理解できるような講演・講座を実施します。	—	—	○	◎	●	●	●		国文 市
36	既存 継続	市内文化施設におけるワークショップの開催	市内文化施設等で地域住民が文化資源の魅力を理解できるよう、周知されていない地元ゆかりの人物を知るためのワークショップの充実を図ります。	—	—	○	◎	●	●	●		国文 市
37	新規	学校教育における郷土学習	既に作成している「論議かるた」や「関谷学校の紙しばい」などを活用して、児童・生徒が地域の文化資源に魅力を感じ、地域に対する愛着や誇り、文化資源の継承に繋がるような取り組みを進めていきます。	○	△ 備ホ	△	◎	●	●	●	■	市
38	既存	学校教育における	小中学生だけでなく、教員や保護者にも理解しやすい媒体を作成し、それを活用した出前授業等工夫した学校	○		△	◎	●	●	●	■	市

	継続	る郷土学習の手 法の検討	教育・生涯学習の実施を行います。		△ 備郷								
39	既存 拡充	備前市ゆかりの 人物の顕彰	柴田鎮三郎、藤原審爾、正宗白鳥、正宗敦夫などの文 学者や津田永忠や山田方谷など、郷土にゆかりのある 人物について、市内文化施設において、折に触れて地 域に深くかかわった人物の周知を実施していきます。	△	○ 備郷	△	◎	●	●	●	■		市
40	既存 継続	熊澤蕃山の顕彰	閑谷学校を創設した池田光政に影響を与え、市内に隠 居した熊澤蕃山の顕彰事業に加え、それに関連する生 涯学習施設等の整備を検討して行きます。	△	○ 備郷	△	◎	●	●	●	■		市
41	新規	活動団体の取り 組み支援	各地域に所在する文化資源の維持管理等の取り組み 団体への支援を検討します。	△	○ 備ボ	△	◎	●	●	●			国地 市
42	既存 継続	民俗文化財継承 の取り組み支援	各地域の祭りや行事の継承に尽力する団体への支援 を検討します。	△	○ 備民	△	◎	●	●	●			国地 市
43	新規	埋蔵文化財に係 る体制の整備	埋蔵文化財の業務に適切に対応するため埋蔵文化財 専門職員を確保・配置して、埋蔵文化財行政の体制の 強化に努め、文化資源に関する情報発信や活用に取り 組めます。	△	△ 備ボ	△	◎	●	●	●			市
44	新規	文化資源活用に 係る体制の整備	市民からの相談や様々な問い合わせに適切に対応す るため専門的知識を有する文化財専門職員を確保・配 置して、文化財行政の体制の強化に努め、文化資源を 活用していきます。	△	△ 備ボ	△	◎	●	●	●			市
45	既存 継続	庁内連携体制の 強化	専門職員は自分の専門領域だけでなく、庁内の関連部 局・NPO・任意団体と連携しながら、文化資源の活用 をはかっていきます。	△	△ 備ボ	△	◎	●	●	●			市
46	新規	専門職員の人材 育成	文化資源の活用を図っていくために、各分野の専門職 員を配置したうえで、専門職員の専門領域での資質の 向上や関連する業務で適切に連携がとれる人材を育 成していきます。	△	△ 備ボ	△	◎	●	●	●			市

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

備フ：備前歴史フォーラム実行委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

3 関連文化財群の保存活用に関する措置

本項では、関連文化財群ごとの措置を下記の表にまとめました。なお、措置の考え方と重点的な措置については、第5章と同様とします。

【表 7-5】関連文化財群に係る措置一覧表

関連文化財群		既存/ 新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重 点措置
					市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12	
①学びの原郷 関谷学校と岡 山藩主池田家 の遺産	37	新規	学校教育における郷土学習 (再掲)	関谷学校の普遍的価値の調査研究を行い、関谷学校の価値をより広く伝えるために「コミュニティ」「人材育成」などをテーマにした活用方法の検討を進めます。	△	○	○	◎	●	●	●	■
	40	既存 継続	熊沢蕃山の顕彰 (再掲)	熊沢蕃山の教えを SDGs と関連づけた顕彰事業の実施をします。	○	○	△	◎	●	●		
	4	既存 継続	井田跡の総合調査 (再掲)	井田跡の総合的な調査を実施します。	○	○	○	◎	●	●		■
②備前焼を生 み、栄えるま ち	22	既存 拡充	史跡備前陶器跡 の整備 (再掲)	史跡備前陶器窯跡の整備を実施します。	○	○	○	◎	●	●	●	■
	② -1	新規	中世備前焼総合 調査	令和3年度までに行った調査をもとに窯跡の保存・活用 の方法を検討します。			○	◎	●			
	10	既存 継続	備前焼の陶工・窯 元の調査 (再掲)	近代以降の備前焼陶工・窯元 の調査を行います。		△	○	◎		●		
	10	既存 継続	備前焼の陶工・窯 元の調査 (再掲)	現代作家の活動状況の把握 を行います。		△	△	◎	●	●	●	
	11	既存 継続	備前焼宮獅子の 調査 (再掲)	全国の神社等に点在する年 号や陶工名が入っていない 備前焼獅子について実態把握 のための調査を行います。		△	◎	◎		●		
	12	新規	伝統技術の実態 把握調査 (再掲)	竹筆、ろう石加工技術など、 備前市には備前焼以外にも 多くの伝統技術が残されて います。このような未指定の 伝統技術について、実態把握 の調査をします。		△	◎	◎			●	
	33	既存 継続	備前歴史フォー ラムの開催 (再掲)	備前歴史フォーラムのなか で備前焼に関する情報発信 を行います。	○	△	○	◎	●	●	●	

③近代漁業発祥のまちと食文化	③ -1	新規	食文化に関する情報発信	日生地区の歴史や産業を中心に加子浦歴史文化館において情報発信を行っています。これに関連付けて食文化をテーマとした様々な企画を実施していきます	○	◎	△	◎	●	●	●	
	28	既存 継続	文化資源を生かした取組（再掲）	日生地区の歴史や産業をテーマに商品開発等企画を実施・検討していきます。	○	◎	○	◎		●	●	
④中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観	④ -1	新規	八塔寺ふるさと村の総合調査	八塔寺山の南斜面にかやぶきの農家が点在し、農村景観が広がるふるさと村周辺の総合的な調査等を実施し、その魅力を発信していきます。	△	○	◎	◎		●	●	
⑤耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち	⑤ -1	新規	三石地区近代化遺産の総合調査	近代化遺産の保存方法や三石小学校講堂などの文化資源の拠点となる構成資産の整備方法を検討します。	○	◎	◎	◎		●	●	
⑥映画と文学、「心像風景」の残るふるさと	39	既存 拡充	備前市ゆかりの人物の顕彰（再掲）	備前市ゆかりの文学者の顕彰をするため企画展や講演会を開催します。		○	◎	◎	●	●	●	
	25	新規	周遊ルート等の整備（再掲）	映画でロケ地となった場所を活用したツアーの実施、周遊ルートの作成及び発信を検討します。	△	◎		◎		●	●	
⑦交通と流通の要となった地	⑦ -1	新規	「交通と流通」に関する調査研究・情報発信	「交通と流通」をテーマとした調査研究及び情報発信を行います。	△	◎	○	◎	●	●	●	
	13	既存 継続	民俗の総合調査（再掲）	総合的な民俗文化財調査等を通して、地域の成り立ちや備前市の歴史文化の特徴をあきらかにしていきます。	○	○	◎	◎	●	●	●	
	⑦ -2	新規	空き家等活用	備前市空き家等実態調査の結果をもとに文化的価値がある建物や文化的景観の地域指定を活用した支援事業の実施を検討します。	○	◎	○	◎		●	●	

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

第8章 文化資源の防災・防犯に関する課題・方針・措置

文化資源は、市民や文化財所有者等と連携しながら、地震や火災、水害や風害などの自然災害や、盗難などの人的被害への対策が求められます。近年岡山県内では、平成30(2018)年7月豪雨(西日本豪雨)の際、国指定史跡の造山古墳での崩落や、国指定重要文化財の大橋家住宅の土塀崩落など、20件の文化財に被害がありました。令和3年1月には国宝の吉備津神社の拝殿などに削られたような傷を付けられるなどの被害も発生しています。

また、平成31(2019)年度に発生したノートルダム大聖堂での火災や首里城跡での火災などの惨事を受け、文部科学省・文化庁において「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画」が策定され、国宝・重要文化財(建造物)の防火対策及び国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の総合的な防災対策を講じる必要があり、その防火対策ガイドラインが示されているところです。

(1) 想定される災害リスク

備前市国土強靱化地域計画で対象とされている自然災害は、国の基本計画や岡山県国土強靱化地域計画で示されている大規模自然災害を参考としながら、本市の特性を踏まえ、下記の表のように設定されています。

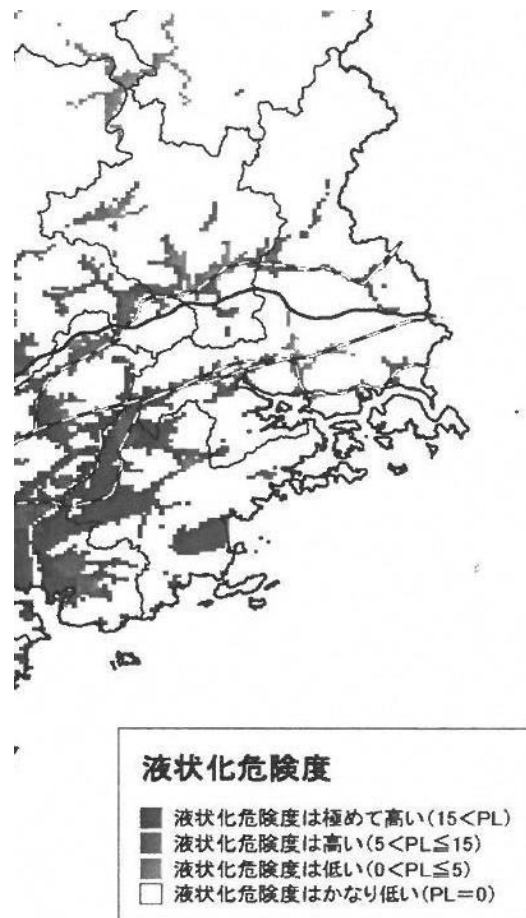
【表8-1】種類別の想定される災害

災害の種類	想定する規模等	本市の災害特性
土砂災害・水害	記録的な大雨等による大規模土砂災害・水害を想定	吉井川、金剛川等の氾濫、山間部の土砂災害
南海トラフ地震及びその発生に伴う津波災害	最大震度6弱を想定	市全域における家屋等の浸水、倒壊、孤立集落の発生等
暴風災害	記録的な暴風による被害を想定	暴風による家屋等の倒壊や停電、倒木による道路の寸断等
高潮	台風による海水浸水被害を想定	人身、建物の被害発生等
内水氾濫	最大規模の降雨による雨水の滞留、排水路等の氾濫による大規模水害を想定	人身、建物の被害発生等
複合災害	大規模地震や大雨による洪水などが同時または連続して発生する被害を想定	上記の複合災害

(2) 南海トラフの巨大地震の被害想定

岡山県においても、この南海トラフを震源とする地震は、約 100 年から 150 年の間隔で大地震が発生しており、近年では、昭和 21(1946)年の昭和南海地震がこれに当たります。すでに、昭和南海地震がおきてから約 75 年が経過しており、南海トラフにおける次の大地震の可能性が高まっています。国の研究機関の試算では、南海トラフ全域で今後 30 年以内の地震発生確率は、70 から 80%とされており、その発生が危惧されるところです。南海トラフ巨大地震による市内の震度分布では、最大震度は 6 弱となっており、最小でも 5 弱が想定されています。

液状化については、岡山県で収集した過去のデータや市の地盤データを参考に危険度分布図が作成されており、市の南部を中心に危険度は高くなっています。液状化被害の予防対策として完全なものは無いため、既存建物等の地盤強化においては、既存建物を維持したまま、その地下部分に施行する必要があるため、空き地に比べて高い対策費用が必要となる場合が多いのが現状です。



【図 8-1】 南海トラフ巨大地震による液状化危険度分布図県想定

津波については、備前市地域防災計画による最大津波高は、2.94m(鹿久居島付近)とされています。また、市内の浸水面積は1m以上が60ha、30cm以上が140ha、1cm以上が180haと想定されています。

建物の被害想定としては、津波による被害が最も多く想定されています。また、人的被害については、季節や時間帯により変動はあると思われますが、津波、建物倒壊、急傾斜地の崩落による死者の想定もされています。

【表 8-2】 備前市の人的、建物被害想定

項目	被害要因	条件等	全堤防等破壊ケース
建物被害(棟)	揺れ	全壊	38
	液状化	全壊	16
	急傾斜地崩壊	全壊	8
	津波	全壊	80
	火災	冬深夜	0
		夏 12 時	1
		冬 18 時	2
	計	冬 18 時の場合	144
人的被害 (死者数)		冬深夜	4
		夏 12 時	3
		冬 18 時	4

(3) 文化資源の防災・防犯の課題

前項でも見てきたように、今後備前市においても、文化資源に甚大な被害を及ぼす自然災害が起こる可能性があります。こうした状況から備前市の文化資源を守るために、山林・河川・道路・消防などの危機管理に関して全庁的な連携を図り、災害に備える必要があります。

火災に関しては、岡山県指定文化財・備前市指定文化財の建造物への防災設備が設置されていないところがあり、設置率が向上していくように、所有者及び管理者に働きかけ、

防火意識の向上を図る必要があります。

さらに防犯についても、文化資源の多くが管理者・所有者がいない場所にあることが多く、盗難の恐れがあります。そのため地域全体で防犯意識の向上を図っていく必要があります。

(4) 文化資源の防災・防犯に関する方針

本市では災害対策基本法の規定に基づき、平成 31(2019)年 3 月に備前市防災会議が「備前市地域防災計画（風水害対策編・震災対策編）」を策定しています。この計画では、災害時の被害を最小限にとどめ、被害の迅速な回復を図る「減災」の考え方を防災の基本理念としており、文化資源の防災に関しては、第 3 章「災害予防計画」第 4 節「各種災害予防対策」第 7 項「文化財保護策」の中で「文化財保護のため、市民の愛護意識の高揚を図るとともに、文化財の適切な保護、管理体制の確立及び防災施設の整備促進を図る」とありそれに準拠して以下の方針を立て、その仕組みづくりをすすめていきます。防犯に関してもあわせて以下の方針を立てて措置を講じていきます。

○災害・盗難・滅失の予防のため文化資源の現況を把握します。そのため各分野にわたる調査データを活用します。

○文化資源を現況把握したデータをもとに、被災・盗難・滅失から防ぐために適切な管理、保管、保存方法を検討します。

○文化資源所有者、市民、行政が情報を共有しながら、地域と連携した防犯・防火体制を検討していきます。

○岡山県文化財保護指導委員による文化財パトロールと行政・市民が綿密に連携をとりながら、文化資源を地域全体で見守りができるよう検討していきます。

○文化財防火デーで行う防火訓練を地域の方々や小学生に見学してもらう機会を設け、地域の防災意識を高めます。

○文化庁により定められた「国宝・重要文化財（建造物）の防火対策ガイドライン」、「国

宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン（令和元（2019）年9月）」及び「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画（令和元年12月）」に基づいて文化資源や文化施設の点検を行い、今後の防火対策に取り組む。

○指定建造物で自動火災報知設備の未設置の管理者等へ消防法に基づき設置を促すとともに、設置済み建造物の管理者へは定期的な点検や日常的管理の指導をする。本事業は補助事業として継続する。

(5) 文化資源の防災・防犯に関する措置

前項に示した方針に基づき、文化資源の防災・防犯の取り組みとして以下の事業を行う。

【表 8-3】文化資源の防災・防犯に関する措置一覧

番号	既 存 /新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重 点措置	予定する財 源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
1～13	既存 継続	文化資源の現 況確認調査 (再掲)	各分野にわたる調査データをもとに文化資源の現 況を把握する。	△	△	—	◎	●	●	●	■	国文 県 市
14	既存 継続	文化資源の保 存・管理(再掲)	岡山県文化財保護指導委員や管理者などが行う文 化財パトロールによる日常点検等で異常があった 場合、異常箇所の確認を行い、管理者等へ指導助言 をします。	△	◎ 備考	○	○	●	●	●		国文 県 市
17	既存 継続	文化資源の防 災意識の啓発 (再掲)	万が一の火災に備えた防災訓練等の実施と、盗難等 の防犯に対応するための施策を検討します。国特別 史跡旧閑谷学校、国指定重文大滝山三重塔、国指定 重文真光寺三重塔・本堂で継続して防災訓練を実施 していきます。	△	◎	△	◎	●	●	●		—
18	新規	モニタリング 制度の実施 (再掲)	文化財パトロールなどを活用しながら数多くある 文化資源を地域住民が見守れるようにします。	◎	△ 備考	—	○		●	●		—

34	既存 継続	地域住民におけるモニタリング制度の実施（再掲）	文化財パトロールだけでなく数多くある文化資源を地域住民が見守れるような体制の構築を検討します。	◎	△	—	○		●	●		—
16	既存 継続	防災設備維持管理事業（再掲）	指定建造物の自動火災報知設備の設置、定期的な点検への補助を行う	—	—	—	◎	●	●	●	—	国文 県 市

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

備フ：備前歴史フォーラム実行委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

(6) 災害・盗難発生時の対応

○自然災害で文化資源が被災した時は、現況を確認の上、関係機関へ連絡し、所有者・管理者と協力しながら、応急措置を行います。さらに自然災害が大規模に及ぶ場合は、平成26(2014)年に設置された岡山県文化財等救済ネットワークに支援・救済要請依頼を行います。応急措置後の復旧に関しては、協力者・助言者、財源の確保等の検討を行います。

○文化資源の火災発生時には所有者・管理者が消防署への通報、初期消火の実施を行います。行政は現況を速やかに確認し、関係機関へ連絡、今後の対応を検討します。被災後の復旧に関しては、協力者・助言者、財源の確保等の検討を行います。

○文化資源が盗難にあった場合には、現況を確認の上、警察署へ通報するとともに、調査台帳のデータをもとに、広域にわたって県市町村へ情報照会を行います。さらに盗難防止の方法を所有者・管理者等と検討していきます。

第9章 文化資源の保存・活用の推進体制

1 推進体制の構築

文化資源の保存・活用を推進するための体制は、表 8-1 に示す庁内体制の整備、市民や専門家、関係機関、民間団体等との連携のもとに推進します。

【表 9-1】計画の推進体制【令和 3(2021)年 12 月 1 日現在】

備前市(主管課)	○教育委員会 文化振興課 文化財係【正職員 2 名(うち学芸員 1 名)、会計年度任用職員(学芸員)1 名】 ：文化財保存・活用に関すること 旧閑谷学校日本遺産・世界遺産登録推進に関すること 文化施設に関すること ※市文化施設 ・備前市歴史民俗資料館【会計年度任用職員 2 名(うち常勤学芸員 2 名)】 ：「備前焼を学ぶ」「備前市の歴史を知る」「文化のまち備前」をテーマに、備前焼や耐火物、民俗資料、文学者など地域の資料を展示。 ・備前市加子浦歴史文化館【会計年度任用職員 3 名(うち常勤学芸員 1 名、非常勤事務補助員 2 名)】 ：温故知新の言葉のように、海と人を活かす町をテーマに生活や産業の歴史の展示。 ・備前市吉永美術館【吉永公民館職員が兼務】 ：江戸時代に生きた郷土出身の漢学者でもあり書家でもある武元登々庵とその弟君立の作品を収蔵。 ・備前市埋蔵文化財管理センター【会計年度任用職員 6 名(うち常勤調査員(学芸員)1 名、非常勤専門研究員 2 名、常勤調査補助員 1 名、非常勤調査補助員 2 名)】 ：埋蔵文化財の保存・活用を図るための施設。発掘調査、出土品の適切な保存管理、調査研究、活用公開などを通して、地域の資産として後世に引き継ぐ。
----------	--

備前市(関係課)	○市長公室 企画課 ：総合計画、人口減対策に関すること ○市長公室 危機管理課 ：消防防災に関すること ○市民生活部 市民協働課 ：自治会、市民活動への支援に関すること ○市民生活部 公共交通課 ：公共交通環境整備に関すること ○産業部 農政水産課 ：里海里山事業に関すること ○産業部 産業振興課 ：伝統産業振興等に関すること ○産業部 文化観光課 ：観光推進、日本遺産を活用した事業に関すること ○産業部 備前焼振興課 ：備前焼振興に関すること ○産業部 都市住宅課 ：都市計画、開発、空き家対策に関すること ○建設部 建設課 ：市道・里道・水路に関すること ○教育部 学校教育課 ：学校教育に関すること ○教育部 社会教育課 ：社会教育に関すること ○教育部 公民館活動課 ：公民館文化講座等に関すること
協議会等	○備前市歴史文化総合活用推進協議会 ：市内の文化財の適切な保存及び活用を総体的な事業及び、地域の文化振興、観光促進等の推進に関すること

	○備前市文化財保護審議会 ：文化財の指定、解除等に関すること 文化財保護に関する調査、審議に関すること ○備前市史跡備前陶器窯跡整備委員会 ：史跡備前陶器窯跡の史跡整備事業に関すること
市内関係機関	○備前観光協会 ：市内の観光やイベント案内・特産品販売、観光振興全般 ○備前商工会議所 ：市内の商工業の総合的な発展を図る ○備前市観光ボランティアガイド協会 ：旧閑谷学校や備前焼の里伊部を中心に、市内各所の魅力を伝える ○備前郷土史研究会 ：市内外の歴史や民俗文化財の研究、郷土の歴史を調査報告 ○備前民俗調査委員会 ：備前市域を中心とした専門家による地域の民俗の総合的な調査
県やその他関係機関等	○岡山県教育庁 文化財課 ：県内の文化財の指定・保護、文化財の普及・活用に関すること ○教育遺産世界遺産登録推進協議会 ：「近世日本の教育遺産」の世界遺産登録を目指すため、近世教育遺産が所在する水戸市、足利市、日田市、備前市が設立した広域連携組織

2 今後の体制整備

本計画に基づく歴史文化の保存・活用を図っていくためには、歴史文化に係る文化財の専門職員の増員だけでなく、学芸員の人材育成や歴史文化に関連する部局との情報共有体制を構築し、文化資源を観光や教育、まちづくりなどへと幅広く展開する必要があります。講座やフォーラムを通して備前の歴史を中心に様々な分野の面からの情報発信を行う「備前歴史フォーラム」や各文化施設での企画展やワークショップを継続的に開催するだけでなく、備前市と包括連携協定等を締結している大学や企業との連携や、地域住民を巻き込みむなど、あらゆる人材を活用しながら、取り組みを進める必要があります。

具体的には、包括連携協定等を締結している大学などの学校機関と文化資源の調査グループを形成し、研究の一環として基礎調査等に関わってもらうなど、若年層による文化資源への関心向上に繋げ、各地域に所在する文化資源の維持管理等の取り組みへの支援や催し等を推進し、備前市の歴史文化を大切に思える人を増やし、それが永続する仕組みを構築できるよう、地域住民をはじめとした様々な人材との連携を図ります。

本計画の作成にあたって組織した「備前市歴史文化総合活用推進協議会」において、必要な団体・機関等を加えるなどしながら、計画の実施に係る協議や連絡調整、計画の進捗管理と見直し等の検討を行います。